

---

# 仮面ライダーBEST×平成ライダー ～ギャグとリイマジとドタバタ耐戦！？～

時流 明日無

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーBEST×平成ライダー　　＼ギャグとリイマジとドタバタ耐戦！？＼

### 【Nコード】

N1945W

### 【作者名】

時流 明日無

### 【あらすじ】

仮面ライダーBESTのキャラも気休めがしたい！！  
という要請を（主に大智から）受けたのでスピンオフでみんなではじめよう！と言う事で、士達も巻き込んでドタバタ大暴れ！  
結局気休めにならないですが…

十枚目よりスピンオフではなく、ギャグ耐戦として生まれ変わりました。

## 一枚目      スピンオフという名の気休めコーナー始めました。

大智「…………orz」

海斗「スピンオフ初回であいつなにやってんの？」

ツバサ「ほら、大智、戦闘描写はあっても、第5話現在、変身シーンが無いでしょ？」

ダイキ「それで落ち込んでるようだ」

麻衣「変身シーンがないのは作者のせいでしょ」

——麻衣、お前はヒロインなんだ、毒舌キャラにならないでくれ。  
海斗「あ…天の声（作者）が聞こえる」

ちゅどーーん！！

麻衣「何！？この昭和臭漂う爆発音！」

???1「ゲフン、ゲフンゲフン…ここは…誰の世界だ？」

???2「コホツコホツ…スクロールに描いてあった絵はなんか無駄にカブトの世界を思い出しましたね。」

???3「ゲホゲホ…ああ、人差し指差しているヤツな。」

???4「グフグフグフ…やあ、君達も来たのかい？ここは仮面ライダーBESTの世界さ！」

海斗「…誰？上の人達。」

??5「奴らは気にするな！」

麻衣「え！？…うつうつ腕が…きゃあああああ！！！！！」

??6「おい！アंक！刑事さんの体に戻れ！」

??7「火野！お前も来てたのか？」

??6「後藤さん！後藤さんもなんですか？」

??8「ゲホツ…おい！フィリップ！何だここは！」

??9「待ちたまえ、翔太郎。僕も今調べているところだ。」

??10「俺に質問するな！」

??9「してねえよ！」

??11「ちよつちよつと翔太郎くん！あの人達！」

??9「あ…あれは…もやし…じゃ無かった！士！士か！」

??1「お前は…翔太郎！」

ツバサ「混沌としてきたねえ」

ダイキ「…の、割に楽しそうだな、ツバサ」

エリカ「…っていうか誰ですか？あなたたち」

海斗「…もしかして…世界の破壊者とその（不運な）仲間たちと現在絶賛放送中だけど、もうすぐ別の仮面ライダーになっちゃう欲望達と放送終了したのに続編が出たポスト電王のハーフボイルド達か！？」

ダイキ「何故お前はそんなに知っているんだ！？」

麻衣「心は少年だから…」

??1こと門矢士「ああ、俺は世界の破壊者、門矢士だ！」

海斗「おのれデイケイドー」

??2こと光夏海「…っていうか写真館はどこですか！？」

麻衣「もしかして…あれですか？さっきまで無かったのに急に建ったんですが…」

夏海「それです！良かった…」

？？3こと小野寺ユウスケ「良かったね、夏海ちゃん」

？？4こと海東大樹「僕達は分かるけど、何故w君やooo君もいるんだい？」

？？5ことアंक（と一緒に泉刑事もつれて来ました）「ふんっ知るか！」

？？6こと火野映司「なんかタトバ色のオーロラが…」

？？7こと5103「否、後藤慎太郎「俺も会長のケーキを食べてたら…」

？？8こと半熟卵「否、左翔太郎「コーヒー飲んでたら…」

麻衣「あれ？この人、イケメンパ…」

海斗「言っちゃだめ!!」

？？9ことフリリップ「検索中だったのに…」

？？10こと照井竜「左と会話してたら…」

海斗「…そこは「俺に質問するな！」が聞きたかったな…」

？？11こと鳴海亜季子「竜くん優しくなったから…」

海斗「でも、何故ここに？」

――俺が呼んだ。

全員「…は？」

麻衣「ワンモアプリーズ」

――俺が士達を呼んだ。

照井「…絶望がお前のゴールだあッ!!」

アクセル！

――あゝまで！暴れるな！

士「天の声（作者）は…俺が潰す！」

夏海「士くん!？」

映司「俺の明日を洗濯してたのに…邪魔しやがって…!!」

プテラ！トリケラ！ティラノ！プットティラノザウル〜ス！  
アंक「映司！？」

―――まてえ〜〜〜！

―――

ツバサ「数分後」

天の声（作者）「…あれが…三途の川…」 半死

海斗「えっと天の声はスピノフは番外編なんだしギャグでいいよね、って事で呼んだらしいよ」

辰巳シンジ「俺も呼ばれた」

剣立カズマ「俺も」

尾上タクミ「…ぼっ僕も…」

アスム「師匠！」

海東「少年君！」

ワタル「感動の再会ですね、ウザいくらいに」

キバット「ワタル！？それは無いぜえええ！」

モモタロス「あれ？カメたちは？」

―――キヤラ増えすぎたらウザいからな。呼んでない

芦川シヨウイチ「なら、俺を呼ぶなあ！」

天堂ソウジ「ん？」

士「なんでリイマジネーションが…と言いたところだが…本来ソウジはクロックアップの世界に閉じ込められているはずなのに…なんでいるんだ？」

ソウジ「さあ？」

―――あゝ、クロックアップの世界にいたらギャグにならないじゃ

ん。だから特別に引き摺り出した ま、この世界で直して帰えた  
ら？

ソウジ「だ、そうだ。」

ツバサ「…いや、直すのはいいんですが…」

ダイキ「…おい、天の声、アレみる。」

……ん？

BEST「そんな暇あるならな…そんな暇あるならな…

俺に变身させるオオオオオオオオオオオオ！！」

BEST Final Attack - Card Charge！

……え！？ちよつ、まって！？

3 . 2 . 1 .

BEST「ライダー…キック！！！！」

Go！！

……うぎゃあああああ！！

……

士「…俺、この世界に来たく無かったかも…」

## 二枚目 親交を深めよう！ボーリング大会 其の1

海海コンビ「みんなでボーリングしない??」

大智「何故だあ!??っていうか名前に海がつく同士仲イイな!??お前ら!」

海海コンビ「いえす」

海斗「だってね、ほかの世界の仮面ライダーたちと親交を深めるなら…」

海東「ボーリングが一番かな?ってさ。」

士「…大体分かった。…よし、みんなでボーリング行くぞ!」

ライダーズ「「「おー!」」」

ツバサ「…僕達は見守ろうか?フィリップ君。」

フィリップ「だね。」

ちなみに、ダイキとエリカオマケにアंकは研究所に残り、ツバサ、フィリップ、麻衣、ワタルは見学となりました。

—————

「……」と言うわけやってきたのは渚沙市で一番大きなボーリング場、アシカボーリング。しかも貸し切り。

海斗「ちなみにチーム対抗戦にするよ!」

海東「チーム分けはこちら!」



学生チーム〱尾上タクミ、アスム、高見大智、一之瀬海斗〱

W&a m p ; o o o チーム〱左翔太郎、照井竜、火野映司、後藤慎太郎〱

もやしチーム〱門矢士、光夏海、小野寺ユウスケ、海東大樹〱

龍+虫チーム〱辰巳シンジ、芦川ショウイチ、剣立カズマ、天堂ソウジ〱

イマジンチーム〱モモタロス、ウラタロス、キンタロス、リュウタロス〱

海東「あ、そうそう、ルールは普通のボーリングと一緒にんだけど、玉壊したり、ピン壊したり、玉以外でピンを倒したらNOカウント！」

海斗「ちなみに、変身して投げるのは1ターン限りだよ」

大智「…それ、他でも無いお前が不利じゃ無いか？」

海斗「いや？俺、バース借りるから。」

後藤「貸すのはいいが、訓練受けてないと使いこなせ…」

海斗バース プレストキャノン装備「セルバーストかますぞ」

後藤「…すいませんでした！！」 土下座

海東「そして、優勝チームには素晴らしいお宝があるから頑張ったまえ！」

海斗「最下位のチームは…楽しみだね。」

全員「…アンタナニヲヤッタダー！！！！！！」

海東「さあ、練習を始めたまえ！」

ツバサ「さあ、始めました、「親交を深めよう！ボーリング大会！」…略してボーリング大会！」

翔太郎「略してねえじゃん！」

フィリップ「実況席に近いからってツッコまないでよ、翔太郎。」

翔太郎「はあ！？誰でも突っ込むだろ！さっきのわ！！」

ツバサ「実況担当は、僕、ツバサが！」

フィリップ「解説は僕が務めるよ」

全員「「鬼進行！？」」

シヨウイチ「ボーリングかあ…：署内のボーリング大会以来だなあ

…」

ソウジ「俺はクロックアップの世界に閉じ込められてたから久々だ…」  
「…」  
「…」

シヨウイチ「オイオイ、ここでおでん作るなよ！」

シンジ& amp; カズマ「おでんうつまー（、、）」

シヨウイチ「食うなよ！和むなよ！」

ソウジ「【天堂屋】自慢のおでんだからな。シヨウイチも食うか？」  
シヨウイチ「誰が食うかあああああ！！」

ツバサ「おっと、ここで芦川シヨウイチ氏のツッコミが決まりましたね。」

フィリップ「おでんうまー（、、）」

シヨウイチ「お前も食うなああああああ！！」

翔太郎「風都署ではボーリング大会あるのか？」  
照井「年に一回」

翔太郎「Bestスコアは？」

照井「…俺に質問するな」

翔太郎「は？」

照井「俺に質問するなあああ！！！」

海斗「来たああああ！！！！（＾o＾）／」

フィリップ（態度でまるわかりだね…）

後藤「火野！ボーリング経験は？」

映司「旅に出てからさっぱりです」

後藤「だよな…」

翔太郎「後藤慎太郎、」

後藤「左翔太郎、」

W太郎「俺たちが頑張るぞ！」

モモタロス「俺、参上！」

ウラタロス「ちなみに僕達は天の声の力でこの大会限定で実体化されたんだ…その君！」

麻衣「はい？」

ウラタロス「可愛いね…これがおわっ」

大海「貴様ムツコロス！！！！」

ウラタロス「う、うわあああああ！！？」

士「…このチームが一番まともな気がするの俺だけか？」

ユウスケ「大丈夫だ、士！おれも思った！」

士「ちなみに俺はボーリングの腕前は普通だぞ」

ユウスケ「俺も普通」

夏海「私も普通です」

海東「…戦力は僕だけかい？」 orz

タクミ「アスム君ボーリング経験は？」

アスム「いつ、一回だけ…ザンキさんとテンキさんとの三人で…」

大智「そういうタクミは？」

タクミ「僕は友達付き合いで何回も…。あ、あと由里ちゃんと…」

大智「もういい。分かった」　ちなみにそこそこ上手い

海斗「このチームはタクミ君が主戦力だな」　ちなみに普通

ツバサ「次回！開幕！ボーリングゲゲル！」

ユウスケ「ゲゲルじゃないだろ！？」

### 三枚目 親交を深めよう！ボーリング大会其の2

前回のあらすじ、海海コンビの発案で親交を深めよう！ボーリング大会！が始まった。

――――  
海東「じゃあ、始めようか。麻衣くん。」

麻衣「はい！それでは、さっそく始球式を始めたいと思います！  
投げてもらうのは…ワタル君です！」

ワタル「…行きます！はっ！」

ガコンガコン！

ストライク！

ハッピーバースディッ！！！！

後藤「何故鴻上会長の声なんだ！？」

ツバサ「声は気にするな！」

麻衣「でわみなさん！がんばってくださいーい！」

全員「「おー！！」「」」

ソウジ「でん！」

シヨウイチ「勝手に付け加えるなあああ！！」

――――  
ツバサ「さあ、始めましたボーリング大会！実況は私、ツバサが」  
フィリップ「解説は僕と」

園咲若菜「園咲若菜がお送りします」

シヨウイチ「なんか増えてる！？」

翔太郎「っていつかなんでここに若菜姫が…天の声か」

――最初に言っておく、園咲若菜は呼んでない、しかも俺も想定外だ。

○

全員「「「アンタドコカラヤツテキタ!？」」」

「――本当に、どこからやって来たんだ!？」

若菜「え！？ヒーリングプリンスの収録後、空間が裂けて来人に「面白いものが始まるからねえさんも来なよ」って言われたから……」

翔太郎「フィリップが空間を裂いたのか!？」

「フィリップ、いくら僕でもそれは不可能だよ、翔太郎。空間を裂いたのはコレだ」

ツバサ「僕だ」

ツバサは自ら拳手をした。

翔太郎「教えてくれ……お前のロボットは常識とか定理とかは無視なのか？」

大智「まさか！俺の親父に限ってそんな事はない！」

フィリップ「その通りだ、翔太郎。人知を超えた、まさにミラクルが起きたんだよ」

翔太郎は泣きそうな顔をしながら先ほどから目をこすりまくっている大智に尋ねたが、相棒にまでありえない現実を直視させられた。

哀れ、  
ツツ  
コミ。

「――思ったんだが、園咲若菜姫は実況の方に座るべきで無いか？  
照井「俺に質問するな、俺に質問するな、俺に質問するな、俺に質

問するな俺にし…グヘブツ!？」  
シンジ「煩い」

ツバサ「若菜姫はどうでもいいから早くみんな投げ無いか？」

士「お前が言うな！元凶ううツ!!」

翔太郎「お前が狂わせたんだぞおおおお!!」

ソウジ「とうっ!!」

がらがらんがら!

スピア!ハッピツバースデイツ!!!!!!

シヨウイチ「普通にプレーするなああああああああッ!

!!!!!!」

人知を超えたロボットが鬼進行を見せ、リア充?破壊者と半熟卵探偵が叫び、フリーダムおでん屋の息子が投球し、リア充超能力者が大音声で叫ぶ…

それを見ていた大智は思った…

今のこいつらにカオス達が目をつけたら、渚沙市は一日で崩壊する…と。

-----

天の声「ここで、どのチームが優勝or最下位になるか皆さんの意見を聞きたいと思う」

麻衣「ちなみに作者もまだどこが優勝か最下位か分からないそうです」

ワタル「当てても特に賞品がある訳で無いですが、コメントに予想ランキングを投稿して頂くと幸いです」

ツバサ「ちなみに投稿して頂いた予想ランキングが全部外れた人にはなんと！ワタル君（13歳）による公開処刑かフリーダムおでん屋の息子による尻キックか左翔太郎の熱血ハードボイルド講座かを受けてもらう！！」

全員「それは止めるおおお！！」「」

翔太郎「俺はそれしてもイイぜ！」

フィリップ「翔太郎、『熱血』の時点でハードボイルドじゃ無いって事に気付くべきだよ」

天の声「ちなみにフィリップの予想は？」

フィリップ「検索中だ」

ツバサ「僕の予想は、

イマジン最下位

もやし四位

W+ooo三位

学生二位

龍+虫一位

だよ」

映司「皆さんの投稿お待ちしてます！」



## 四枚目 親交を深めよう！ボーリング大会其の3

前回のあらすじ、なんか知らないけどボーリング大会が開幕した。

――――  
士「色々あったけど総てを破壊してやるぜッ！！」

ガコンガラン！

6ピン！

シュッ！

ユウスケ「シュッ！って何！？シュッ！って！」

士「大体分かった、響鬼のヒビキさんがよくやるあのポーズだ！」

ツバサ「あ、言い忘れてたんだけど、2ゲームするからね？」

フィリップ「1ゲームだとあっさり終わるからね」

天の声「3ゲームはしつこいだろ？俺もこの企画飽きたし」

全員「」「飽きるなよ！作者！」「」

――――

（学生チーム）

大智「……今まで俺達、軽く仮面ライダークウキになってたよな？」

海斗「あ、それは！？」

タクミ「言っちゃダメ！ユウスケさんが聞いちゃったらまずい！」

アスム「いや、もうユウスケさんがもの凄い勢いでこちらに……」

クウガRU「誰がクウキだああああ!？」 何気にライジングアルティメット黒目

大智「ゴフウ!？」 RUに思いつきり殴られたため10m離れたボーリング場の壁に突き刺さる

麻衣「大智イイイイ!？」

海斗「大智!大丈夫か!？」

大智「なっなんとか!？」

全員「「いや、大丈夫なのかよ!？」」

BESTの世界の住人「「だって大智だもん」」

大智 アスムに引っこ抜かれた「行くぜ! 俺が一番になる者だああ!！」

ガコンガコン!

ストライク!

ハッピーバースディッ!!!!

タクミ「軽く恨みが混じったストライクですね」

アスム「でもあれは自業自得でしたよ!？」

海斗「思っただけ、ボーリングの玉をさ、サイドスローで投げてもいいのかな?」

タクミ(17歳)「さあ! ? ? ? 言うか投げれますか?」

アスム(13歳)「鬼の修行している僕でもこの玉サイドスローは無理ですよ?」 アスムの玉50ポンド

全員「「いや、みんなまずその玉持てないから! ! ! ! !」」

ショウイチ「つていうかどこから持ってきた? それ」

アスム「受付にありましたよ?」

ショウイチ+土+翔太郎「「ドーナッテンノ! ? このボーリング場! ! !」」

海斗「とりあえずサイドスロー行くぜ！」 9ポンド

ガラランガララン！

9ピン！

名護さんは最高です。

ワタル「！？」

士「大体分かった、キバの紅渡だな」

カズマ「っていうか普通にサイドスローでしかもカーブかかって9ピン！？」

ソウジ「名護さんっていうか海斗さん最高ですだな」 おでんの具材追加投下

シヨウイチ「だから、おでんをつくるなあああああ！！」

シンジ「うつまー（、、、）」

（イマジンチーム）

モモ「なんだ、これ？」

ウラ「みんなキャラ濃すぎるよね…」

モモ「俺達ってこんなにキャラ薄かったか？」

リュウ「他が濃すぎるんだと思うよ？ねー」

シンジ「ねー」

モモ「おい、なんでシンジいるんだ！？」

シンジ「うっさい、所詮桃の身分で」

モモ「な！？」

キン「おでんうまいのう！」

ソウジ「だろ？」

シヨウイチ「お前も喰うなあああ！！」

――――――――――  
映司「よっと」  
がこん！

2ピン！

行きますよー！

翔太郎「なんだ！？この音声！」

フィリップ「これは、仮面ライダーアギトの津上翔一だよ、翔太郎」  
若菜「いままでの見ていると、1〜9ピンまではクウガ〜キバのオリジの主演の一言が聞ける様ね」

ツバサ「ストライクとスぺアは鴻上会長みたいですな」

ユウスケ「…と言う事は…1ピンだと五代さんか！？」

士「あくまで勝負なんだから試すなよ！？試すとしたら二投目でどう頑張っても1ピンしかとれないときにしろよ！？」

ユウスケ「いけっ！」 3ターン目一投目

士「人の話を聞けええ！！！」

がこん！

1ピン！

おやつさああああああん！！

ユウスケ「！！？」

翔太郎「俺！？」

フィリップ「これは興味深い。たまにKYな人物のセリフが混じるみたいだね。」

士「それを早く言えええ！！！」

翔太郎「俺KYなの！？」

クウガRU「翔太郎おおお！！！」

翔太郎「え！？ちょ！？まっ！？ぎゃーす！！！」

—————

照井「おりゃ！」

がこん！

ガーター

もういいだろう翔太郎。早く帰ろうよ？

翔太郎「……」 半死

士「翔太郎！？」

ユウスケ「ちなみにさっきのガーターのセリフはWがシャドームーンを倒した後のフィリップくんのセリフだね」

アスム「ユウスケは鬼ですか！？」

タクミ「鬼が言った！？」

――――

後藤「バースッ！」

翔太郎「いや、おかしい！おかしいぞその気合いの入れ方！！」  
復活

後藤「バースッ！！」

ガコンガコンバコン！

ストライク！

やるねえ、後藤ちゃん！

後藤「！！伊達さん！伊達さああああああん！！！」 一緒に  
来れなかった伊達さん思い出した

伊達「どうしたの？後藤ちゃん」 おでん喰いながら参上

後藤「だてさあん！！」

シヨウイチ「ってお前もかあ！」

フィリップ「なんで彼はここに！？」

天の声「いや、後藤がカズマみたいにうえいうえい言い出す前に呼

んでおいたほうがいいかな、と」

カズマ「俺うえいうえい言ってないよ!？」

士「うえいうえい言うのは剣崎の方だ!」

カズマ「うえい!」

ソウジ「あ、言った」 伊達におでんのお代わり渡ししながら

伊達「うまいねえ、これ」

翔太郎「っていうか、ボーリング大会はどこ行ったあああああああ  
あ!?!?!」

## 五枚目 親交を深めよう！ボーリング大会其の4

天の声「……orz」

大智「バースの歌聞きながらなにやってんだあいつ」

海斗（T T）

大智「うえっと！こつちも泣いてやがる」

麻衣「泣いてる理由は…」

伊達「どうしたの？そんなにしよげて？」

天の声＋海斗「うわあああああああああん！！！！伊達さああああああん！！！！」。。。（ノ、）。。。

麻衣「海斗！？作者！？」

伊達「おゝ、よしよし」泣いた元凶

大智「あんたなんで驚かすに対処出来るんだ！？」

伊達「とりあえずみんながよんでるから戻ろうな？」

親伊達組（海斗＋作者）「うえい！」

大智「そして『新』じゃなくて『親』なんだな！？」

—————

ツバサ「ボーリングのわりに長く無いかい？」

フィリップ「みんな自由気ままだから仕方ないんじゃないかな？」

全員「……お前らがいうなあ！」「」

天の声「ソウジさんのおでんうつまー（、、）」

ソウジ「お代わりいるか？」

ショウイチ「和むなあああ!!」

天の声「だって飽きたし」

ソウジ「飽きたらしいぞ?」

ショウイチ「飽きるな、作者ああああああ!!」

-----

士「変身1ターン限りいいんだからやってみるか」

Kamen Ride DECADE!

デイクイド「変身したはいいけど、このままで投げるのか?」

海東「いや? F A R してデイメンションキックで球をぶっ飛ばしてもいいんだよ?」

デイクイド「壊れるんじゃないか? この球」

海東「そこらへん大丈夫みたいだよ? なんか仮面ライダーがいつぱいいる街の天堂ソウジにそっくりだけどその街の天堂ソウジと性格が思いつきり違うワームとそいつの漫才の相方で、芦川ショウイチに似ている鬼が共同でつくった球らしいから」

ユウスケ「なんでわざわざそんなところから!？」

デイクイド「大体分かった。詳しく知りたいやつは「おいでよライダータウン!」で検索だ!」

ユウスケ「何気に宣伝!？」

デイクイド「物は試し、やってみるか」

Final Attack Ride DE・DE・DE・D  
ECAED!

デイクイド「はぁー! ツー!!」

ばこーんと弾け飛んで行く球

少し軌道はそれたが、そこは風圧でどうにかなり…

がこー! ー! ー! ー! ー!

ストライク!!



ハッピーバーズデイツー！！

士「いえーい！」

ユウスケ「いえーい！」

海東「だけどよくピンのところに行ったね。ノーコンだと…ほら」

海東が指を刺した方を見る。

そこにはカズマがorzの状態で死んでいた。ちなみに球を投げた（というか蹴り飛ばした）芦川ショウイチだった。

香気に卵を口に頬張っていた辰巳シンジさん（25）の証言によると、

「ほひはわほーひひはんはひほほふはほほーふひはっへ、ひっふははひはんはへほ、はへははふはほほーひひっは」

つかユウ「人の言葉を喋れ！！」

仕方ないのでソウジに翻訳してもらった。

ソウジ「『芦川ショウイチさんはアギトのグランドフォームになって…ズズズ…キックをかましたんだが、何故かカズマの方にいった』だそうだ」 おでんの汁の味見しながら

ショウイチ「カズマすまーん！！！」 超全力土下座

カズマ「うえい…」 球（無傷）を抱えながら放心

ユウスケ「カズマーーー！！！！？」

士「球強度強ッ！？」

シンジ「こゆときは…ホッ」 おでんの卵を箸で掴みながら投げる

カズマ「はぐっ！？」 口にナイスイン！

ユウスケ「何故投げたー！！？」

士「コントロール良過ぎじゃ無いか！？」

カズマ「…モグモグ…ウマーー！！」 復活

ユウスケ「カズマ何者！？」

シンジ「カズマね、おでん（ソウジさんのならなら良し）の卵が大

好物なの」

士「それカズマ復活理由になるか!？」

カズマ「うえい!うえい!うえい!」

ソウジ「カズマにもっとライフエナジー（おでんの卵）を」分  
かった、分かった、はい」

カズマ「ウツマー（、、）」

伊達「カズマ、イマドキの子にしては強いねえ。…ステキッ!」  
後藤「伊達さん、感心してないでカズマを一応診察してもらえませ  
んか?」

伊達「オツケイ、後藤ちゃん、任せときなd（^| ^o）」

~~~~診察中~~~~

伊達「うーむ…」

シヨウイチ「かつ、カズマは!？」

伊達「…あのな…」急に眉間にシワ

シヨウイチ「まっまさか…」

ユウスケ「かつカズマ…」

伊達「…このボーリングの球、隅からすみまで見回ったけど、どこ  
にも傷が無いんだよね」

ドタバタガシャンドンガラガッシャン!!!

全員（おでん屋とおでん喰ってる人除く）がこけた。

後藤「違います!カズマの方です!」メガダブリュー構える

映司「ちゃんと診察してください！！」　ディエンドライバー構える  
海東「　いつの間に僕のディエンドライバーを！？」

全員（（映司、泥棒になれるんじゃないかな？凄腕の））

伊達「診察ちゃんとしたって！ま、器具が少ないから完全には言えないけど、目立った怪我、身体内部への影響は無かったよ」

全員「「「良かった」」」

翔太郎「いや、よく無いだろ！逆に怖いわ！」

シンジ「カズマだから許されるんじゃない？一説にはカズマは拳銃の弾さえ貫通出来ないらしいよ？」

リイマジ全「「「アランダニヤニモーニヤンディスカー！？」」」

残り全「「「ウソダンドドコードーン！！」」」

カズマ「うえい！？（。°。111）」

ツバサ「大波乱としか言えない混沌！！そして進む気配の無いボ－リング大会！果たしていつ終わる！？」

天の声「zzzz…」

## 六枚目 親交を深めよう！ボーリング大会其の五

今までのあらすじ、

ま、ぶっちゃけ、ボーリング大会やってます。

翔太郎「手を抜くな、作者！」

――――

芦川・剣立事件のあと、

芦川が切腹しようとしたり、

大智がまたクウキ発言してユウスケライアルに殴られて天井に突き刺さったり、

伊達さんがいなくなった（原因トイレ）ため後藤と海斗と天の声を取り乱したり、

ユウスケがライアルで球を投げたらボーリングの機械が壊れたので違うレーンにうつったり、

Wがジョーカーエクストリームで球を蹴ろうとしたらサイクロンの一撃だけで吹っ飛んで、メインの翔太郎が落ち込んだり、

辰巳シンジが寝たり、

天堂屋アシカボーリング出張店が予想外の大盛況だったり…

ま、とくに何も無いまま1ゲーム目終了。

翔太郎＋士＋シヨウイチ＋大智「「問題ありすぎだろおおおおおおおお！！！！」」

天の声「誰につつこんでんだ？」

Wシヨウつかだい（ようするにさっきの四人）「いや、お前が書いたナレーシヨンだよ！！」

と、まあ、ツツコミ病におかされてる人がいるが気にしないでおう。

ツツコミ病患者達「「ライ！！」

――――

長い、長い1ゲーム目を終え、みんな一度休憩をしていた。

士「中間発表とか無いのか？」

ツバサ「ないですよ？」

士「普通あるんじゃないか？」

ツバサ「相手がどんだけ点をとったかモヤモヤしながらプレーしやがれの方針です」

いつもならここで「そんなのありか！？」だの突っ込みが飛ぶが…

士「あ、そうなのか」

ユウスケ「士がおかしい！？」

結局ユウスケがつつこんでいた。

士「いや、もう、突っ込む気力がない…」

ユウWシヨウ大「頼むからツツコミに戻って！！」

ソウジ「とりあえず、おでん食うか？気力回復に」

ユウスケ「ソウジさんのおでんの効用すげっ！」

ソウジ「はっ…そんなに万能じゃないさ。ただ、体力及び気力回復、傷回復、戦いのコンディシヨンUP、運UP、不運ダウン、カズマなら半死から蘇る、シンジなら睡眠効果、シヨウイチなら六割

の確率でDM化、あと、そうだな、恋愛が成就する」

ユウ翔大「……万能超えてる……」

シヨウイチ「……ってか俺への効果最悪だあああああー！  
……」

モモ「頼む、良太郎のために作ってくれ、いや、作って下さい！」

――――

伊達「相変わらず、美味しいなあ……」

ソウジ「ふっ……そりゃ、おっ」

伊達「でもさ、やっぱりおでんは具が多く無きゃ」

ソウジ「……伊達、お前の頭にもう一度弾丸いれてやろうか？」 力

ブトクナイガン装備

親伊達組（海斗、後藤、天の声）「……ヤメテ！ヤメテ！」

大智「あれ？なんか増えてるぞ？」

映司「気にしないほうが勝ちだよ、大智。」

伊達「でもさ、おでんはいろんな具材があって、みんながみんな輝くように作るもんだろ？」

ソウジ「天堂屋の味は家族の味。他ではマネ不可能な最高調和の味だ。この3つが減っても増えても成り立たないんだ」

伊達「じゃ、個人的に具たくさんを頼む」

夏海「あ……言っちゃいましたね……」

士「ああ……」

シヨウイチ「全員退避！！退避せよ！」

全員「……ラジャー！」

ボツ（これ以上言葉に言い表せないなので脳内でご想像下さい）

伊達「」意識不明  
ソウジ「」意識不明

大智「…とりあえず、起こそうか」

シンジ「だな。ソウジさん、おでんが煮えたぎってます」

ソウジ「はっ!？」

大智「伊達さん、具たくさんおでんをそうじさんが作ってくれる  
そうです」

伊達「おでん!!」

士「いや、無謀な約束だろ!!それ!!」

海東「それでも無いみたいだよ?」

ユウスケ「なんで?」

海東「あちらをご覧下さい」

全員海東がしめす方を見る。

そこには…

天道「俺は天の道を往き総てを司る男だ」  
津上「ここですかー!!リイマジの皆さんがいるのは」

全員「「「またまた来たああああ！！！！」」」

士「「「しかも何気にオリジの料理上手二人だし」

ユウスケ「「「何気にリイマジでは三十路コンビだし」

大智「「「何気に津上さんあげぼやだし」

シヨウイチ「「「アギトが2人いいいい！！？」」

一人、悲鳴のような物が聞こえたが、彼らが、ここにいる理由はすぐに分かった。

ツバサ「「「あ、やっと来た」

全員「「「またお前かああああ！！！！」」」

またしても犯人は大智の父親が科学技術の粋を集めて作ったロボット……又の名を歩く人知を越えた爆弾というものの仕業であった。

フィリップ「「「君達、オリジナルのカブトとアギトだね？ちよつと具

だくさんおでん作って欲しいんだけど」

天道「「「ああ、わかった。おばあちゃんが言っていた……人に頼まれた限り、全力でもてなせと」

津上「「「じゃ、ウチの畑でとれた野菜を！」

つかユウWシヨウ「「「勝手に話まとめるな！しかも用意良すぎ！」

「」

こうして、天道と津上の二人がおでんを作る事になった。

ちなみに天堂屋はソウジさんの懸命な努力でいまだ健在である。

ツバサ「「「次回はボーリング大会一回脱線します」

全員「「「え……！！？」」」



## 七枚目 海海コンピと大喜利とフリーダム

海東「えーっと、第二ゲームは現在進行形で行われているんですが……」

海斗「1ゲームでみなさん疲れ切ったためあまりに単調過ぎるので今回は簡単な大喜利をして逝きます」

翔太郎「おい、また漢字が違うぞ！」

――――

海斗「ルール説明」

海東「僕達がお題出すから答えていけばいい！」

全「「お前らは答えないのか!?」「」」

海斗「うん」

海東「出題が忙しいからね」

全「「せこつ!!」「」」

海斗「ちなみにいまのボーリングのチーム継続！」

海東「最初は座布団がわりのピンが五個あるからそこから大喜利ルールで増えたり減ったりして一番多いチームの勝ち！」

海斗「一番少なかったら……ふふふふふへへへへへ!!……!!」

全「「なんかあいつヤバイ!!」「」」

海東「最初のお題はこれだ！」

お題・「これ絶対倒せないだろ！」思わず誰もがそう唸るピンは？

士「おつしゃあ！」

海東「はい、士」

士「全部のピンがアフリカゾウ！」

海東「……」

海斗「……」

夏海「……」

ユウスケ「……」

アスム「……」

ワタル「……」

ショウイチ「……」

カズマ「……チーズ……」

モモタロス「いくらなんでもなあ……」

ソウジ「……」 ポタージュ作りながら

シンジ「……」 おでん食べながら

士「何故黙る！？」「

ユウスケ「若干名あやしかったが……」

翔太郎「とにかくそれでイケると思ったお前がスゴいわ」

海斗「ツバサ、2ピン持って行きなさい」

ツバサ「3ピンだろ」 持っていく

士「ウソだろ！？」「

リュウタロス「はい、はい、はい……」

海東「はい、リュウタ」

リュウタロス「先頭のピンが和田アキ子！」

翔太郎「たったしかに倒せない……ってか投げられない……」

海斗「ベターだけどなかなかだな、1ピン獲得」

ツバサ「はいはい」

リュウタロス「やったー！」

大智「あ……思いついた」

海斗「はい、大智」

大智「……ピンがソウジさんのおでん……」

士「無理だ〜！死ぬ覚悟無きや無理だ〜！！」

シヨウイチ「それするとさっきの伊達以上になるぞ！」

海東「1ピン獲得」

ツバサ「…ピン運びダルいな」

映司「あ、はい！」

海東「はい、オーズ」

映司「…キヨちゃん×100がいる」

翔太郎「不気味！！」

映司「さらに真木博士がキヨちゃんを制作している」

士「怖えっ！」

海斗「確かに投げにくいな、俺なら投げるけど、1ピンかな」

ソウジ「ん！」

海東「ソウジさんどうぞ」

ソウジ「……おばあちゃん、W八代刑事、羽黒レン、チーズ、ヒビ

キさん、由里、良太郎、オトヤがピン」

リイマジ全「……うぐっ！！！！」

士「あーと、これは大ダメージだな」

海東「多分これに勝る解答は無いよね」

海斗「ソウジさん3ピン！」

-----

海斗「次のお題はコレ」

お題・フォーゼがスイッチ・オン！しかし誰もが驚愕！？その武器とは？

カズマ「あ、はい」

海斗「どうぞ」

カズマ「全身にシンケ ジャーの大いなる力が…」  
ショウイチ「 仮面ライダーとの夢の共演!？」

士「いや、それは俺がしたぞ」

シンジ「真っ白がゴチャゴチャになるね」

タクミ「っていうか何故シン ンジャー限定!？」

カズマ「なんとなく」

海斗「でもあんまり面白く無いから、1ピンね」

カズマ「うえーい」

後藤「はい」

海東「はい、バースくん」

後藤「メダガブリューを足に装着」

士「 なんてそこ!？」

映司「さらにシャウタのウナギムチを両手装備!」

全「「ヤメテ!？」」

海東「 あーっとこれはエグい!」

海斗「2ピンかな」

津上「なら、はい!」

全「「あんたも参加してんの!？」」

海東「ちなみに得点は津上チーム（津上、天道、日高、ヒビキさん紅渡）に入るよ」

ヒビキ「よう、青少年達シュッ」

渡「…お邪魔します」

全「「いつのまに呼んだ!？」」

津上「とりあえず、答えますよ」

海東「はい、アギト」

津上「…まな板とー、包丁とー、フライパンとー、おたまとー…」  
士「調理グッツ!？」

津上「フライ返しとー、ボウルとー、鍋とー、皿とー、菜箸の…」

調理器具コンプリート!!」

……。

全「「「は!？」」「」

津上「え?だから調理器具コンプリートですよ」

士「…大体分かった、フォーゼとディケイドコンプリートフォームを勘違いしてるな?」

津上「あ!？違いました?」

海斗「でも面白かったから3ピン!」

津上「やったー!」

海東「次のお題はコレ」

お題・おもわず破壊者も驚愕!もやし達が訪れたまさかの世界は?

士「ちょいまで!こらあ!」

アスム「いまさらもやし発言につっこんでも意味無いと思います」

ワタル「これ、なかなか難問じゃ無いですか？」

フィリップ「どんな風に驚愕なのかが重要だからね」

全「……うん……」

ツバサ「なかなか答えが無いから次回までの宿題ね」  
士「次回もこれかよ!？」

ソウジ「そうい!！」

ガコンガコン!!

スぺア!

ハッピーバースディツ!!

全「……あ、主旨忘れてた……」

ショウイチ「つかアイツフリーダム過ぎるだろ……」

## 八枚目 火野映司の火野映司による火野映司の悲壮

前回のあらすじ、大喜利なう。

海東「みんな、宿題を各チームひとつ提出してね！」

全「「え！？発表形式じゃ無いの！？」「」」

海斗「…いやならいいよ？ただ、従わないとコレだから…バン」

G・O1ショットで鳴滝撃つ

鳴滝「おのグフウ！？」 即半死

全「「出します！出させて下さい！」「」」

大智「…みんな腰低いな」 事情を予め聞いていた人

麻衣「…海斗すごい…」

海東「ちなみに彼らが作品を出してくれたよ！」

もやしチーム…光夏海

リユカブチーム…辰巳シンジ

学生チーム…尾上タクミ

イマジンチーム…モモタロス

オリジチーム…津上翔一

ダブオーチーム…火野映司

土「ちよいまで、火野達のチームの略がガンムみたいだぞ！」

ユウスケ「…それよりもヒビキさん達が来た意味なかった件について…」

翔太郎「そんなユウスケはあちらをご覧ください」

ユウスケ「へ？」

アスム「この前武者童子がでまして…」  
ヒビキ「あー、ややこしいかったでしょ？」 鮎の塩焼き作りながら  
アスム「やつぱり童子とかは攻撃しにくいですよね…人間みたいな  
形で…」 薪追加しながら  
ヒビキ「だよね…」ところで、紅にはなれるの？」  
アスム「絶賛修行中です！」  
ヒビキ「来年の夏までに出来る様にした方がいいよ？少年」  
アスム「はい！あ、そういえば……」

翔太郎「…鬼同士、意見交換をしています」  
ユウスケ「…鮎の塩焼き…焚き火…平和だな…」  
翔太郎「だな…」

伊達「渡くん、どこが勝つかなあ？」  
紅「そうですねえ…翔一爆弾でしょうかねえ…」  
後藤「いや、津上は爆弾じゃ無いですよ？」  
伊達「そういう後藤ちゃんは？」  
後藤「…タクミくんは普通に面白いと思いますが、あえて辰巳シンジで」

紅「なら伊達さんは？」  
伊達「俺モモにしようかな？」  
フィリップ「どこが1番面白いと思う？ねえさん」  
若菜「うーん…ヒビキさんかなあ？」  
フィリップ「…ヒビキさんは発表しないよ？」  
若菜「あっそっか！ごめん、火野映司と間違えた！」  
土ユウ翔「…どこをどう間違えた！？」



芦川シヨウイチは投球のためつつこみませんでした。

海東「ちなみに、素点は僕たちが決めるけど、今回のお題がお題だから門矢士特別点として、士の心を掴んだ作品はプラスあるよ」

士「そう言う事だ、せいぜい頑張れ」

もやしチーム以外「セコイセコイ！！もやしチームへの覇権禁止！！」

海斗「ちなみに明らか覇権だろって満場一致の場合はもやしチーム問答無用で最下位だから」

海東「まず、ナツメロン、逝ってみよう」

夏海「夏海です！！」

海斗「とりあえず答えをお願いします、時間無いんで」

夏海「はい、これです」

答え・ついた瞬間性別的な意味で男女逆転世界

士「ぎゃあああああああ！！」

ユウスケ「いやあああああああ！！」

海東「……僕が…女…！？僕が…僕が…ONNA…！？」  
orz

夏海「何故そんなに萎えるんです！？」

ソウジ「…なら、夏海くんのお祖父さんはおばあちゃんか…」

シヨウイチ「なんでおまえ知ってるんだ？」

ソウジ「クロックアップの世界にいた時にたまたま光写真館に入っ  
てコーヒーご馳走になったんだ」ちなみに現在ダイキによってク

ロックアップの暴走が止まった

シヨウイチ「ライダーフォームで？」

ソウジ「それ以外にどうやってクロックアップの世界にいると？」

ショウイチ「いや、何故コーヒー飲めたんだ!？」

ソウジ「ははは」 超満面の笑み

ショウイチ「…もういいや」

海斗「…色々な人が崩壊したから2ピンで…」

海斗「次、シンジさんお願いしまーす」

シンジ「了解しましたー」 黒い笑み

答え・おんりーもやしばたけ

士「…」 orz

ユウスケ「…ああ、二人目にしてトドメ入ったな、士」 復活

海東「僕が…」 引きずってる

大智「…海東、お前単独行動出来るんだからその時だけ違う世界に行けばいいだろ」 海東の介護担当

翔太郎「もやし畑ってことは常時夜って感じたな…」 もう眠い  
カズマ「翔太郎、眠い時はソウジさんのおでんだよ!」 半熟卵食  
べながら

ショウイチ「どうしてカズマ、心が読めたんだ!？そしてお前のおでんはどれだけ万能なんだ!？」 叫び過ぎて喉痛い

ソウジ「ははは」 相変わらず満面の笑み

海斗「とりあえず1ピン」

シンジ「ええ」

海東「次、ファイズくんね」 復活

タクミ「名前覚えて下さいよ…」

答え・仮面ライダーがペットの世界

翔太郎「…実は、士が女になったり、仮面ライダーがペットな世界って存在するんだ…」

タクミ「本当ですか!？」

士「俺限定かよ!？」

映司「うーん、少なくとも、あのペットは…色々怖い…だが、可愛い可愛い!」

後藤「おい!火野?火野おお!？」

アスム「あと、士さんは女になる事に抵抗皆無ですし…」

士「大有りだ!」

海東「とりあえず、これは1ピンで…」

タクミ「すいませんでした…」

大智「まあ、気にするなつて!」 介護担当

海東「じゃあ、イマジンくん!」

モモタロス「モモタロスだ!」

答え・

全「「「「「」」」」」」

モモタロス「「「」」」

全「「「「「」」」」」」

モモタロス「「「」」」

全「「「「「………白紙!？」」」」」

モモタロス「違う!端っこ、端っこ!」

海東「ここかい?えっ」と?

答え・この世界

士「…うん、すごい分か」

海斗「ちよいまで?」

ツバサ「この世界?」

大智「俺たちを否定する気か?」

麻衣「…あんまりだよ…」

モモタロス「え!?!ちよっ…あのう…」

ツバサ「そんなに否定したいのなら…」

…準備中です。しばらくお待ち下さい

海斗バース・デイ「ははははは？」

ツバサ電王「ふふふふふふ？」  
プラットフォーム

大智歌舞鬼「…」

士「何故この世界のライダーを使わない!?」

翔太郎「っていうかあのロボット何気ライダー史上最弱と言われた電王の最弱のプラットフォームだぞ!?」

海東「しかもデンガツシャーは何故かモモソード!?」

ユウスケ「……!?」 反射的に尻押さえる

夏海「…ユウスケ、ドンマイ」

カズマ（何故大智は歌舞鬼に？） ヒソヒソ

アスム（正直、あの無言の歌舞鬼が怖いです…） ヒソヒソ

タクミ（大丈夫、アスムくん。僕も大智が怖いから…） ヒソヒソ

ワタル「ヤレヤレー」

ショウイチ「なに言っただああああ!?」

シンジ「ははふふん？はふはひほへはへはほ」 卵頬張りつつ

ソウジ「『ワタルくん？流石にそれはダメだよ』と言ってる」 卵

追加

ツバサ電王PF「覚悟しやがれええええええええええ!!」

モモタロス「ぎいやああ

現在放送コードにことごとくひっかかる事が行われています。しばらくお待ち下さい。

シンジ「ただ待たせるのは悪いからカズマが一発芸しまーす」

カズマ「聞いてないよ!?それ!!」

ソウジ「……………ハイッ!」

ショウイチ「やるのはいいんだが…W皿回してみたいな読者の皆さんに分かりづらい一発芸はやめろおおおお!!」

海東「…0ピン…ね…」  
夏海「こっ怖いです…」

海斗「気を取り直して、続いては津上翔一さんです！」 超満面の  
笑み！

津上「これです！バン！」 負けじと超満面の笑み！  
答え・平和すぎて気分悪くなる世界

士「あー、逆に！？パターンできたか」  
ユウスケ「でも平和が1番だよ」  
夏海「そうです！そうです！」  
ツバサ「だよね！だよね！」  
全「「お前が言うな！！！！」」「」

海斗「…オマケで1ピン」

海東「最後は…オーズくん！！」  
映司「OK セイヤー！！」  
答え・戦時下

士「ああ！？映司らしい！！」  
海斗「たしか紛争に巻き込まれたんだっけ？」  
海東「そして、目の前にいた一番仲良くしていた子を助けられず…  
手を伸ばされずに親が金で解決してマスコミでは『政治家の息子が  
命懸けで村を守った』と言われ、利用され…」  
夏海「可哀想です…」 号泣  
ユウスケ「夏海ちゃん…ぐすっ…涙はなにもすくつえないよ…」  
上に同じく

紅「そんなことが…」 上に同じく  
天道「なんてことを…」 例に漏れず

映司「ははは…そうだよ…ああ…ごめん…ちよつと書き直す…」

答え・戦時下、降りたつて現地の人から人の温かさに触れ、その後  
戦闘に巻き込まれ写真館メンツ生還

士「やめろおおおおお!!!」

後藤「火野! やめろ!!! もうその傷を決るなああああ!!!」

シヨウイチ「お、おい!!! 早く精神安定剤(と書いて高見大智と読む)と一緒に退席させるおおおおお!!!」

タクミ(というか何故火野さんは付け足したがるのでしょうか…)

ヒソヒソ

シンジ(付け足したがための大惨事) ヒソヒソ

カズマ(とりあえず、次、シンジ投げてね。ボーリング) ヒソヒソ

大智「あ、次、俺だ」

ユウスケ「そんな暇あるかあああああ!!!」

~~~~~  
大智と映司、退出(大智の代わりに伊達さんが投げました)  
~~~~~

海斗「…映司さんの…重過ぎるよ…」

海東「…三ピン…否、5ピンにしよう…療養費として」

士「いや…映司は…入院とかしてないから…ってか、この特別点10ピンをオーズチームにあげてくれ…」

海斗「…次回、結果発表します…ボーリングも…」

## 九枚目　　うふふな結果発表

前回のあらすじ…ってか結果、火野映司、乙。

~~~~~

海海海トリオ「「さあ、お待ちかね、結果発表だぞ？」」

全「「なんか増えたあああああ！！！！」」

ユウスケ「夏海ちゃんまで入らなくていいから！！ね？ね！？」

士「その通りだ、ナツミカン！ナツミカンならナツミカンらしく柑橘類系で組め！！」

海東「違うよ、士！ナツメロンだよ！」

夏海「夏海です！！」

麻衣「あの？そろそろ結果発表初めませんか？」

ワタル「暇なんですが？」

大智「と、いうわけだ、はやくしてくれ」

海斗「ういーす」

海東「ちなみに発表は一位と最下位のみだよ！あと、大喜利の方は僕達はチームに属して無かったから、優勝賞品も罰ゲームも無しだよ」

海斗「まず、大喜利第一位！…オーズ&Wチーム！！」

ダブオーチーム「「いえーいーい！！」」

海東「代表、左翔太郎、前にでてきたまえ」

麻衣「ここで、表彰する人の発表を行います」

ワタル「新番組、仮面ライダーフォーゼより…歌星賢吾さんです！！」

全「「「おおい！そこは如月だせよ！！」」」

賢吾「…俺じゃ不満だと？よし、一位剥奪、全員罰ゲ」

全「「「ヤメテクダサイ！スイマセンデシタ！！」」」

「――とりあえず、賢吾の気分を――（おでんを使って）直しました  
――」

賢吾「表彰状、オーズ＆Wチーム。あなたがた――（中略）…よってここに表彰します。歌星賢吾、如月弦太郎、城島ユウキ、鴻上

士「なっ長かった…」

ユウスケ「表彰だけで二十分とか反則…」

シヨウイチ「どうせ、読者の皆様は中略で俺たちの苦しみわからないんだろうなあ…」

シンジ「え…そうなの…？ヒドイ…」

カズマ「眠い…」

タクミ「（最後の署名？にはつつこまないのかな？）

アスム「（みなさんHPOですから…）」

ソウジ「なかなかいいこと言ってたな…」

全「「「そう思ってるのはアンタだけだ！！」」」

海斗「ちなみに、ダブオーチームには、副賞として…」

誰か一人を爆発させる権利が与えられます」

ダブオーチーム以外「「「ちよつとまでええええい！！！！」」」

後藤「…とりあえず保留」

映司「俺も…」 復活

照井「今使つ予定ない」



翔太郎「にしてもコレはありなのか？」

海斗「アリです！」

全「「「なしだああああ！」「」「」

海東「最下位はもやしチームだよ」

海斗「優勝したんだから、この権利くらいありでしょ」

全「「「フツウ金とかだろおお！」「」「」

海斗「ありー（ 現在論争中です。しばらくお待ちください。何度  
もお待ち頂いて誠に恐縮です。）

士「ぜーぜー…とりあえず、最下位は？」

海東「さっきいったよ？」

ユウスケ「何時の間に！？」

夏海「もう一度お願いします！」

海東「さ、次はボーリングだ」

全「「「ちよつと待つてよ！？」」「」

海斗「はえあるボーリング第一位は…」

ダブオ…」

ダブオーチーム「「「おお！？」」「」

海斗「ーチームは3位で…」

ダブオーチーム「「「ガクッ！」「」

士「まあ、二つも取りやがったら流石にやり過ぎだよな」

海斗「第一位は！！」

がく…」

学生チーム「「おおっ!!」「」  
海斗「せいチームは二位だから…」  
学生チーム「「「がくッ!!」「」  
海斗「第一位はあ!!」

…イマジ…」  
イマジンチーム「「よっしゃ!!」「」  
海斗「ンチームは五位で…」  
イマジンチーム「「「がくッ!!」「」  
士「そろそろ発表しろ!!」  
海斗「第一位は!!!!」

龍&虫…」  
龍&虫チーム「「おおっ!!」「」  
海斗「チームが一位」  
龍&虫チーム「「「がっ…く?」「」  
士「いや、発表してしまうんかい!!」  
シヨウイチ「そこはまた一位じゃ無いの発表しろよおおおおお  
!!!!」

シンジ「…ま、とりあえず…」  
龍&虫チーム「「「やったー!!」「」  
ユウスケ「もうちょっと喜ばうよ?」

麻衣「代表として年長の芦川シヨウイチさん?」  
シヨウイチ「俺を呼ぶなああああああ!!!!」  
ワタル「…壇上をお願いします」  
シヨウイチ「いや、無視かよ!?!」

アスム「…」

タクミ「（どうしたの？アスムくん）

アスム「（いえ、あの人…歌星さん？今にも吐血して倒れそうです）  
タクミ「（え！？）

賢吾「表彰状…グフツ！？ぐはっ！！うっ…！！」 吐血、意識不明  
シヨウイチ「ちよっ！誰か救急車！！救急車呼べ！！」

キャーキャー！！

アスム（…ビンゴ）

タクミ「（アスムくんスゴイ…というか、救急車呼んでおこうか…）  
アスム「（…是非お願いします。多分誰も通報しないででしょうし…  
僕は携帯無いですから…）」

伊達「ピーポーピーポー」

全「…ふざけるなよっ！！」「」

親伊達組「…でも伊達さんはお医者さんですか？」「」

カズマ「だてえしゃん、おいしゃん！！」

シンジ「思いつきり噛まないでね？カズマ」

カズマ「うえい」

伊達「というわけで、任しときな」

「…とりあえず、伊達さんに簡単な応急処置と診察をしてもらい

ました――

伊達「これは…やっぱ病院にいかないと。点滴がいる」  
全「「結局かい!!」」「」

ピーポーピーポー!

翔太郎「おい、誰だ? 気が利いたやつ」  
タクミ「あ、やっと救急車きた」  
全「「流石携帯電話で変身するライダー…!!」」「」

――賢吾搬送のため表彰する人は天堂ソウジになりました――

全「(なんでソウジ(さん)? あの人も表彰される側だろ?)」

ソウジ「表彰状、龍&虫チーム。以下割愛。おめでとう」

全「「略したあああ!!」」「」

シヨウイチ「あっありがとう…?」

アスム「そりやそうなります」

大智「(誰だよ、ソウジさんを壇上にあげたの…)」

海斗「(ツバサ?)」

タクミ「(…またですか…)」

海東「優勝した君たちには…」

とりあえず、次の次の回の企画を考えてもらおう！好きな様にしたまえ！」

士「え！？たったそれっぽっちゃかよ！」

カズマ「うーん…『カズマのお料理教室』は？」

士「却下。どうせならソウジがしろ」

カズマ「チーズうつさい」

シンジ「けど確かにそうだ…なら…『パーフェクトレンさん教室』…？」

士「それに興味あるのはお前だけ！」

シンジ「士、口出し無用」

ショウイチ「ううむ…『隠れた才能を見つけよう！超能力開は…』」  
ソウジ「そして、アギトの仲間を増やす気だな？」

ショウイチ「…ハイ」

カズマ「かくいうソウジさんは？」

ソウジ「『カズマのお悩み相談室』」

カズマ「うえい！？」

シンジ「あ、それならみんな納得だし、みんな幸せですね！！」  
ショウイチ「いや、カズマが困るぞ…」

ソウジ「ところで何故次回じゃ無いんだ？」

天の声「今回は宴会。とりあえず、このボーリングが辛すぎた」

翔太郎「ならなんでしたんだ…？」

夏海「愚問です、翔太郎さん」

士「とりあえず、最下位は…」

海東「先に罰ゲームいいいます。

大喜利罰ゲーム…ウェイトレス姿で次の宴会の裏方担当  
ボーリング罰ゲーム…ぶっ飛び！打ち上げ花火！

だよ」

海斗「そして最下位になったのは……」

もう発表したから次回、罰ゲーム決行」

[illegible]

フィリップ「これでボーリング大会は閉幕だ。次回から企画がコロコロ変わるけどよろしく！」

全「「勝手にまとめんなあああああ！！！！」」

## 十枚目 ドタバタ耐戦スタート！（前書き）

――今日は大会お疲れ様という事で宴会に来ています。

…ただし、モモタロスは縄で打ち上げ花火ロケット二十個にくくりつけられて…

海斗「さて、まずは打ち上げ花火をどうぞ」

モモタロス「まてえええ！！いくら罰ゲームでもこれはヒドイぞ！！」

ウラタロス「かんばれーせ・ん・ぱ・い」

キンタロス「千発の花火とモモなんて…泣けるでえ！」

モモタロス「お前らは何故うけないんだあああああ！！」

リュウタロス「点火するけどいいよね？答えは聞いてない！」  
点火

モモタロス「ぎゃあああああああああー！！！！」

ヒュ~~~~~~~~…バーン！

海斗「たーまやー」

大智「たーまやー」

麻衣「たーまやー」

士「おーけやー」

海東「つーかさー」

ユウスケ「あーねさーん」

夏海「つーかさーくん」

ワタル「とーさーん」

アスム「しーしょー」

タクミ「由里ちゃんと見たかったな……」

ダイキ（タクミ、長いな……）「ぷーりんー」

エリカ「コーヒー」

ツバサ「いやあ、キレイだ」

カズマ「チーズー」

シンジ「レーンさーん」

ショウイチ「やーしろー」

ソウジ「おーでーん」

翔太郎「おーやっさん」

フィリップ「花火……興味深いね……」

照井「あーきこー」

鳴海「りゅーくん」

映司「パーンツー」

アंक「アーイスー」

後藤「バースー」

伊達「おーでーん」

イマジンズ「……ばーいばい！モモタロス！……」

モモタロス「お前ら色々とおかしいぞおおおおおー……」

……」



## 十枚目 ドタバタ耐戦スタート！

ー！とこわって宴会場

モモ打ち上げタロス花火のあとで、みんなのテンションはフォルテシモ＋クレッシェンド状態

海東「…さて、ボーリング大会も終わった事だしみんな、宴会といこう！」

全「「「いえーい！」「」」

海斗「ボーリング最下位のイマジンチームの花火、良かったよね！」

全「「「いえーい！」「」」

海海コンビ「「というわけで…カンパーイ！」」

全「「「カンパーイ！」「」」

みんながフィーバーしている一方…

士「…くそっ！なんで俺達がこんな事しないといけないんだ…！」

夏海「うぐっ…えぐっ…あんまりです…」

ユウスケ「士があんなこと」（七枚目参照）言わなければ…」

士が怒鳴り、夏海が泣き、ユウスケが愚痴る…ウエイトレス姿で、

そんなかれらに…

シンジ「仕方ないらーん！賭け事に負けたんから！」

カズマ「ちょ、シンジ！ビール一口でどんだけよってんの！？」

ベロンベロンに酔ったシンジがやってきた。しかもカズマの言う事を信じればビール一口だけでこうなったらしい…

シンジ「いろいろ！おい！もやしいー！ビール大ねえー！！」

士「いや、流石にもうビールはやめろ！ビールは…！」

シンジ「じゃ、焼酎でいいやあゝ！」

土ユウ「妥協案になつてない！！」

泥酔シンジ注意報発令した現場にユウスケが徐々に巻き込まれている一方：

シヨウイチ「ナツカボス！枝豆と焼酎。ビールは飽きた」

伊達「ナツユズ！俺はおでんと焼酎ね！よろしく！」

ソウジ「じゃあ、ナツグレープフルーツ、塩辛と焼酎。」

ナツミカン「何度も言いますが夏海…って！なんで『ナツミカン』って書くんですか！！笑いのツボ！！」

天の声「あははははははははは！！」

オヤジ三人のおかげでナツメロ「夏海です！！」…注意報発令していた。

こんなに収集がつかないときは彼にカメラを向けるしか無い。

様々な注意報発令現場を見ていたその彼、

ハーフボイルドこと難波：ゲフン左翔太郎は、「なんでこん「翔太郎！翔太郎！興味深いよ！！」なこ…」

翔太郎「だぁー！ーッ！！たくッ、フィリップ！俺がハードボイルドに決めてるときに…」

フィリップ「そんな事どうでもいい。それより！とても興味深いよ！元々花火はね、死者の魂をともらう為に…」

…検索バカに捕まっていた。

タクミ「…酒ってそんなにスゴイのかな…」

大智「…いや、あいつらがスゴイだけだ…」

麻衣「…ジューズで良かった…？」

アスム「…もう何も言えません…」

ワタル「…いつてるじゃ無いですか…」

未成年組は絶句していた。

…（強制的に）笑わされていた天の声を除いて…

大智「とりあえず、俺らもはしゃぐか…それっぽく」

タクミ「じゃあ、マジカルファイズ！ファイズといったらケータイ！」

大智「…いや、何故にそれ？」

アスム「ケータイといったら機械！」

ワタル「機械と言ったらG3！」

大智「（まあいいや…）G3つつたらクウガ！」

麻衣「クウガと言ったら…ユウスケさん？あ、烏龍茶お願いします」

ユウスケ「俺と言ったらあねさんだよな！ちよつとまってねー」

大智（何故にまじる？というかユウスケウエイトレスなれ過ぎ）

タクミ「あねさんと言ったら…あねさん？」

未成年同盟「「アウトー！」」

大智「いや、未成年同盟ってなんだ！？」

大智、麻衣、タクミ、アスム、ワタル、天の声の総称です。

海斗がいない？いやいやあいつは海海コンビです。

映司「土ー！こっちにコレとアレとー」

後藤「それとこれを頼む」

土「こそあどで言うな！大体分からんツ！」

映司「…ふーん？」 スイッチ見せながら

後藤「使う機会はないとおもってたのだが…」 上に同じく

土「すいませんでした、爆発はやめて下さい」 土下座

ユウスケ（もはや脅しを超えてる…） 烏龍茶運び中

海東「さて、よった勢いでキャラ崩壊して欲しいね…」

海斗「…シンジさんが異様に早く崩壊しちゃったけど…次は…？」

「???」「はははははは？」

「???」「ちよっ！やめてくれええええ！？」

海海コンビ、すぐに奇声が上がった方を見る…そこには…

ソウジ「貴様の未来は潰してやったぞ、アギトオオオオオオオ！」

シヨウイチ「ソウジイイ！やめろおおおおおおお！！何処の弟切だあああああああ！！！」

ソウジ（なお、未だぼろ酔い状態）がドS覚醒し、シヨウイチの顔を踏んでいた。

ユウスケ「ちよっ！ソウジさん！なにやってるんですか！！」

ソウジ「ん？シヨウイチと遊んでる」

シヨウイチ「嘘をつくなあああああああ！！！」

…非常にカオス—（not怪物）…シヨウイチがかなり哀れである…そこへ…

ワタル「ソウジさん！」

ソウジ「ん？」

ユウスケ「わっワタルくん！期待出来ないけどソウジさんをとめて！！！」

しかし、ワタルの口からでたのは、とても子供とは思えない一言だった。

ワタル「なに面白そうな事を…どうせやるならシヨウイチさんをベロンベロンに酔わせてからDM開発しましょう」

ソウジ「お、名案」

シヨウイチ「やつめろおおおおおおお！！！！！！！」

…もはや誰にも止められない…

そう思った矢先、先ほどまで寝て酔いをさましたが、また飲んで酔ったシンジが…

シンジ「さあ、ソウジさんも飲んだ飲んだあゝ!!」

ソウジ「んお!？」

全「…あなたなにやってんだあ—————!？」

…無理やりソウジに酒を飲ませた。

…すると

ソウジ「うぐっ…へぐっ…すまん…シヨウイチ…」

全「…今度は泣いた!？」

ソウジ「俺が…俺が変な事し無かったら…シヨウイチは…シヨウイチは…」

ユウスケ「いや、シヨウイチさん生きてる!生きてますよ!!ほら、シヨウイチさんも!」

シヨウイチ「…驚き気絶

ユウスケ「シヨウイチさ—————ん!!」

シンジ「あれえ?シヨウイチさんどーしたのー?」

全「「お前のせいだ！混沌神ジ！」」  
翔太郎「っていうかソウジさんは！？」

ソウジ「…なくなる上は！！」 包丁取り出し  
全「「誰かあいつを止めるおおおお！！！」」

ソウジが切腹をしようとMY包丁（もはや切れ味日本刀並）をとりだし、いまにも切ろうとした時…

大智「煩い、止める」 手刀

ソウジ「ぐふっ！」 気絶

全「「ああ！ソウジさん！でもナイス大智！」」  
伊達に甘酒を飲まされた大智が間髪で止めた。

――――

ソウジ「ん…」

海東「やれやれ、やっと目を覚ましたかい？」

ソウジ「…みんなは？」

海斗「俺と海東さん、シヨウイチさんに、ユウスケ、大智とカズマ以外は写真館やTAKAMILAB（写真館メンツ以外はここで部屋を借りてます）に帰りました」

ソウジ「ん…あれ？俺の包丁…」

大智「これでしょ？はい」

ソウジ「ありがとう…と言う事は、みんなに迷惑かけたみたいだな…すまない」

シヨウイチ「ああ…とくに俺にな！」

ソウジ「…すまない」

ユウスケ「とにかく、なんであんなに…」

ソウジ「ん？ああ、俺、酔いのレベルに応じて…なんというか、キ  
ヤラが変わるみたいなんだ…」

カズマ「つまり、酔った時限定多重人格？」

ソウジ「そういうところかもしれん…えっと…どんなことやってた  
？」

ユウスケ「シヨウイチさん踏んづけて、シンジに酒飲まされて、切  
腹しようと…」

ソウジ「ならレベル3くらいか…」

全「「「まだ先あるの！？」」「」」

ソウジ「…」

ソウジは少し頷く。それを見た面々は、「ソウジさんにあまり酒を  
飲まさないようにしよう」そう誓った。

そして、天の声は…

最終レベルが見てみたい…

そうおもっ「「「思うな！！」「」」

十一枚目 『カズマ』というやつは…（前書き）

天の声「ふう…やれやれ、ステージやつとかんせ…」

ドサッ!?

海斗「だっ大丈夫ですか!？」

天の声「zzz…」

海斗「…寝てる？」

ソウジ「ふあああ…ん?…おっと、すっかりステージの事忘れてた」

シヨウイチ「つまり天の声徹夜な訳だな」

大智「大丈夫だろ、雑務担当は」

天の声「むにやむにや…MY息子大智…ヒドイ…」 寝言

海ソウシヨウ「…」 顔面蒼白で大智見る

大智「え…なにその目…」

海斗「おま…いつから…」 泣きそうな目

ソウジ「いい…理由はいいんだ。言わなくて」 上に同じく

シヨウイチ「大変だったんだなあ…」 上に同じく

大智「ちがあああああああう!…!…」



## 十一枚目 『カズマ』というやつは…

ここはTAKAMI LAB食堂。

カズマ達に呼ばれて土達（オリジ勢や照井やイメージズは元の世界に帰宅、後藤＋伊達は観光、フィリップは検索、ロボット達は整備や料理中で不参加 モモタロス？今ごろどこだろうね）が集まっていた。

土「なにが始まるんだ…？」

夏海「カズマのお悩み相談室…って感じじゃなさそうですね…」  
ユウスケ「ここんとかズマのやつゴソゴソ何かしてたしな…」

ピカーーーーーー

海東「あ、仮設ステージが光だしたよ」

ボン！

カズマ「レディース・エーンド・ジェントルメン！」

シンジ「…本日は、お集まり頂きまして誠にありがとうございます」

カズマ「今回の司会、進行を担当する剣立カズマとー」

シンジ「…辰巳シンジです。どうぞよろしく願います」

………

土「…シンジ？緊張し無くていいぞ？」

シンジ「いえ、緊張ではなく、司会を務めさせて頂く以上、適当にすますのは如何なものかと思えます故…」

ユウスケ「いや、シンジがそうだとカズマがかなりやりにくそうなんだ」

カズマ「シンジ… m」

シンジ「…カズマ…じゃ、いつも通りで司会するよ」

カズマ「うえい！」

カズマ「とりあえず今回はコレをします！」

ソウジ「…うむ？…触った感じは紙？プラスチック？で臭いは…む…厨房の臭いと…校長室のような臭い？」 目隠ししながらこそそ  
シヨウイチ「分かった！カズマのラウズカードだ！」

翔太郎「…つまり手触りクイズに臭いも混ぜたクイズか？」

カズマ「そういうこと 箱の中にある何かに手をつ込んで臭いをかいでんで周りの人が答えるってわけ」

シンジ「ちなみに優勝とか無いから自由に楽しもう！」

大智「…海海コンビの企画より気楽で楽しそうなんだが…」

麻衣「これから当分カズマさん達が企画して下さい」

士「賛成する」

海海コンビ「…orz」

カズマ「それでは第一問！触る係りはあみだくじで海東に決まったよ！」

海東「うつつわあ…うわあああ！」 中々手を入れない

シンジ「早くしろ！企画倒れになる！」

海東「うわあああああ！！」

ガッ

シンジ「…」 海東の両腕掴む

海東「え？」 目隠して何が起こったか分からない

シンジ「……！！」 海東の腕を無理やり突っ込む

海東「ぎゃあああああああ！！」

シンジ「どーだ？早く触り心地をいえ！」

海東「ぎゃあああああああ！！！！」

翔太郎「…シンジ、ちよつとどいてろ」

シンジ「？」 4m下がる

どつかああああああああん！！

海東「」 炭

アスム「ししよおおおおお！！」

海斗「海東おおおおお！！」

シンジ「あ、そうか、翔太郎さん達爆発権があつたっけ？」

翔太郎「ただしコレは帰った照井のやつだな」

全「「「…」」」 もはや寒気しかない

カズマ「役立たず海東の代わりにアスムがやってるよ」

アスム「んー…布？で、穴が三つ…」

海東「なんだ…ナマコじゃ無かったのか…」 復活

海斗「あれ？ナマコ嫌いは土さ…」

土「本当の設定では海東だったんだが、海東の中の人が無理やり俺に設定を押し付けたんだ」

大智「メタ話はやめましょう」 背後にウヴァ完全体オーラ

海海士「ハハハ」

映司「怖い！そのオーラ怖いから止めて！！！」

アスム「で、臭いは…少し塩素臭い…で、あと砂漠やら街中やら森の中やらの臭いが…」

ワタル「そんなに沢山の場所を巡っていて…」

タクミ「洗剤でなく少し塩素臭い布ってことは…」

映司「……………」

ワタク「映司さんのパンツ！」

カズマ「当たり〜！」

映司「ばれないように丁寧にあらったのになあ〜…」 提供した人

シンジ（丁寧に洗ったからこそ…だね）

麻衣（あと、アスムくんの嗅覚なめてはいけません）

シンジ「続いて第二問！今回は土がやります！あと、触る係りは今後触れるだけにしてね！」

全「うーす」「」

土「うーん…まず、第一感触、きどってるのかちょっといい生地ของ布だ。キザな奴だな。あと不思議な形に固められているようだ」

翔太郎「……………」

ユウスケ「ちよつといい生地…ファッションの趣味があるのか…？」

アスム「うーん…ファッションにこだわりがあるといえば…土さん、

翔太郎さん、照井さん、フィリップさん（？）、で、如月さん」

海東「そのうち違うのはフォーゼくんと、おそらく土だろうね」

大智「問題は不思議な形…だな。パツと思いついたのはシヨウイチさんなんだが…」 黒い笑み装備

シヨウイチ「何故だツ!!」 舞台裏から登場

大智「純粹になんとなく」 黒い笑み満開

シヨウイチ「なんとなくて決めるなああああああああ!」

士「で、臭いは…ホコリ臭ツ!!洗濯なりなんなりしろよ!!きどつてるクセによ!!あと無駄にコーヒー臭い!!」 目隠ししてても分かる苦悶の表情

麻衣「コーヒーってことは接客業でかな?」

海斗「しかし、もろ接客業のソウジさんはおでん屋で多分違う。タクミくんはアルバイトであるだろうが…」

タクミ「僕にきどつた生地で不思議な形の布類はありません」

大智「いや、接する…でなく、よく飲む人と仮定したら…真相は見えてくるだろう」 分かった人

アスム「…照井さんに翔太郎さん?」

ワタル「で、きどつたちよつといい生地+不思議な形の布…あつ!」

アスム「分かりました!」

タクミ「なるほど!」

アスワタク「…翔太郎さんの帽子!」

カズマ「あつたりい!」

翔太郎「はっはっは!、さあて、士?お前の罪を数えろ!」 口しか笑っていない

《ジョーカー》

士「なっなんのことだ!?」

《マキシマムドライブ》

ジョーカー「はあーっ!!!」

士「ぎやああああああ」

ユウスケ「多分、一言多いから…だな」

カズマ「第三問！今回は映司にやってもらおうよ！」

映司「えっと…コレは…何か棒？なんかゴツゴツしたのもある…」

海斗「音撃棒・烈火」

カズマ「はやっ！」

シンジ「でも当たりなんだよな」

アスム「…というかいつの間に!？」

ソウジ「俺が拝借した」 舞台裏から声

海斗「…ってかこれは分かりやすい」

カズマ「まあ、そうだね」

シンジ「勢いで第四問！今度は大智担当です」

ユウスケ「…そういえば今日夏海ちゃん最初以来喋ってないな」

士「ナツミカンの事だ、そこらへんぶらついてるんだろ」

大智「…それがこの箱に入ってるとしたら？」 まだ目隠ししていない

タクミ「…うわ、なんか今度は車輪付き!？」

ワタル「サイズが違いすぎます!」

アスム「…って言うか確実動いてますよ!？」

大智「いや、もう夏海だろ？」

カズシン「…チッ!」

全「…「ヲイ!」」

## 夏海解放

夏海「さっ最悪ですう…」

麻衣「…ドンマイです…大智、私夏海さんの介護してくる」

大智「分かった」

――夏海、麻衣退出

カズマ「さあ、盛り上がってきたところで最後の問題はこちら！」

全「「「おー！！」」」

シンジ「係りはユウスケ！あ、ゴム手履いてね」

ユウスケ「何それ！？今まで無かったのに！？不安しか無いんだけど！？」

カズシン「「張り切って、どーぞ」」

ユウスケ「無視！？」

ユウスケ「うえ……」

ワタル「ユウスケ、震え過ぎです！」

ユウスケ「自分じゃないからってえ……」

士「とりあえずユウスケ、頑張れ！」

タクミ（士が応援してる……）

ユウスケ「うわ……ねちゃったあ……」

ボルボル……

全「「「！？」」」

大智「きつ聞き間違いか？」

士「いや……何か奇妙な音が確かに……」

ボルボルボル……

全「「「コワイコワイコワイ！」」」

カズマ「大丈夫！安全だから！」

全「「「いくら安全でも怖い！！！」」」」

士「ってか正体なんだ！？」

シンジ「えーっと、コレ」箱をとる

：

ユウスケ「なにこれ？カルボナーラ？」

タクミ「…の、様ですね…」

カルボナーラ？「ボルボルボル！」

全「「「うわあああああ！？動いた！？」「」

アスム「魔化魘！？」

ワタル「アンデット！？」

映司「ヤミー！？」

タクミ「未確認生命体！？」

シンジ「タクミが一番近い」

士「で、結局のところコレはなんだ？」

ソウジ「えーっと、コレはハルルという方の剣立カズマが作ったカルボナーラだ」本日裏方

ショウイチ「正確にはそのハルルさんところのカズマがドジって生まれた未確認生命体ボル子だ」本日裏方

参照

<http://ncode.syosetu.com/n18888q/4/>

大智「いやいや、ドジって生まれるのか！？」

海斗「あっありえない…」

カズマ「ちなみに初代は食べられたからこれは改めて作ってもらったボル子セカンドちゃん」

ボル子？「ボル」



士「も、もしかして…なんだが…」  
海東「士、恐らく同じ事を思ったよ…」  
アスワタク「…多分僕たちも…」  
Wシヨウソウ「…ああ……」  
大海「…もしかして……」

全「…こつちのカズマも作れるんじゃない?…」

シンジ「あー、それ気になって試してみたんだけど…ボール子は出来なかった」

全「…は?…」

シンジ「…いや、実はカルボナーラ作ってたらかズマがドジってラーナって言うやつ（相違点はパセリと発する声）が出来たんだ…」  
ラーナ「ナーナーラーナ!」  
ボール子?「ボール子!」  
カズマ「ラーナ君（雄?）もボール子ちゃん（雌?）も可愛い」

士「言つていてなんだが…」  
全「…カズマああああ!…」

「シヨウイチ、というか、彼らはどうする？」

ソウジ「そりゃ食べるに決まってるだろ」

全「え……!?」

カズマ「みんなー！ボル子ちゃんとラーナ君を食べてあげてええええええええええ！！！！！」

「ボル子？　ボルボルボル！」

ラーナ「ラナラナナーラ！」

全「「「嫌だあああああ！！」」」

ソウジ「まあ、俺は食おう。おばあちゃんが言っていた…料理は見かけじゃなく味だ、とな」

映司「俺も、いただきます。こういう類は出会った事が無いなあ」

全「「「チャレンジャーが二人も……」」」

ソウジ「ん？」

映司「コレは……？」



全「「「いやあああああああああ……!……!」」」

海斗「とりあえず……あいつらはほっとくか……」  
ソウジ「止めるのも面倒だからな」

十一枚目 『カズマ』というやつは…（後書き）

ちなみに…

ボル子？とラーナは火野映司が完食しました。

もつとちなみに…

フィリップが検索してたのは…

フィリップ「よし、やっと花火を全て閲覧した！」 花火玉二百個  
に囲まれながら

## 十二枚目 陳情？土の大運動会！

アスム「うわああああああん！！！！」泣きながら全力疾走

海東「少年くん！？どうしたんだい！？待て、待ちたまえ！！」  
通りすがりから全力疾走

ソウジ「あれ？あれは…アスムくん？」アップルパイ調理準備  
士「…？アスムのヤツどうした？」アップルパイつまみ食い待機中  
タクミ「あ、あははは…」  
ショウイチ「ははは…」  
ワタル「はははははは…」

ソウジ「…三人とも、ちゃんと真実を言おうか？」超絶笑顔で力  
ブトゼクター構えつつ  
ワタクシヨウ「…すいませんでした！」「」  
士「強ッ！？」

海斗「その三人＋アスムで平成ライダーで誰が人気か話し合っているんだよねー」走り疲れた海東を支えながら  
海東「…すまない、久々に全力疾走したから…」支えられ中  
大智「アスム、もう泣かなくていいからな」アスムお姫様抱っこ中  
アスム「…ぐすつ…とりあえず降ろして下さい…ぐすん」恥ずかしがりながら

士「平成ライダー…なら俺様が一番じゃないのか？」

海斗「いや、それはない。…で、四人は目安として興行収入から調べてみたんだが…」

士「断言!？」

大智「響鬼がダントツで最下位…」

天の声「ヒドイよね…俺、響鬼好きなのに…」

翔太郎「といいつつあんた響鬼のグッズ持っていないじゃないか」

天の声「…グッズはアギトしかゲットしなかったッ!!」 ドヤッ  
!!

全「…ドヤ顔するな!!」

ちなみに作者にコレクシヨンの趣味はありません。鉄道マニア風に言つと『見るライ(?)』です。

アスム「ぐすつ…ぐすつ…」

天の声「まあ、響鬼のグッズは集めるタイプじゃなかったから…仕方ない。オーズがチートなんだよ…」

映司「何その俺が悪いみたいな空気!？」

海斗「アレは恐ろしかった…人間って欲望解放したらああなるのか…」  
と、いいつつ白色以外のメダル所有

後藤「…というか、多分ガンバライド効果も多いにあったとおもう…」  
メダルよりカードです

大智「まあ、火野映司。責任とつてアスムに謝罪」

映司「だからなんで俺が悪いの？」

アंक「オラ、さつさといけ!」 海東のメダル奪取(砕けたモノは別の世界から)で復活(ちなみに他のグリードも同様)

映司「…アंकも来ようか？」 グリッドでも無いのに目エ怖え

アंक「…チツ、アイス一本な」

アスム「…orz」

映司「えー、この度は大変申し訳ありませんでした」 最敬礼

アスム「い…いえ…映司さんは謝らなくていいですよ…」

アंक「ふん！そんなの負けたお前が悪いんだがな」

アスム「…」

カズマ「アスム は アッパー を 放った」

シンジ「アंक どうする？」

ソウジ「カウンター」

海東ガード

???

避ける

喰らう

」

士「なんだこのRPG風な表現…」

海東「 ちょ、僕ガードって何!？」

海斗「個人的に『???』に興味が…」

天の声「そういえば、RPGあんまりやった事無いなあ」

大智「俺も…よくやるのは牧場 語」

全「…なんでそれ!？」」

アंक「決まってるだろ！」

カウンター

海東ガード

???

避ける



喰らう

」

アスム「え？」

カズマ「アスム の アッパー は 外れた」

大智「ん？…ぐふっ！？」 アッパー炸裂

シンジ「大智 に 40のダメージ」

大智「あー、痛かった」

後藤「大智 は 耐えきった」

アスム「あー！大智さん！？ゴメンナサイ！！」

カズマ「アスム は 連続ストレートパンチ を くり出した」

シンジ「アंक どうする？」

ソウジ「カウンター

海東ガード

???

喰らう

」

アंक「避けるは無いのかよ！？」

カウンター

海東ガード

???

喰らう

」

アスム「お見通しです！」

カズマ「アスム は カウンター を 見破った」

アंक「何！？」

シンジ「アंक の 右拳 は 大きくからぶった」

翔太郎「え！？お！？ちよい…ぐふあっ！？」

後藤「翔太郎 に 当った」

伊達「翔太郎 に 1971 の ダメージ

翔太郎 は 倒れた」

ソウジ「アंक は 経験値 753 上がった」

士「ちょ、翔太郎弱過ぎるだろ!？」

ユウスケ「違う!アスムの鉄拳耐えきつた大智が異常なんだ!!!」  
海斗「…というか超個人的に『経験値』が気になっただけ…」

アスム「たあっ!」

カズマ「アスム は 岩くだき を くり出した」

士「いや、あれただのパンチだろ!？」

ユウスケ「アスムの拳は岩を砕くんですかそうですか!？」

シンジ「アंक どうする?」

ソウジ「海東ガード

????

喰らう

アंक「選択肢すくなっ!？」

海東ガード

????

喰らう

海東「ギヤース!？」

カズマ「海東 は たて と なった」

アスム「師匠!?!これはいざとなったら師でも倒せという教えです  
ね!？」

シンジ「アスム は かんちがい を した」

海東「違うよ!少年くん!こういう…ギヤース!？」

後藤「海東 に 4AP の ダメージ」

伊達「海東 は 殉職した」

士「ちょ、待て!?!最悪だぞ!?!」

映司「…APってどのくらい?」

フィリップ「検索しよう…キーワードは?翔太郎…はムリだから士」



映司「あ、すっかり忘れてた！オイ、アंक！？刑事さんの身体返せ！！」

士「その前にタジャドルになって救出してこいよ！」

映司「あ…そっか…変身！」

タカ！クジャク！コンドル！タージャドル！！

オースTg「はっ」 追跡

ワタクシヨウ「…とりあえずアスム…ごめんなさい」「」

アスム「ははは…どうせ響鬼は異端ですよ…ベルトで変身しないし

…」

ソウジ「待て、アスムくん！地獄兄弟な…！」やぶくれる

大智「そうだぞ！大体昭和ライダーはベルト無いライダーもいたし、大体アマゾンなんてかなりの異端じゃないか！！アマゾンがライダー

！なら響鬼はモチロン仮面ライダーだろ！」

シヨウイチ「いや、アマゾンをそこまで下にするなよ！？」

アスム「…うわああああああああん！！！」 走り寄る

伊達「おー、よしよし」 とりあえず慰める

ソウ大「何故あんたのトコに！？」

海斗「…なんかバトル始まったからいいのがしたんだけど、視聴率的に言っと最下位はキバでしょ？」

ワタル「それは僕のせいじゃありません。電王と紅さんが悪いんです」 モモタロスヘッドロック

モモタロス「あばばば……」 泡吹く

カズマ「ちょ、モモタロスが死にかけよ!？」

ユウスケ「当然の末路だ」 クウガとは思えない目

士「あの恨み（ テンガツシャーを刺された ）は二年以上たった今でも健在なのか……」

海斗「女性人気が一番高かったのは…雑誌を見た感じWらしいね」  
後藤「…何を持ってそう思ったんだ、雑誌社？」

海斗「えつと…二人主人公つてとこらしい」

シヨウイチ「…ならそれこそ響鬼なんか主人公二人だったじゃないか」

ソウジ「さらにフォーゼなら仮面ライダー部の七人全員が主役になるらしいぞ？」

カズマ「あと、ムダに士の中の人の名前を目に…」

シンジ「あー、そういうえば雑誌やケータイのイケメン特集に…井上、井上、井上だったな…」

タクミ「あと、アレですよ？ 芸能人走り高跳び最高記録保持者…」  
士「ふっ…当然だ。何と言っても俺さ」「…だけど、こつちの士なんかいいとこ無いな」今まで「…」…ま…って、人のセリフに全員で割って入るな!!」

全「…」なら証明して下さい」」

士「もちろんだ！ 最強の仮面ライダーの面子にかけて…やってやる！」

タクミ（あれ？ 最強のライダーは確か…）

~~~~~

二時間後：

ツバサ「と言うわけでやって来ました渚沙運動公園…通称競技場！」  
ダイキ「はつきり言って、もう渚沙競技場でいいと思うこの施設で、  
もやしのチカラを見せてもらおうと思う」

エリカ「実況は私とツバサ。解説はダイキが担当します」

ツバサ「行ってもらうのは攻撃力や防御力、俊敏性など、仮面ライダーとして必須要素をゲーム化したものと」

ダイキ「なんとなく料理をやってもらう」

士「なるほど、料理を出来なければ真の男で無いと…」

天の声「違う、なんとなくだ」 ドヤツ！！

全「「「ワイ！」「」」

ソウジ「みんな、アップルパイ食べないか？」

ショウイチ「今この状況で何言ってるんだ！？」

天の声「食べる！」

大智「自重しろ！」

ツバサ「第一種目は『ピンボール&amp;ランニング』！！」

タクミ「あれ…？」

麻衣「どこかで…」

海斗「聞いたような…？」

エリカ「ルール説明します！まあ、ぶっちゃけ『ピンボール』  
ンナ  
ーです！」

全「「「パクリかよ！」「」」

ソウジ「…？」 そもそもクロックアップの世界に閉じ込められて  
いた

アスム「…？」 俗世にやや離れている

映司「…？」 旅人と言う名のフリーター

翔太郎「あー、この三人は分らないみたいだぞー？」

大智「一応軽く説明を……………モモタロスがします」  
モモタロス「久々登場なのに扱いヒドイな！？…まあ、ぶつちやけカゴおぶって走ってボールをゲットするゲーム！」  
ツバサ「制限時間は長めに三分間。ピンクボールは4球その他ルールは本家と変わらずおこないまーす！」  
エリカ「ちなみに、指令台には、今日、出る幕がなかった夏海ちゃん、土の相棒、ユウスケにしてもらいます！」

ツバサ「指令台、指令台。どちらが、ピンクボールを…」

夏海「…ですから…」

ユウスケ「…いや、夏海ちゃん……………」

ツバサ「指令台？指令台？」

夏海「……………さくん……………」

ユウスケ「……………だから……………」

ツバサ「指令台？指令台！？」

夏海「は、ハイハイ」

ユウスケ「何でしょうか？」

ショウイチ「…お約束だな…」

タクミ「いや、そこまで本家に近づけなくても…」

ツバサ「……………どちらがピンクボールを担当するんですか？」 急に

モノマネ

翔太郎「いや、声まで真似しなくても！？」

フィリップ「完全にパクリだね…」

ユウスケ「えーっと、黄色は私が担当しまして…ピンクが夏海ちゃんです」 櫻のモノマネ

夏海「はい」

エリカ「それでは、スタート！」

ユウスケ「33333…5！」





士「まてええええええええ！？」

クウガ「おりやああああ！」

マイティキック

BEST「よっと」  
普通にキック

「ぐふっ！？」

キバ「はあああああ！！」  
ダークネスムーンキック

響鬼「恨みいいいいいい！！」

キックスペックが40t

士「うわっ!？」

W「ジョーカーエクストリーム！」

今回は翔太郎の一撃

ファイズ「すみません！」  
手加減

士「ぬあ！？」

ブレイド「サッカー苦手…」

龍騎「あ、しくった」  
外れ

「ホッ」

カブト「ははは」 自慢の回し蹴り型ライダーキック

オーズ「セーヤー……ッ！」

タトバ「キック

士「ぎやあああ！？」

後藤バース「行きますよ、伊達さん！」

伊達バースPT「オツケイ、後藤ちゃん！」

W  
バ  
ー  
ス「  
「  
は  
あ  
つ  
！  
！  
」  
」

士「同時とか無し、無し！」

電王SF「行くぜ行くぜ行くぜー!!」  
剣でボールを打つ

Ag(割愛)

ユウスケ「ちょ！？シヨウイチさんの扱い！！」

シヨウイチ「orz」

「ぜー、ぜー、ぜー……」

タクミ（い、生きてる…）

アスム(す、スゴイです)

海東「…よし、六十八球中外れが十球…残りの内四十八球はゴールだよ。つまり記録は十球だね」　キックニガテなので集計  
麻衣「ちなみに、外れは、剣立さん五回、辰巳さん二回、タクミ、モモタロス、ワタルくんが各一回外しました」  
タクミ「全部ゴールしたのはソウジさんと、伊達さんと、ショウイチさんだけに…ショウイチさんの扱い…!!」  
ショウイチ「……orz」

ツバサ「あれ？以外と少ない気がしますか？」  
ダイキ「まず、常人なら十球守る事が不可能だ。なかなか高得点だろう」

エリカ「と言うわけで第二種目は星・みつつつつです！」  
ユウスケ「マチャ　キ!？」  
ダイキ「ポイントに直すと300ptくらいで」

ツバサ「第三種目は…」

大智「おい、おい、ツバサ。いくらなんでも土の体力はヤバイ。正確な記録を取るために今度にまわそう」

ツバサ「えー！？ガチですか!？」

大智「…それまでにとびっきりの種目、考えればいいだろ？」

ツバサ「……分かりました…その代わり…」

大智「…?」

大智「よし、みんな、聞いてくれ」  
ソウジ「ん？」

ショウイチ「…orz」

大智「第三種目以降は俺たちも参加だ」

全「…うげ…」

大智「…だけど、今日はもう遅いし、主役がこれだからまた今度としよう。それまで軽くトレーニングでもしてくれ」

ダイキ「器具なら大体あるからな」

タクミ「トレーニング…」

ワタル「僕、棄権…ダメですか…orz」

大智「じゃ、お楽しみに！」

全「…楽しみじゃねえよ！…」

## 十二枚目 陳情？土の大運動会！（後書き）

そろそろ本編を…

そんな十二枚目です。

五百アクセス残り八十を切ってテンション高いです。五百アクセスしたら記念作品UPかもしれないです

そろそろこいつらの実況中継に飽きて来ました…代打…いないのか…？

にしてもハルルさん凄すぎる…

この作品、かなりハルルさんの影響受けてます…

さ、勉強、勉強

## 999枚目 大体500アクセス記念！

大智「どうも、高見大智です。

スピノフとして始まり、ドタバタ耐戦となり今に至ったこの小説も、ついに五百アクセスを突破しました。

みなさまの温かいご支援、誠にありがとうございます。

これからもドタバタ耐戦は皆様にギャグを提供していく所存で」

バツシャーーーーーン！！

大智「…」 水浸し

ワタル「ププツ…」

ユウスケ「クククッ！」

士「はははははは！！！！」

大智「あんたらなあああああ！！なにしてくれてはんのやああああああ！！？」 マジギレ関西弁モード

BEST Card Change！

士「逃げるーーーー！！」

ユウワタ「わーーーー！！！！」

天の声「…オイオイ、勝手な真似をせんでくれよ…お前ら…書く量が増えるだろうが」

ソウジ「確かに。すこし自重して欲しいものだ」

シヨウイチ「…と言いつつ何故お前はおでんを作っている？」

ソウジ「…さあ？」

シヨウイチ「さあ？…じゃねえだろー！」

天の声「うーん…うーん…」

海斗「なにやってんの？」

天の声「ギャグ小説の勉強」

麻衣「…フツウの勉強もしようよ」

天の声「（グサツ！）…ま、まあ、なんだ、これからも読んでもらうには刺激が必要じゃ無いかってね」

海斗「で、答えは…？」

天の声「うん…」

ウチの小説に足りないもの…

それは…

キャラー！！…主に不憫なやつー！！」

シヨウイチ「目の前にいるだろうがあああああー！！！！！！」

~~~~~

天の声「…不憫云々はおいといて、男女比が男女男男女女よりひでえんだよ、若干どころじゃねえんだよ」 拳骨でやられたとこ触りながら

シンジ「今いる女性は…夏海さんと麻衣のみ？」

麻衣「あれ？鳴海さん…」

翔太郎「あー、亜希子は照井と一緒に帰ったからな」

天の声「…だろ？これだとオトコ比率強いから…」

門矢小夜「こんにちはー」

天堂マユ「おにーちゃんーん！」

ソウジ「マユ！？」

泉比奈「映司くん！」

映司「比奈ちゃん！？」

天の声「…を連れて来たんだ…鳴滝パシらせて」

鳴滝「ゼーハーゼーハーゼーハー…」

タクミ「それで鳴滝が死んでるんですか？」

アスム「生きてますよ！？まだ！！」

翔太郎「殺したいのかアスム！？」

アスム「…殺しはしません、清めます」

大智「あー、清めるなら奴らからしてくれ」

全「「「？」「」」」

士「」 廃人

ユウワタ「」 「」 言うまでもなく

シンジ「通りで小夜ちゃん登場シーンいないと思ったら!？」

海斗「…大智のマジギレにあったのか…」

海東「…スゴかったよ…スゴかったよ…うん」 見てた

夏海「…」 見てたのを後悔

大智「…いや?今日は手加減して50%くらいしかやってない」

全「…あれで!?!?!」

鳴滝「是非君を対ディケイドの為にスカウトしたい!!」 復活

シンジ「ここぞとばかりにはなにいつてるんですか!?!」

大智「まあ、それは断るとして、」

ショウイチ「サラツと拒絶、流したな」

鳴滝「orz」

大智「…マユさんと比奈さんと大首領のいもーと以外に誰か連れて来たのか?」

天の声「あー、一気に増えたらフィールドアウトが増える(例・フリリップ)から今回は三人だけ」

カズマ「じゃあ、歓迎パーティを…」

伊達「やるうじゃないですか」

全「…今日居ないなと思ってたら準備してたんかい!?!?!」



~~~~~

シンジ「まあ、結局してるんだけどね…」

アスム「シンジさん、ソウジさん、お酒禁止!!」

シンソウ「ふぁーいず」

シヨウイチ「…土とユウスケ、ワタルはまだ復活しないんだな」

ソウジ「…みたいだなあ」 土のディケイドライダー弄りながら

シヨウイチ「…もしかして、ディケイドになりたいのか?」

ソウジ「えーと、どうやるんだったかな?」 ディケイドライダーを腰にセット!

シヨウイチ「早速やってるし!」

ソウジ「んー?」 適当に弄ってる

海斗「…」

ソウジ「どのカードだー?」 適当に弄ってる

海斗「……」

ソウジ「あー、カブトー」 カブトを入れようとしているが分からない

海斗「……………」

ソウジ「んー?」

海斗「だぁー!!」 ソウジさん、貸して!! 奪う

海斗「まず、ドライバーをセット!そしてこのディケイドのカードを…」 右手で器用にカードを前に見せながら出す

海斗「通りすがりの仮面ライダーだッ!覚えておけッ!!」 スナップを生かしながらカードを返してドライバーに投げてドライバーを弄る

K a m e n   R i d e   D E C A D E !

斗ディケイド「こーするの!!」

小夜「…お兄ちゃん並みに上手い!!」

ソウジ「…ムリじゃないか？」

ショウイチ「それ思った」

タクミ「投げつけて入るわけがないですよ!!」

斗ディケイド「そこは編集でなんとかなるッ!!」

大智「編集とか言うな!!」

伊達「…フツウに考えてムリと言えば、後藤ちゃん」

後藤「はい…あれですよ…伊達さん」

後伊「火野のメダジャリバー」

映司「言わないで!？ホント言わないで下さい!!」

フィリップ「照井竜のエンジンブレードもそうだね、翔太郎」

翔太郎「確かに」

マユ「おにーちゃん出来るよね…?」

ソウジ「ぐっ!？」

比奈「…メダジャリバー瞬間装備出来る映司くんなら…」

映司「えっ!？」

夏海「士くんが出来るんですよ?出来るに決まってるじゃないですか!ねえ、みなさん!」

全「…ええっ!？」

翔太郎「おーっと!？早くも女性陣がキバを剥く!」

小夜「お兄ちゃんをそこまで下に言わないで!ミカンのクセに!!」

カズマ「…ブラコ「何か言いました?」（小夜超絶スマイルモード）

…言ってますん!!」

大智「…」 おもむろにディケイドライバーを掴む

麻衣「流石にこんなの誰でもム…」

大智「…」 セットしてカードを前に突き出す

大智「…」 スナップからの投げつけ&弄る

麻衣「え？」

K a m e n   R i d e       D E C A D E !

大ディケイド「…」

男全「…」 無表情&無言&編集ナシでやりやがった!？」」

麻衣「なんで!？」なんで!？」

マユ「ほら!おにーちゃん!」

比奈「映司くん!」

夏海「みなさんも!」

男全「…」マジデスカ!？」」

「結局投げつけてできたのはソウジだけでした」

男全「(ほんと、ソウジさんって何者?)(」

後藤「個人的には…ファイズになりたいが…伊達さんはもしかしたらとして、常人にはムリだから、ブレイドに…」

海斗「ブレイドは少し難しくて…」 何時の間にかブレイバックスル&スピードのAのカード装備

カズマ「!？」 自分のブレイバックスル&カード確認

海斗「あ、これ、剣崎さんのなんで」

全「…」どうやって手に入れた!？」」

海斗「まずはこのAのカードをブレイバックスルにいれてください」

後藤「はい！」 カズマの使用

映司「後藤さん！？後藤さん！？」

海東「バースくんがキャラを見失ってしまったってね…ブレイド恐るべし…」

カズマ「ブレイドのせいじゃないもん…」 泣き

シンジ「カズマ泣かすな、バ海東」 背後にカブトHFの残像

ショウイチ「なっ…ソウジ！？」

ソウジ「ん？」 明日のおでん仕込み中

海斗「で、ベルトが出たら左腕は腰！右手は手の平を自分に見せながら…顔の前方左側にまでもつてくる！ギャレンは逆側でしかも少し斜めに手を動かす動作があつて難しい！…あ、指はこうでお願いします」 親指と人差し指を立てた状態を見せる

後藤「…むっ難しい…」

翔太郎「これ、下手すりやつるよな」

海斗「で、スナップ利かして右手首回転、右手でブレイバツクルを弄りながら左手を前に突き出して…ヘシン！」

ショウイチ「変身！だろ！？」

翔太郎「オンドウル語にしくなくても！？」

Turn…

全「「…え？」「」」

海斗「…」

全「「…なんでええええええ！？」」「」

海斗「こつちが聞きたいんだよ！！何回やっても出来ないんだよおおおおお！！」

後藤「…伊達さん…」 できなかった

伊達「…ドンマイ、元気だせ、後藤ちゃん」

フィリップ「その理由、お答えしよう」 全身に花火巻きつけながら  
斗後「フィリップ……」

翔太郎「ちょいまってえええ！！お前花火をおいとけえええ！！！！」

フィリップ「実は……いや、まあ、普通に考えたら当たり前なんだけど、仮面ライダーになるのは条件があつて、一之瀬海斗や後藤慎太郎はブレイドの条件に適していないんだ」 花火装備

海斗「じゃっじゃあ、誰がブレイドに……」

フィリップ「そうだねえ……あえていうなら……翔太郎、君には出来る」  
翔太郎「俺！？っていつか花火置けよ！！」

フィリップ「翔太郎はいつも切り札の記憶とともにいるからねえ……」

他は……そもそも似ている辰巳シンジ……かな？」

シンジ「似ている……あ、AP的な意味か」

天の声「詳しくは今度するから今回はスルーな」

カズマ「あ、そうだ！マユちゃん達忘れてた！」

ショウイチ「というか、マユとソウジ……どれだけ年離れてんだ……？」  
アスム「素朴な疑問すぎます」

マユ「はい、これが『天堂屋』自慢のおでんです！」

女性陣「……おおー！！」

マユ「あ、そうだ、おにーちゃん！味見してよ！」

ソウジ「ん？どれどれ………うん、上達したな、マユ」

マユ「エッヘン……ハハハ！」

ソウジ「ハハハ！」

カズマ「…微笑ましい！！」

タクミ「素晴らしい兄妹愛…！！」

シンジ「…写真撮りたくなってきた…」 カメラ装備

アスム「僕も妹欲しかったな…」

海東「少年くん…あの二人はあの二人だからこそあの兄妹愛になるんだよ…」

麻衣「にしても…このおでん美味しい」

夏海「おじいちゃんのより…」

比奈「私のより…」

小夜「月影より…」

ソウジ「…『天堂屋』の味の最大の秘訣、教えてあげようか？」

女性陣「…うん！うん！…」

シンジ「…」 無言で微笑ましい兄妹の写真とってる

マユ「私のおばあちゃんは言ってたよ、味の秘訣は…食べてもらう人の笑顔を想像すること、相手を思いやることだ…って 私は、今日はおにーちゃんに会えたからおにーちゃんを思っ作っただよ！」

ソウジ「これもおばあちゃん言葉…真心、これが最大の隠し味。真心無しで着飾ってうまくみせようとしても逆にマズくなる。真心こめて、大切に作るのが料理のコツなんだ…もっとも、料理だけじゃない、人間関係を築くのも真心次第だ」

女性陣「…ブワッ！…」 号泣

天堂兄妹「…！？…」

大智「…大丈夫、感涙だから…」 号泣

ショウイチ「…いい言葉すぎる…」 号泣

タクミ「深イイ!!」 号泣

シンジ以外その他全「…深イイ!!」 号泣

シンジ「…」 涙をカメラで隠しながら撮り続けるプロ魂<sup>スビリッ</sup>

マユ「…おにーちゃん、どうしよう?」

ソウジ「…とりあえず、みんなにおでん配ろう。おばあちゃんが言  
ってただろ…真心籠った食べ物人は笑顔にする…って」

マユ「だね!」

## 十三枚目 オリジ達とおでんと大運動会

ツバサ「さあ、リイマジVSオリジVSDCD&amp;W&amp;p:OOO&amp;BEST連合の大運動会を始めるよ!!」

カズマ「え!?オリジ勢よんだの!？」

シンジ「鳴滝がばしられたらしいぜ」

アスワタク大( (ああ、だからあそこで虫の息なのか...) )

ダイキ「...だが...例によつて電王は除外なんだな」

天の声「ああ、だってなんかリイマジとオリジの区別つきにくいし、野上一人いると戦力にかなり不公平だし。無駄に...特に響鬼より長くやるなんて...!!」

海斗「つまり作者の嫉妬ね」

ツバサ「知ってる人はもうお分かりと思うが、一応チーム分けを發表します」

### チーム分け

オリジ：つまり本編の主役

五代・津上・城戸・乾・剣崎・ヒビキさん・天道・紅

リイマジ：つまりDCDで出た各世界の主役

小野寺・芦川・辰巳・尾上・剣立・アスム・天堂・ワタル

DCD&amp;W&amp;OOO&amp;BEST：言わずもがな

モヤシ(リーダー)・ホモ・半熟玉子・検索バカ・パンツ男・5103・伊達さん・関西弁オカン・ポセイドン

海斗「いや、俺なんでポセイドン!？」



天の声「いや…ほんとになんとか。現状でお前を一言で表すことが出来なかったから…」

大智「伊達さんは『伊達さん』やん？なんでや？」 関西弁

天の声「『伊達さん』の時点で全てを表しているからそれでいい」

翔太郎「…ってか1番ヒドイのは大智のだぞ…怒らないのか？」

大智「ん？」 超絶スマイルで作者ヘツドロック

海東「関西弁になつてると思ってたら！？」

シヨウイチ「泡吹いてる！泡吹いてる！ヤメろ！離せ！！」

士「作者が変なことというから…！！」

ソウジ「ん…とりあえず、流石に危なくないか…作者の生死が」

例によっておでん製作中

伊達「あと二分だな」 時計見ながら

…とりあえず作者は泉信吾に保護されて病院に行きました…

ツバサ「じゃさつそ…」

五代「まって！これじゃあ勝負にならない気が…」

ユウスケ「人数差がツー！！」

ダイキ「あー、そこらへん大丈夫。ツバサがとうとうやらかして…

さ…」

全「…やらかした…？」「…」

弦太郎「俺は仮面ライダー全員と友達になる男だ！」 スマイル炸裂

ユウキ「ここが異世界かあ…星座も違うのかな？」

賢吾「…いや、そっくりだし多分同じだろ…」

JK（not女子高生）「弦太郎さん…ここじゃあのおっかない奴



剣崎「ヒビキさんとたつくんはどう？」

巧「…オイ…」

ヒビキ「構わないけど」

五代「じゃ、頑張るぞー！」

全「「オーツ！」」「」

シヨウイチ「…なんでこのチーム俺がリーダーなんだ…」

ソウジ「最年長だから」

シヨウイチ「いや、リイマジのヒビキがいるだろ」

ソウジ「今居ないから仕方ない」

シヨウイチ「なんでサボったあのオヤジ…！！」

ソウジ「シヨウイチも十分オヤジ」

シヨウイチ「俺はオヤジ臭いつてか！？加齢臭と言いたいのか！？」

ソウジ「…カレー臭？シヨウイチ、朝からカレー食ったのか？」

シヨウイチ「食って無いわ！！お前とおんなじ朝食（今朝の研究所のみんなの朝食はダイキの目玉焼き定食）だっただろ！」

ソウジ「いや、今朝はおでん（自作）食べた」

シヨウイチ「お前はおでんしかアタマに無いのか！？」

ソウジ「いや、ある」

シヨウイチ「…なんだ？」

ソウジ「天堂屋のこと」

シヨウイチ「結局おでんじゃねえかあああああ！！」

カズマ「…回し手は俺とシンジでするから…」 ヒソヒソ

シンジ「みんな頑張ろう…」 ヒソヒソ

全（口論中の二人除く）「「オーツ…」」「」

夏海（スターター担当）「よおい…スタート！！」

賢吾「各チーム一斉にスタート…なんで俺が…」

ユウキ『あぁと！？オリジンチーム速い！速い！！猛烈スピードで飛んでいます！！かつカウントは…もう40！？』

美羽「…このチーム野上良太郎が居なくてよかったわね…」

比奈「□のがみ？□」

美羽『仮面ライダー電王の装着者よ』

全（（なんで知ってるんだろう…））

巧（というかマイク入ってる…）

土「クソッ！伊達！後藤！早く回せ！！」

伊達「引かかるな……ヨッ！」

スピードアップ

Dチーム「うぎゃあああああ!？」

後藤「伊達……さん……！！腕が……もげる……う……う……う……う……ッ！！」

「シヨウイチ、大体お前は！！」

ソウジ「シヨウイチはさ……」

タクミ「口論（と言っか漫才）してないで跳んで下さい！！」

$$\begin{matrix} \text{五代} \\ \lceil \\ 8 \\ 1 \\ ! \\ 8 \\ 2 \\ ! \\ \vdots \\ \rfloor \end{matrix}$$

JK「はあっ…はあっ…じゅぢゅぢゅ!？」

比奈「あぁつと！ここで、オリジチーム脱落！記録は…84！」

小夜「原因は」……」

劍崎「たっくん！引つかから無いでよ！！」

巧「え！？え！？俺！？いや、俺回し手……」

城戸「たっくん……信じてたのに……」

ヒビキ「青年、あともう少し頑張つて欲しかったな……」

紅「ゼーハーゼーハー……」

天道「おばあちゃんが言っていた…大縄跳びで引つかかるたつくんはチームに悪影響をもたらす…」と」



マユ『弦太朗くん、不良<sup>トラッシュ</sup>らしからぬさり気無いフオーロー!』

比奈『弦太朗くんって、もともとは優等生なんですか?』

ユウキ『確か…そうですね!』

美羽『…なんで時代遅れの不良<sup>トラッシュ</sup>に…』

麻依(救護担当)「んー…軽い打ち身だね、シップ貼ったら大丈夫でしょ」

弦太朗「良かったな!」

タクミ「う、うん…(オルフェノクだから元々そんなに痛く無いし…)」

麻依「まあ、頑張つてね…あ!でも大智達が勝つと思うけど」

弦太朗「俺がいるから百人力!勝ちはこちらだ!」

麻依「はははー、どーかな?ま、早くいきなよ、次始まるよ」

弦太朗「おう」

タクミ「はい」

麻依「さて…後藤さん、大丈夫ですかー?」

後藤「」 伊達と映司に担ぎ込まれた

――

ソウジ『第二種目は400メートル走だ』

全「」「ソウジ(さん)がなんでアナウンスするの!?!」「」

ソウジ『おでんを差し入れたからだ』

シヨウイチ『正確に言つとソウジのおでんを差し入れに本部席にやつて来たらみんな食い始めちゃつて、で代理でアナウンスしてるわけだ』

リイマジチーム「」「戻つて来て!!ウチのツートップ!!!!!!」「」

カズマ「カムバック!カムバック・ザ・ヒューマン!!」

シヨウイチ『俺は人間だッ!!』

アスム「まずヒューマンはいらないですよね?なんで付け足したんです?」

ワタル「無理ですよ、カズマ。シヨウイチはもう覚醒してますから」  
シヨウイチ『覚醒ってなんだッ!!アギトのことか!?』

ソウジ『!!』

シヨウイチ『お前はなんでそんな目をする!?』

ソウジ『シヨウイチ、人間じゃ無いのか!?』

シヨウイチ『うるさーい!!よく考えたら人体に悪影響あるタキオン粒子をずっと浴びてたお前の方が人外だろうがああああ!!』

タクミ(また漫才始めちゃったよ…)

土「さて、資料によると四人でリレー形式で走るらしい…あとアンカーのみ変身可(ただし、クロックアップなどは禁止)、アンカーは800メートルらしい…」パンフ見ながら

海東「じゃあ、僕がアンカーだね!」

全「…何故?」

海東「土は知って欲しかったな…実は…」

五代「さて、僕は足には自信があるよ!」一番走者

ヒビキ「鍛えてますから!シュツ!」二番走者

天道「俺は走るのも頂点に立つ男だ…」三番走者

剣崎「さて、鍛えてる2人(＋リーダー)が集まったところで…」

巧見る

城戸「ここはやっぱり…」巧見る

巧「…いや、確かにウルフォルフェノクだけどさ…オルフェノク体は禁止だろ?」

剣崎「大丈夫、アンカーだから変身出来る」

巧「だったら翔一さんの方が…」

城戸「名誉挽回にも!!」

巧「だから俺は引つかかってねえッ!!」

カズマ「ソウジさんとシヨウイチさんすっかりアナウンス席行っちゃったよ…」 一番走者

シンジ「シヨウイチさんは警察だしソウジさんはZECTの訓練受けてきたから速いはずなのに…」 二番走者

タクミ「…でも僕よりアスムくんの方が速い気がする…」 三番走者

弦太郎「なあに、俺が1番とって来てやるぜ!!」 ラスト

夏海「よおい……スタート!!」

ソウジ「各チーム一斉にスタート!!」

映司「パアアアアアアアンツ!!」 Dチーム一走

シヨウイチ「おっと、火野映司速い! 奇妙な叫びを上げているがこれは公然わいせつにならないのかー!?!」

士(実況始まると仲イイな…あの二人)

カズマ「うええええええええ!!」

五代「僕も負けないよ!!」

( 最後で五代が追い上げて異様に速かった公然わいせつ罪予備軍と並びました )

ソウジ「大体突筆する事もなく…殆ど同時に第二走者にバトンがわたっ…」

映司「あっ!!」 三回スピン転け

翔太郎「おい!!」

シヨウイチ「なんと、トップの火野映司が転けたー!!」

ソウジ「左翔太郎、すぐさまバトンをとって走るが…早くもこれで50メートルの差が!!」



翔太郎「うおおおおおおおおお!!」

シンジ「おりやああああああ!!」

ヒビキ「うんうん、最近の若者は熱血だねえ」

ソウジ「哀愁に浸っているヒビキが何気に…と言つか圧倒的に一位だ!」

ショウイチ「このままだとオリジチームの優勝か!?…オリジチーム、バトンが渡った!!」

ヒビキ「青年!」

天道「…任せろ…おばあちゃんが言っていた…バトンを受け取ったすぐに走れ…」立ち止まってお決まりのポーズ

巧ファイズ「なら走れよ!!」

ショウイチ「巧ファイズのツツコミが唸る!だがこれは完全にロスタイムだ!!」

ソウジ「続いてタクミ、海斗が走り出す!」

タクミ「…さっ叫ばなきゃダメなのかな…」…うっうわああああああああ!!」

海斗「ねむ」

ショウイチ「ここでリイマジチームとDチームが並んだ!!天道は…宣言通りやはり速い!!」

ソウジ「さて、このままアンカーに…」

士「天道!」

天道「ん?」

士「ほらっ!!」 某東雲 イ役の時の榮 奈々の特大パネル

天道「…お嬢…え!?え!?」 混乱

ショウイチ「あぁっ!!天道簡単に釣られた!!」

ソウジ「中の人作戦成功だな、ちなみにこれは妨害工作にならない!というかカブト装着者がそんなことでどうする!!」

巧ファイズ「いや、完全に妨害だろおおおおお!!」

カズシンアスワタ「(ああ、ソウジさんの独断だな…)(」

シヨウイチ「その間にタクミがフォーゼに、海斗がディエンドにバトンパス！」

巧ファイズ「あー！くそ、天道！バトンかせ！！」

ソウジ『やっと巧ファイズもスタート。あと気になるのは…海東が  
コソコソ言ってた…』

土「そう！ディエンドには元々カード無しで（クロツクアップには負けていたが）高速ダッシュ出来る機能があるんだ！！」

「ディエンド」と、言うわけで僕が一位を貰うよ!」

全「『せけええええええ！』」

五代「よ」何かを掲げる

「ディエンド、そっそれは……!？」

全「「「  
∴?  
「「「

五代「そう、クウガの変身に必要なアーケルのような効果があり別名・擬似アーケルと呼ばれる、その名も『アーカム』!」

全「「「なんじゃそりやああああ！？」」」

五代「なんかね、岡山県の遺跡で発掘されたらしいのよ…超変身！」

「ディエンド、その秘宝、僕が戴くよ!!」

コース外れる

土「だあああ！！海東！戻って来い！！」

翔太郎「だつ代走！代走OK？」

ソウシヨウ  
ウ NO  
T H A N K  
Y O U ! !

五代クウガ「ほらほら」  
バイクで逃げる

「ディエンド」お宝!!」

バイク無いので走って追いかける

五代クウガ「ほーらほーらほーら」

「ディエンド、まちたまえ！」

大智「…サツサと走らんかこのボケエエエ！！！」  
CU並の速さ  
で追いつき殴る

「ディエンド「グフツ！」？」

全「『アンタナニヤツテンダー!?』」

Wカズマ「『オンドウルルラギツタンデイスカー!?』」

ソウジ「…結果は…まあ、リイマジが一位で30pt、オリジが二位で15pt、D連合が0pt…全チーム30ptで並んだな…」

ショウイチ「…土の時に反則言った方が良かったか…?」

ソウジ「いや、カプト装着者があんなことでは恥だ!よって天道には…フフフ」

~~~~海東は救護の所に運ばれ、後藤が復活しました~~~~

――

マユ「波乱に満ち溢れてきた運動会午前の部最後はムカデ競争です!」

カズマ「うわ、もう本格的に小中学校の運動会みたい」

ソウジ「ただいまい」 やりきった感満開

ショウイチ「お疲れー」 ガチ疲れたオーラ

ユウスケ「…リーダーと副リーダーが呑気に…」

シンジ「おかえりなさい」

ワタル「天道総司になにしたんですか?」

ソウジ「ん?」 笑顔満開

ショウイチ「…」 俺に質問するなオーラ

アスム「まあまあ…お茶ですか?ポ リですか?

「アスムのクーラーボックス(最大80kgまで可)

ユウスケ「いやいやあの二人さつきウチのチームのためになんもしなかったよ!?」

ワタル「じゃ、僕コーラで」

アスム「はい」 コーラ出す

ソウジ「コーヒーで」

アスム「どぞ」　コーヒー出す

シヨウイチ「焼酎と裂きイカ」

アスム「は……焼酎は終わってからにしてください」　焼酎出しかけて引ッ込める

タクミ「どさくさ紛れになに頼んでるんですか！？あとアスムどんだけ万能なんですか！？」

アスム「ソウジさん、ケーキもありますよ」

ソウジ「喰う！」

タクミ「本当に何々入ってるんですか！？」

シンジ「まあ、とりあえず聞いてなかっただろっから放送の内容を言っとムカデ競争は各チーム七人で競争する、コースは二百メートルトラック一周だって」

弦太朗「つまりアスムとワタルは応援だな……身長的に」

アスム「暇です」　リイマジ溢れ

ワタル「暇です」　リイマジ溢れ

巧「ちよつと休憩……」　オリジ溢れ

紅「暇ですねー」　オリジ溢れ

士「リーダーなのに溢れたー」　D 溢れ

ダイキ「じゃあ、あんたらはちょうどもやしもいるしチーム対抗料理対決って事で」

ツバサ「お題は家庭料理の定番、肉じゃが！」

エリカ「午後の部開始前に審査します。ちなみに食材は何使っても結構です」

溢れ全「……聞いてない！？そんなこと聞いてないよ！！」「」

比奈「向こうでなにかあったみたいだけど時間ないから始めましょー！」

夏海「よおい…スタッツ!!」

カブトMF「<sup>ソウジ</sup>1,2 1,2 1,2 先頭

ショウイチ「なんでソウジ変身してるんだ!？」

スカブトMF「(変身した方が)力が強いから」

ショウイチ「いや、下手すりゃ失格になるんだぞ!？」

スカブトMF「許可もらった」

賢吾「おい、そこ!漫才するな!!あと誰が許可出した!？」

マユ「お兄ちゃん頑張れー!ー!ー!」

全「(…あ、やっぱり…)」

スカブトMF「というかショウイチ突っ込まずに足を合わせる。ほ  
れ1,2 1,2 1,2…」

津上「え!?先頭変身OK!？」 今まで目立つ事なかったから先頭

城戸「今は変身し無いでくださいよ!？」

ヒビキ「…と言うかやっぱり俺が先頭の方が良かったんじゃない？」

### 最後尾

天道「 廃人

JK「ちょ!?バラバラすぎますって!？」

ユウキ「確かにオリジチーム明らかにこれは人選ミスです!バラバラで全くあつてません!」

美羽「JKがしっかりしないからだわ…」

JK「違いますって!？」

小夜「さてさて、こちらリーダーとしてもパーフェクトなお兄ちゃんを抜かした愚かなDチームは?」

比奈「そのえげつない紹介やめてください!」

映司「1,2,3,4!」 先頭

Dチーム「1,2,3,4!」 ピッタリ

ユウキ『火野映司を先頭にスゴい組織力で早くも最終コーナーに差し掛かりました（他のチームは最初のコーナーで悪戦苦闘中）！！』  
美羽『どのくらいの組織力かとあえて言うとなあZECTを凌ぐ組織力だわ！！』

比奈『だからなんで美羽さん仮面ライダー何気に詳しいんですか！？あと小夜さんバナナの皮投げるのやめてください！！』 小夜押さえつける

小夜『火野…映司…お兄ちゃんの仇！！くらえ、バナナの皮！！』  
比奈の怪力を振り切る

映司「1、2、3、4！」 バナナの皮をうまく避ける

ユウキ『あーつと火野映司バナナの皮をもろともしません！！』

全「「火野映司自重しろ！？」」

――

賢吾『…言わずともわかると思うが自重しない男チームが一位（30pt）リイマジ二位（15pt）オリジン三位（0pt）…で午前  
は終了だ』

大智「…もしかしてまた次回に引つ張るのか…？」

ツバサ「仕方ないんですよ。作者に文才が無いから…」

カズマ「あれ？アスムくんはワタルくんは…？あと土」

剣崎「たつくんも渡くんもいない…」

「ぎゃあああああああああ！？」

全「「悲鳴！？」」

ダイキ「…次回をお楽しみに！」

## 十四枚目 破壊者と守護神と料理対決

【前回のあらすじ】

ツバサ「さあ、リイマジVSオリジVSDCD&amp;W&amp;p:OOO&amp;BEST連合の大運動会を始めるよ!!」

天道「…任せろ…おばあちゃんが言っていた…バトンを受け取っただけに走れ…」

五代「そう、クウガの変身に必要なアークルのような効果があり別名・擬似アークルと呼ばれる、その名も『アークム』!!」

ダイキ「じゃあ、あんたらはちょうどもやしもいるしチーム対抗料理対決って事で」

~~~~~

…そして、現在に至る。

翔太郎「五代さんのセリフいらねえ!!」  
フィリップ「どうしたんだい、翔太郎？」

…そして翔太郎は何故か地の文が聴こえる。

翔太郎「俺だけ!？」  
フィリップ「だからなんだい、翔太郎!？」

――

~~~~~ 昼休み中です。オリジナル、リイマジネーションはとても仲がいいです。顔が違うからかな？~~~~~

カレー話にふける者

五代「…で、インドでは…」

ユウスケ「なるほど……じゃ、スリランカではどうなんですか？」

記者同士意見交換する者

城戸「…へえ、そんなことがあつたんですか？」

シンジ「そうですね、」

説教する者、される者

ソウジ「大体な、カブト装着者がそのようなことでもいいと思ってるのか？」

天道「ぐっ  
…」

うえーい、うえーい

カズマ「社長って…大変だっえーい」

剣崎「降格からのトップだもうえーい」

やさぐれる者、聴く者

[illegible]

乾「……そうか」

ノホホンとする者達

アスム「日差しが暖かいですねえ……師匠」

海東「だねえ……響鬼くん」

ヒビキ「眠たくなってくるよな……少年……」



依頼する者される者

ワタル「すみません、ヴァイオリンを作っていただけないでしょうか…？」

紅「いいですけど…道具が無いんで帰ってから…」

そして…

シヨウイチ「……Wカズマなんかおかしい！！微妙にオンドウルになるな！あとタクミやさぐれるな！乾の方の『タクミ』も突っ込め！！あと鬼と泥棒と鬼和むな！つか寝るなあ！！そして天の堂に座す方の『ソウジ』、クナイ取り出すな！天の道を往く方の『ソウジ』も地面に屈するな！イメージが完全にひっくり返るだろうが！！だからWカズマ『うえーいうえーい』煩いッ！！！！」  
突っ込む者

津上「ん、なかなか大変ですねえ」

シヨウイチ「そう思うなら手伝え！！」

士「いや、津上は絶対ボケだぞ！！しかも天然の方の！！」

翔太郎「あと、シヨウイチさん一人で殆ど全部言っちゃってツッコむスキマが無いんだがな」

フィリップ「　　猛スピードで本めくる

シヨウイチ「いや、あるだろ！？」

――

大智「みんな、弁当到着」  
全「「「おおっ！！」」」  
「　　拡声器使用

麻依「今日の弁当は海斗イチオシの弁当だよ」

海斗「フツ…そう、この街一番う「さ、みんな、集まれー（拡声器ボイス）」ま…大智、無視しないでくれない？」

大智「ん？」  
拡声器ボイス

|||

全  
「  
「  
「  
:  
「  
「  
「

全  
「  
「  
「  
……  
「  
「  
「

全  
「  
「  
「  
.....  
「  
「  
「

全（ソウジ以外） 「 「 「  
で え え え え え え え え え え え え え え え

! ?  
└  
└  
└

大智「ハハハ」  
拡声器使用

麻依「フフッ」

海斗「ハッハッハー！」

腰に手あてながら

~~~~~

ちなみに、何故驚いたのか解説しよう

今回海斗が注文した弁当は個別に一つずつ…じゃなくて一つの弁当をみんなで囲って食べよう！って形式なんだけど、その弁当一つ分が…

縦は…まあ、そこまでなんだが、横が寝そべった剣崎約1・5人分…

それだけならまだしも、それが何個もあり積み重なると結果的に剣崎を抜かすくらい…しかも特大ケーキ付き…

Are you OK?

~~~~~

そのデータ…マジか？と唯一地の文が聴こえる翔太郎

誰がこれだけ食べるの？…と美羽

限度があるだろ…と賢吾

なっなんじゃこりゃ…と弦太郎

検索を始めよう…とフィリップ

無駄にデカイな…とショウイチ

うえ…とカズマ

これもたつくんのせいなんだ…と何気に比較対象にされた元祖もや

し…否剣崎

だから俺関係ない…と乾

よくこれだけ食材あつたな…と天道

ケーキ…とソウジ

おにいちゃんのおでん食べたい…とマユ

ゴルゴムの仕業だ！…と南光太郎

翔太郎「…なんで南光太郎さんが！？なんで心の師匠が！？」  
士「なに！？南光太郎！？」

南「…じゃ」 オーロラで回収される

全「…何しにきたあの人おおおおお！？」

翔太郎「みなみさあああああああああああああああああ  
ああああああああああん！！！！」

フィリップ「翔太郎！？翔太郎！！」

（翔太郎の中の人は仮面ライダーBLACK系統が好きでジョーカーの変身ポーズもそれを意識してるそうです）

「とりあえずお食事開始」

タクミ「あ、この焼き豚美味しい！」

ショウイチ「どれどれ…うん、うまいな！」

ソウジ「ステーキがあるな…ケーキ食べていいか？」

天道「…弁当にステーキ…普通は硬くなってうまく無いんだが…」

津上「あ、柔らかい！美味しい！」

アスム「ホントですね！美味しい！…あとソウジさん、ケーキは食後でお願いします」

ユウスケ「カレーがある！！」

五代「ふむふむ…美味しい！スパイスも丁度いい！」

…

映司『…えー、お食事も始まりましたのですが、皆さん！ご注目下さいー！』

全「「「？」「」」

映司『これより、チーム対抗料理対決を行いますー！』

全「「「聞いてないよ！？そんなことー！」「」」

映司『今回、司会を務めますは、バイト（¥2000）で雇われました火野映司です』

タクミ「あ、それバイトなんだ…」

映司『出場選手はさっきのム力デ競争であまったメンバーで、ム力デ競争の間に作ってもらいましたー！テーマは肉じゃがですー！』

天道「肉じゃが…明治時代、東郷平八郎が考案したと言う日本版シチュー（というかポトフ？）…しかし、これは完全な和食ではなくお惣菜だ。その点を踏まえるべきであろう…」

ソウジ「あと、いわゆるお袋の味からどれだけ崩さずにつまさを極めるか…短時間だがどれだけ味がしめているか…だな」

シヨウイチ「もう、お前らTVのコメンテーターしろ…」

翔太郎「投げやりにならないで下さい、シヨウイチさん」

映司『それでは尺もないので早速いきましょう、EntryNo.

1！王子と鬼が手を組んだ！ワタルエンドアスムー！』

アスワタ「ハイ！これですー！」

アスワタ肉じゃがが来た！

見た目は美味しそうだぞ！

映司『では会場の皆さん、試食してくださいーい』

タクミ「美味しいけど…脂がスゴい…」

ワタル「もちろん、最高級黒毛和牛の脂のりのいいところを…」

シヨウイチ「…いや、普通そんな脂ギトギト要らないから…」

ワタル「なんでですか！？高いものを使うと旨くなるでしょ！？」

ソウジ「甘い！生クリームよりもケーキよりもシロップよりも断然甘い！値段と旨味は必ずしも比例しない！！その考えがある限り旨い料理はムリだ」

マユ「流石おにいちゃん！！」

ワタル「作ったのはアスムです、僕は料理無理です」

アスム「材料チョイスはぜんぶワタルじゃ無いですか！？なんで僕になすりつけるんですか！？」

シヨウイチ「とりあえず、アレをみてみる…」

天の声（退院）「うつ！？なにこのギトギト！？俺だけムダに油浮いてんじゃない！？…イジメ！？…うぐ！？グフッ！！！？（吐血）……」アレ

海斗「あー、そっか。ウチの作者油に弱いんだ」

伊達「油負けか…とりあえず吐いてきな」

後藤「久々の登場でいきなりお食事中すいませんWordを言わないで下さい」

映司『どんどんいきます！EntryNo.2不憫なツツコミと真

面目なハーフは何をしでかす！？乾巧エーンド紅渡！！』

乾「司会おかしいぞ！？」

紅「僕らのほこれです」

イヌクレ肉じゃがが来た

見た目は少し煮崩れしているぞ！

剣崎「（パク）…あ、素直に美味しい」

カズマ「（パク）…うん、単純に美味しい」

城戸「（パク）…ほんとだ、純粹に美味しい」

シンジ「（パク）…ですね、普通に美味しい」

天道「うまい、だが…これは…」

ソウジ「確かに…そうだな…」

巧「…つまり何が言いたい？」

道堂「取り立てて目立った点が皆無」

イヌクレ「……orz」

映司『さてさて最後は、EntryNo.3自称万能人間もやしは料理も万能なのか！？門矢士！！』

士「フフン…俺様のはこれだ！」

もやし肉じゃがが来た

フレンチさ香る綺麗な盛り付けだ！

タクミ「とても美味しい…ですけど…」

ショウイチ「これはお惣菜じゃなく…」

シンジ「フレンチ料理じゃないの？」

カズマ「うえい？」

士「わかってないなあ？お惣菜なんて古い古い、これがホンモノの『ニクジャーガ』だ！」

天道「…」 背後に皆既日食オーラ  
ソウジ「…」 背後に真っ黒なプトティラオーラ

士「やれ大根の煮物だ、やれおでんだなんて古い！今は世界を見るべきだぜ」

カブトゼクター「キュイイイイン」

カブトゼクター（黒）「キュイイイイイイン」

シンジ「あれ？赤いゼクターと黒いゼクター…？」

海斗「まっまさか!？」

天道「… 変身、キャストオフ」 カブトゼクター使用

ソウジ「変身…キャストオフ」 ダークカブトゼクター使用

Change Beetle

タクミ「チョッ、ソウジさんちがあああああああう!！」

士「これで俺様の優勝は…」

1.2.3.

カブト&ダブト「ライダー…キック…!！」

Rider Kick

士「ん？」

カブト&ダブト「日本の味を汚すなッ!！」

士「ぐふう!!」 飛んでいく

ユウスケ「士あああああああ!？」

夏海「士くうううううん!！」

海東「士あああああああ!？」

小夜「おにいちやあああああああああああああああ



あああああああああああああん!？」

シヨウイチ「…アレ、言つとくか…」

タクミ「たーまやー」

ワタル「かーぎやー」

アスム「しーしょおー」

カズマ「うえーい! (訳・たーまやー)」

シンジ「レンさん! (訳・かーぎやー)」

シヨウイチ「やーしろー」

ダブト(ソウジ)「おーでんー」

翔太郎「みーなみさん」

フィリップ「おーやつさんだろ、翔太郎!？」

映司『ぱーんっー』

伊達「おーでんー」

後藤「もう、5103なんて言わせない!! (訳・たーまやー、かーぎやー)」

大智「まーいー」

海斗「まーいー」

麻依「!？」

モモタロス「ぷーりんー」 なんとなく交じった

乾「ナニヤツテンダお前らあああああ!？あとモモタロス何処からやってきたあああああ!？あと津上も言おうとするな!おい、五代、「かーれー」とか言うなああああああ!!!」

天の声「ね、たつくん不憫でしょ？」

信吾「…同意しかねる…が、とりあえず突っ込むポイントはまだまだあるだろッ！！」

天の声「お前もツツコミか！？」

アंक「ワイ、アイス！！」

天信「…煩い！！」

とりあえず士は地球一周して帰ってきました（着地点・高見大智の腹に頭から突っ込む）

映司『…厳正な審査の結果、イヌクレチーム、優勝です！！』

イヌクレ「…あの仕打ちで！？！」

映司『二位はアスワタチーム、三位はもやし（天道と天堂が怖くて子夜以外誰も入れなかった）でした！』

士「…orz」

ダイキ「よってポイントはオリジに60pt、リイマジに30pt、Dチームは0ptだ」

Dチーム「…何それ、ズルい！！！！」

ソウジ「…ケーキ食べないか？」

アスム「フリーダム発動しないでくださいよ！？でも今回は（Dチーム的な意味で）感謝します！」

シヨウイチ「次回に続くぞー」 棒読み

十五枚目 リレーと破壊者とフォーゼキター……!! (前書き)

【前回、前々回のあらすじ】

p・O・O・O&amp;B・E・S・T連合の大運動会を始めるよ!」

ダイキ「じゃあ、あんたらはちょうどもやしもいるしチーム対抗料理対決って事で」

海斗「フツ…そう、この街一番う「さ、みんな、集まれー」（拡声器ボイス）「ま…大智、無視しないでくれない？」」

[illegible]

カブト&ダブト「日本の味を汚すなッ！」

$$\begin{array}{c} \sim \\ \sim \\ \sim \end{array}$$

∴そして、現在に至る。

比奈「ウチの作者があらすじミステイク過ぎる件について」

## 十五枚目 リレーと破壊者とフォーゼキターーー！！

昼食も終わり、午後の部が始まるようです。

賢吾『さて、午後の部が始まるらしいが…』

天の声『…てへっ』

賢吾『なんでお前がここにいる！？』

天の声『なんとなく』

賢吾『なんとなくでいるな！邪魔だ！！』

全（（（思いつきりマイク入ってるんですが…）））

小夜『第五種目は障害物リレーだよ！頑張ってね、おにーちゃん』

マユ『まず一走がパン食い競争、二走が二人三脚、三走がハードル走、四走が借り物競争です！頑張れ！おにーちゃん』

美羽『いや、貴方達ブラコン自重しなさい！』

タクミ（それでも公正公平の立場から放送するだけだと思います）

比奈『出場選手はコチラ』

映司『パン食いつて簡単過ぎ無い？』 一走

翔太郎『二人三脚と言えば…』 二走

フィリップ『僕たち以外いるかい？』 二走

海斗『ハードルなら任せろ！！』 三走

士『ラストはやっぱり俺だよな』 四走

大智『もー勝手にしやがれ』

海東『コレが『アーカム』…』 五代からウヴァ…否もらった

後藤「泥棒ですかそうですね」 元警察  
伊達「まあまあ、後藤ちゃん」 医者

天道「…フツ…」 一走

五代「がんばるよ！」 二走

津上「うん！」 二走

ヒビキ「ベストを尽くすよ！」 三走

乾「……そしてアンカーが何故俺なんだッ！！？？」 四走

剣崎「カズマ頑張れ！」

城戸「シンジ頑張れ！」

JK「なんで敵を応援するんですか！？」

紅「…（早く帰りたい…）」

タクミ「…頑張ります」 一走

カズマ「うえい！（訳・よっしゃっ！！）」 二走

シンジ「レンさん！（訳・頑張る！）」 二走

アスム「ハードルって低いんですね」 三走

ワタル「…なんで僕がアンカーなんですか！？ユウスケは！？ソウ

ジさんは！？シヨウイチさんは！？」 四走

弦太郎「…最新ライダーなのに…orz」

ユウキ「ほっホラ弦ちゃん！応援も仕事だよ！！」

天の声「あはははっ！！みんなー！ここでじゅーだいはっぴようだよー！！」

賢吾「お前酔ってんだろ！？」

天の声「煩い賢吾。…で、重大発表とは…次の種目でラストだからポイントは1000ポイントだよー！！」

全「「定番だけど…今までののはなんだっただー!?」」  
タクアス（「ぶっちゃけネタが無いんですね、分かりました」）

シヨウイチ「…位置について…」

全「「なんであんたが!?!」」

シヨウイチ「俺に質問するなあああああああッ!」

翔太郎「フィリップ!? シヨウイチさんの後ろに!」

フィリップ「ああ…照井竜の生霊が…」

夏海「…唯一の番が…orz」

麻依「…ドンマイ!」

シヨウイチ「もーいい!位置についてよいドン!」

タクミ「え!?ええ!?!」

マユ「さあ各者一斉に…おおと!?!タクミくん出遅れました!」

コレは完全なミスです!」

ソウジ「さてと、おい、シヨウイチ!戻ってこーい!」

リイマジ「「あんたがな!?!」」

ユウスケ「ってかなんでそこにいるんですか!?!」

ソウジ「こつちの方が見やすいから…ってかユウスケも暇ならこーい」

乾「いや、誰が行くか…」

ユウスケ「…お邪魔しまーす」 本部席へ

乾「行くなよ!?!」

小夜「そうこうしているうちに全員パンエリアに!」

タクミ「…え!?!」

映司「ええ！？」

天道「…ん！？」

全「「「…え…！？」」」

全「「「…フランスパン？」」」

天の声「うん。金が無かったから…あとハンド禁止な」

全「「「しよぼい！？普通アンパンだろ！？」」」

シヨウイチ「と言うか全員で驚くという伏線張ったのになんでしよぼいんだよ！？」殴る

天の声「アマテラスッ！？」

映司「うぐぐぐ…ぐへっ！ちぎれた！？」

タクミ「これは意外と…難題…」

天道「おばあちゃんは言っていた…男なら諦める「よし！翔太郎！フィリップうううう！！」な…と…orz」





・・・

…ヒュー…

天の声『…そして、誰もいなくなった…』

ショウイチ『なんでミステリー小説なんだよ！？』 ハリセン（

ソウジ作）ツツコミ

天の声『ノブナガッ！？』

マユ『Wの二人、海斗にバトンプス！続いてリイマジ、オリジと続きます！！』

麻依『海斗ー！ファイトー！』

海斗『応！マカセローー！！』

大智『…orz』

天の声（何故かは察してやってください！！）

海斗『ホッホッホッ』

アスム『ヤッヤッヤッ』 二つ一気に跳ぶ

ヒビキ『おりゃー』 三つ一気に跳ぶ

賢吾『おーい、くれぐれもスポーツマンシップにのっとってやってくれよ！？』

ソウジ『いいんじゃないか？俺が許す』

全『…ソウジさん何者！？』

天の声『ソウジさんはソウジさんですけど…何か？』

小夜『さて、ここでは同時にアンカーへバトンパス！おにーちゃんが一位だよ！！』

士「よっしゃっ一番乗り！さてさて……………orz」

連合「「「え！？」」」

ワタル「今のうちに…………orz」

リイマジ「「ワタル！？」」」

乾「…なっなんじゃこりやあああああああ！！！！？？【女性の下着】！？」

全「「「はあああああつ！！！！？？」」」」

アスム「ワタル！どうしたんです！？」

ワタル「【恋人】…僕に…今の僕に出来るとでも…………orz」

士「俺なんて【ギル】だぞ！？映司はギル化阻止出来るし…だ！……………！！！！真木！真木はどこだアアアアアア！？」

シヨウイチ「…誰があんな紙を置いた？」

比奈「置いたのは…夏海さん」

夏海「紙自体は作者からもらいましたよ！？」

ソウジ「…ほう？」

天の声「ちよつとまで！ちよつとまで！俺が書いたのは【鯖味噌】と【ピザ】と【ケーキ】だ！！！」

美羽「いや、なんでその選択！？」

天の声「食べたかったから！！！」

シヨウイチ「御託はいい！貴様…逮捕してやるつか…！！？」

天の声「え！？オイ！！ちよつまで！！俺は無実だ！！知ってるか

？警察は現行犯以外独断で逮捕出来ないんだぜ！？逮捕状態えだろ  
！？」

シヨウイチ「しのこの言うなああああああ！！現行犯じゃ！  
現行犯！！」

天の声「うわあああああん！！」 逃走

ソウジ「オイ、天道。お前ハイクロして真相を見てきてくれ…そう  
かいっそ俺に貸せ」

天道「…（しのこの言うのと殺られるな…）分かった…変身、キヤス  
トオフ、ハイパーキヤストオフ、ハイパークロックアップ」

Hyper Clock Up

天の声「ギャーギャー！！」

シヨウイチ「オラ、犯人確保おおおおおおおッ！！！！！！」

天の声「無実だあああああああ！！！！！！」

道力ブトHF「ああ、作者は無実……」

全「…は？」「」

天道「犯人は…お前だ！！」

鳴滝「おのれカブトおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおッ！！！！！！」

士「…鳴滝…！！」

ワタル「ジジイ…！！」

乾「てめえ…！！」

鳴滝「なっ なっ デイケイドが悪いんだ!! 私は!!」

天の声（イラッ!!）

天の声「シヨウイチさん?（ニコッ）」

シヨウイチ「あ! すまん! すまなかった!!」

ソウジ『あー、作者、許してやって...』

天の声「いえ、そうじゃなくどいてください?（ニコッ）」

シヨウイチ「...え?」

天の声「... 鳴滝さん?（ニコッ）」

鳴滝「なっ なんだ!? 寄るな!!」

天の声「お迎えがやってこられたみたいですね?（ニコッ）」

全（（オーラ!! オーラがおかしい!!）（））

鳴滝「よっ 寄るな!!」

天の声「さてと... ツバサ! 鳴滝のクソ野郎がツバサを『やーい! この人間以下のクソ鬼畜ロボットがwww』って言ってたぞ（ニコッ）」

ツバサ「... 何?」

G 5!

G 5「... てめえ、ツラか

現在放送出来ません。しばらくお待ちください

シンジ「ヒマだからカズマ一発芸やって」

カズマ「前も俺に振ったよね!？」

ソウジ「まあまあ」

カズマ「じゃあ…えーこほん、ではk」

鳴滝「」 半死

ツバサ「ふう」 清々しい顔

カズマ「…orz」

ショウイチ「…どんまい…」

天の声「…ウチの世界じゃまだあの程度か…」

大智「!?!」

――

賢吾『結果発表…この勝負、引き分けとする』

オリジ「「「えー!!」」」

リイマジ連合「「「変な罰ゲーム無しで良かった!!」」」

実況側（（ぶつちゃけ鳴滝事件で記録が全部飛んだなんて言えない…））

天の声「あ、あと、オリジはいつも通り帰すけど…仮面ライダー部は新メンバーとして加入ね!」

弦太郎「よっしゃっ…友達作りー…」

弦ユウ「「オー!!」」

賢吾「…ったく…」

美羽「仮面ライダーに…なれるかも!?!」

JK「美羽さんウキウキですね!?!」

士「さてと…後は鳴滝をどうするか…」

天の声「捨てろ、それいらん」

タクアスワタ（（まあ、そのうち復活するでしょうけどね！！）（

）

## 十六枚目陳情！？『リョウタロウ』事件！！

TAKAMILAB食堂…

そこで何故があつたナオミちゃんコーヒをのみながらモモタロス以下省略が哀愁に浸っていた。

そこへ…

モモタロス「はあ…」

士「どうした？モモタロス。落ち込んでるモモタロスなんてありえないぜ？」 通りすがり

モモタロス「いや…なア、士」

士「ん？」

モモタロス「出番欲しい…」

ウラタロス「先輩も？」

キンタロス「泣けるでえ…」

リユウタロス「出番、増やしてくれるよね？答えは聞いてない！」

士「…流石にどうにも出来ない…な」

イマジンズ「…えー！？」「」

士「よし、出番がかなりある奴らにインタビューして廻るぞー！」

イマジンズ「…へ？」「」

士「秘訣を聞くんだ！そして、ビバ 出番ー！俺も出番欲しいし！」

と言つわけで、出番が欲しい会が出番のあるキャラを巡る事となつた…

――

高見研究所第1研究室。

ここはG5システム以下省略を大智の父が作ったところだ。  
そこには…機械弄りをしている大智が一人でいた。

大智「…で、俺に？」

士「ああ…イマジンズと俺を救ってくれ！」

モモタロス「オラ！早く教えるお！」

大智「…正直士は結構出番あるんだけどねえ…まあ、ツッコミかボケか明文化したらどう？」

士「俺は…今ところツッコミか…」

モモタロス「俺はツッコミだな！」

ウラタロス「いや、先輩はボケじゃない？」

キンタロス「モモがツッコミはありえんわ！」

リュウタロス「うんうん！」

モモタロス「お前らな…」

大智「んで…そうだなあ…裏の顔とか？」

士「…それ、イマジンズに出来るわけないだろ…」

イマジンズ「…ひどっ！？まあ出来そうにないけど…！」

士「じゃ、次いくぞ！」

――

高見研究所から道路を隔てた向こう側には駐車場がある。そこはそこそこ整備されていてちょっとした展望台となっている。そこには…海斗「それで俺達のところに？…海東トス！」

海東「僕に会いにきたのかい？士…アタアックッ！！」

アスム「師匠、違います、絶対…タクミさん！」

タクミ「でも…僕や海東さんそんなに目立ってないよ？アタック」

アタック豪快



海海コンビ「ぎやあああああ!!」

士「…大袈裟なんだよ…」

ウラタロス「とりあえず秘訣、教えてもらえるかな？」

海海コンビ「ぶつちやけMC」

士「つまり、今の俺！」

モモタロス「だあー!!そうだ!司会ならイヤでも目立つぜ、クソ野郎!!」

キンタロス「前に火野の兄ちゃんがバイトとかなんやらでやったのう?」

リウタロス「司会の座はもらうよ!!答えは聞いてない!」

海東「あげないよ!？」

アスム「ん…」

タクミ「どうしたの?」

アスム「海斗さん×師匠、ソウジさん×ショウイチさん…つまりコンビが強いんじゃないですかね?」

○ 「なんで俺とソウジはペアなんだ—————!!」  
「」

タクミ（あれ?空耳かな?）

士「なるほどな!たしかにコンビは…いや、こいつらがコンビになったらなったでややこしいぞ…」

アスム「ですね…」

イマジンス「「全否定!」「」」

士「まあ、ヒントは貰ったかな?よし、次だ!」

――

光写真館…みなさん御存知のあそこだ。そこでは光夏海、奥に光栄次郎、お行儀悪くくつろいでいるカズマとユウスケ、写真を現像する準備中のシンジがいた。

ユウスケ「…で俺達のところ？…ってか士は出番あるじゃん」

カズマ「そうそう！」

夏海「まずお爺ちゃん初登場ですし」

栄次郎「はっはっは」

シンジ「…」

キンタロス「教えてくれたら…泣けるでえ！」

士「意味不明！！」

ユウスケ「…まあ、ぶっちゃけ口癖じゃないか？俺は姐さん！はい、カズマどうぞ」

カズマ「うえー」

ユウスケ「シンジどうぞ」

シンジ「レンさん！」

ユウスケ「次、その天の声！！」

全「…何処の！？」「」

天の声「天道様（not総てを司る男）の名の下に悪は失せよ！！」  
シンジ（ 厨二！？）

ユウスケ「もう一度カズマどうぞ」

カズマ「チーズー！」

ユウスケ「…まあ、口癖はみんなあるか…どうぞ」

モモタロス「俺、参上！」

ウラタロス「僕につられてみる？」

キンタロス「俺の強さにお前が泣いた、涙はこれで拭いとき！！」

ユウスケ「長い！」

リュウタロス「答えは聞いてない！！」

士「…ナツミカン!!」

夏海「士くんの場合なら『大体分かった』です!なんでそれなんですか!?笑いのツボ!!」

士「あはははははははっ!!」

ユウスケ「…そして、コレ…」

カズマ「うえい!うえい!うえああああああ!!」

全「「オンドウル!」」「」

ユウスケ「そう。だからその人のズバ抜けた個性…かな?だから電王らオリジ、リイマジ本編では目立ってて人気もあつただけ…作者が嫌ってるからムリだね」

士「つまり作者のせい」

イマジンズ「「なにそれヒドイ!!」」「」

士「さて…まあ、整理するか…」

――

高見研究所食堂に戻ると料理中のソウジとツツコミストッパーのショウイチ、自重しない男火野映司がいた。

士「…ついでに聞いてみるか…」

リュウタロス「教えてくれるよね?答えは聞いてない!」

ショウイチ「…マイペースや自重しない」

士「ぶっちゃけ目の前の二人か」

映司「え!?俺!?!」

ソウジ「ん?」

ショウイチ「ただし、ツツコミが居なくてはバカの一人歩きだ…と言う事で俺はソウジを突っ込むのをやめる!!」

全「「混乱するからその発想やめて下さい!!」」「」

和気藹々としている食堂…そこへつまみ食いにきた作者、疲れたさ  
つきのバレー組、そして美羽とJKが来た。

天の声「そーじさーん！少しわけて！」

タクミ「疲れたあ…」

アスム「あの程度で!？」

美羽「もう、JK！しっかりしなさい！」耳引つ張りながら

JK「ちょ、いたたたっ！痛い！痛いです!!！」

士「…あ！思っただが、お前達の良太郎さえ来ればイマジンス目  
立つんじゃないか？」

天の声「え…何の話？」

映司「んーっと…かくかくしかじか」

天の声「これこれうまうま…オリジとリイマジの区別が難しいから  
ムリだよ…良太郎は」

美羽「そうそう、結局リイマジの良太郎でなかったし…」

・  
・  
・

モモタロス「…ってか、オリジの『リヨウタロウ』はどんなのか知  
らんが、俺達の『リヨウタロウ』は『モガミリヨウタロウ』だぜ？」

全「…ええええええええええええ!!！」

イマジンス「…いまさら!？」

士「じゃ、じゃあ、野上良太郎ではなくモガミリヨウタロウってい  
う別人なのか!？」

ウラタロス「そういう事だね」

美羽「ウソでしょ…」

キンタロス「ほんまのこっちゃ！」

海斗「なら…」

海東「もしかして…」

海海コンビ「呼び寄せられる!?!」

天の声「よし、ツバサ呼んでくる!!」  
食堂飛び出す

士「いや、お前がオーロラ呼べよ!!」

映司「…いでよ、オーロラ!!」

ファン… 紫色のオーロラ出現

全「…お前ホントに自重しろ!!?!?!」

アスム「火野さんはまたギルになっただんですか!?!」

鳴滝「おのれディケイドオオオオオオオオオオオオオオオオオツ!!」

シヨウ美士「…嫌い!!」

アスタク（あ、やっぱり復活した）

映司「…わくわく」 お座り待機

全「「」…?」「」

映司「わくわく」

タクミ「あのう…映司さん?」

映司「わくわく」

タクミ「映司さん?」

映司「なに?今絶賛わくわく中なんだけど…」

タクミ「なにしてるんですか?」

映司「いや、いつヒットするかなア…ッて!!」少年の目

イマジンズ「「」リョウタロウは魚じゃ無いんだぞ!?!」「」

???「うわあっ」オーロラからout

映司「あ」

タクミ「あ」

士「あ」

海海コンビ「「」あ」

その他全「「」あ…」「」

・  
・  
・

イマジンス「「リヨウタロウ!?!」」

全「「マジデイスカ!?!」」

映司「わーい釣れたー(棒)」

リヨウタロウ「いててて…あれ?リユウタロス!ウラタロス!キン  
タロス!…と桃。久しぶり!」

モモタロス「おおおおいいいい!!『桃』ってなんだ『桃』って  
えええええ!」

リヨウタロウ「煩いよ、桃」

モモタロス「orz」

全「(あれ?リイマジのリヨウタロウってオリジとキャラかなり  
違う?)」

リヨウタロウ「えっと…どちら様でしょうか?」

士「まあ、当たり前だな」

モモタロス「えっと、こいつはもやしつつって、俺達の世界を助け  
た?やつ」

士「ちょ、俺は門矢っ…」

リヨウタロウ「よろしくね!もやし!」

士「orz」

モモタロス「で、こいつがホモの泥棒」

海東「いや、僕は海東大樹で、泥棒では…」

リヨウタロウ「よろしくね!泥棒猫!」

海東「orz」

モモタロス「で、他は以下省略」

全「「おおおおいいいいいい!!??」」

リヨウタロウ「モモタロス、テキトーはダメだよ!」

士東「「いやお前が言えるかああああッ!」」

こうして、電王の世界のリイマジ『最上リヨウタロウ』がド耐に合

流する事となった…



十六枚目陳情！？『リヨウタロウ』事件！！（後書き）

リヨウタロウ「最上リヨウタロウです！よろしくお願いします！」

大智「まあ、読者の皆様に分かるよう御説明を」

リヨウタロウ「えっと…電王の資格者で桃達と戦ってきました！」

モモタロス「…にしてもリヨウタロウはホントに頼りない…ノロくて不器用で…」

リヨウタロウ「煩い、桃<sup>たまに</sup>」

モモタロス「ホント口悪いな！？」

リヨウタロウ「とりあえず、これからよろしくお願いします！」

ちなみに…

ツバサ「俺たちも口癖、作らないか？」

海斗「いいね！やろうやろう！！」

アポロガイスト形式で語尾につける口癖にしました。

大智「俺か？俺は仮面ライダーBEST…一番となる者【父さん】！！」

海斗「あんたもあいつも麻衣もみんな俺が守る【おりやあああああッ】！！」

麻衣「私に…できること【大智！海斗！】…」

ツバサ「分かりました、サポートは任せて【破滅】」

ダイキ「俺には温もりは無い…だからこそ…温もりを守りたい【食べるか？】」

エリカ「だって私、ロボットですから【了解】」

大智「ツバサアアアアア！？」  
ツバサ「ふふふのふーです」

リョウタロウ事件一週間後：何事もなかったかのように日向ぼっこする四人がいた…

映司「…平和だねえ、アスムくん…」

アスム「ですねえ…師匠」

海東「昼食の後まったりするのはとっても贅沢だよね…海斗くん」

海斗「でも…そろそろアレをする時だと思っんだ！」

映アス海「…アレ？」

海斗「そう！よし、やるよ！…」

――

と、言うわけで…

海海コンビ「ガチで探せ！」

映アス「君がなれる…」

映アス海海「超変身！仮面ライダーズ！！」

全「…なんじゃそりやああああ！！？」

リョウタロウ「イェーイ」 何の事か分からないけどとりあえず  
ノってみた

カズマ「ウエーイ」 上に同じく

海斗「いや、そろそろ他の仮面ライダーに変身してみたいじゃん！？」

大智「…つまり、お前なれなかったからやりただけだな？」

海斗「（グサツ）…いや…まあ、五百アクセス記念で言っちゃった  
限りには…うん」

士「大体分かったんだが…クウガやアギトは無理だぞ？…ユウスケやショウイチの腹裂くしか…」

ショウイチ「裂いても無理だぞ！？」

ユウスケ「いや、クウガは出来るんだ…」

海東「そう、五代くんが秘宝『アーカム』をくれたからね！しかもアークルと違って取り外し可能だ！」

全「…何それ！！？」「…」

海斗「…アギトは無理だから放置の方針で…」

「クウガになろう！」

海斗「さて、フィリップ、変身の条件は？」

明日無（「天の声」）「おい、それ俺（が勝手に言ってる）の師匠（「ハルルさん」とかぶるんじゃないか？」

フィリップ「いや…あれは確かスマブラの世界での条件だろう？つまりここ（「BESTの世界」）では違うんだ」

ハルルさんのベルト適合事情は主にスピノフで挑戦されていまずので是非ご覧下さい。

フィリップ「閲覧終了だよ、クウガになる条件はこれさ！」

- ・誰かを守る勇気
- ・誰かを守るために自己犠牲を受け入れる
- ・優しい心

士「…誰がいる？」

リイマジ「…ユウスケ」「…」

ユウスケ「いや、俺、クウガだし」

映司「…変身！」



ルト中央の上におく…そして、右手を右に左手をベルト横までもっていつて…超変身！そして右手で左手の上から横の突起を押す！」  
ファンファンファンファンファンファンファン…トウーン  
イクウガ「よっしゃ！成功！」  
フィリップ「つまりライダーでは火野映司、尾上タクミ、天堂ソウジ、プラスー之瀬海斗か…」

「アギ…龍騎になろう！」  
フィリップ「…ん？」

翔太郎「どうした？フィリップ」

フィリップ「…いや、龍騎系ライダーには制限が無いんだ…」

シンジ「…まあ、裁判で使われるくらいだから…」

龍騎、全員クリア

「555になろう！」

フィリップ「条件はコレだね」

- ・死からの復活
- ・クウガ適合

全「…何それ不可能過ぎるだろおおおおおおお！！！！

！！！！

フィリップ「うん、尾上タクミ、君しかムリだ」

タクミ「そうとも限らないと思いますけど…」

P i p p i P i p p i P i p p i S t a n d i n g b y

…  
ユウスケ「…超変身！」

美羽「掛け声！！」



海斗「…じゃあ、今まで皆勤賞のユウスケと映司はどうなんだろう」  
大智「条件に当てはまって…なさそうだが？」

ユウスケ「変身！」

Turn Up

Yブレイド「つしやあああああ！！」

全「…なんで!?!」

カズマ「オンドウルルラギッタンディスク!?!」

フィリップ「適合条件にあつてないのに変身…興味深いね！」

Yブレイド「あ…でもブレイドのFFR率高いから…イヤだなあ…」

FFR恐怖症予備軍

アスタク（…デンガツシャーが挿りましたもんね…!!）

映司「これは流石に…変身！」

Turn Up

Eブレイド「…あれ？」

全「…お前はもう自重しやがれ!!」

Eブレイド「…重っ！」

美羽「感想それだけ!？」

（響鬼になろう…）

フィリップ「………ブツブツ」

海斗「…フィリップが検索にはまったから試行錯誤するしか…」

翔太郎「いや、フィリップからメモを渡された…条件はコレ」

・実戦含む鍛え上げた力

大智「…俺とタクミとソウジさん？」

ソウジ「…シヨウイチは？」

シヨウイチ「やってみてもいいが…ソウジ、なんで俺を呼ぶ？」



ソウジ「イジメは退学だ」 ドヤッ  
シヨウイチ「イジメってなんだ！？退学ってなにがだ！？」

アスム「…あのう…服、焼けますよ？」

海斗「そうだった！！これは中止！！流石に女の子いるのにむり！！」

麻依（…居るだけだね！）

美羽「待って…じゃあなんでアスムくんは服が…？」

士「デイクイド七不思議の一つだな」

シンジ「ちなみに他には俺の服の色の变化、TV版最終回と映画の繋がり、Wの対シャドームーン戦の圧倒的な強さなどがあるよ」

カズマ「…と言っても作者も七つそろえてないけど…」

明日無「DCD七不思議募集中！感想などで教えてください！」

アスム「はい？」 超絶スマイル0円（ただし、オーラにはオマケ付き）

美羽「はい？じゃ「すみませんでした！」な…JK！なんで謝るの！？」

JK「いや、危ないですよ、美羽さん！！」

大智、ソウジ、ツバサ、タクミ、シヨウイチ、ユウスケ、映司適合

「カブトになろう！」

翔太郎「…『ゼクターに聞いてくれ』…だと」 メモ見ながら

士「いや、どうやって…」

海斗「全員やっていったら…」

カズマ「ソウジさん、お願いします」

ソウジ「うむ…キュイキュイイイン？」

カブトゼクター「キュイイイイン」

ソウジ「うむ…大智、士、アスムくん、ユウスケ、体が大丈夫なら賢吾…とオマケにライダー好きそうな美羽と海斗もOK」

全（（…ゼクターと会話したのか…！？）（））

シンジ「…俺は？」

ソウジ「キュイン？」

カブトゼクター「キュイン」

ソウジ「OKだつて」

カズマ「俺も！」

ソウジ「多分大丈夫」

全（（そしてテキトーときた…！）（））

海斗「ちよっ！？映司は！？」

全「「…そういえば…」」「」

ソウジ「キュイン？」

カブトゼクター「キュイイイイイイン」

ソウジ「『そろそろ自重しろ！今までの適合率の高さは自重しないからだ』…だつてさ」

映司「…………ソウジさん、このメカカブトムシ折ってイイですか？」

ソウジ「やつやめてくれ…！」

アスタクワタ（（ソウジさんがガチで焦ってる…）（））

ソウジ「…ゼクターは俺の友人だ…！」

全（（あれ？さっきの発言聞かなかった方が良かった気が物凄くする…）（））

ユウスケ「なんで俺は高確率で適合？」

フィリップ「その理由、やっと分かったよ…」

海斗「おかえりー」

フィリップ「ただいま…？まあいい、小野寺ユウスケは何故適合しまくるのか…それは、君が平成ライダー適合率が極めて高いからだ

！…というか適合しないのはG3システム系統とその他一部なんだ」  
美羽「ブレイドにおける融合率みたいなものね？」

フィリップ「…微妙な例えだが…まあそうだろう」

士「つまりユウスケは…」

フィリップ「ライダー超適合者（命名者シュラウド）だよ」

ユウスケ「…嬉しいのか嬉しく無いのか…微妙だな…」

海斗「いや、嬉しいでしょ！？」

（電王に…

リョウタロウ「…電王は次回へ保留にして」

全「…何故？」

リョウタロウ「特異点があるとは限らないからプラットフォームは  
みんないけるとしてもイマジンによって憑依出来る人出来ない人い  
るらしいから…」

海斗「Wとオーズも後編にまわす…じゃないと…うん」

士「大体分かった、文字数が多すぎるんだな」

（キバになろう！）

キバットバット？世「言っておくけど…適合条件は、人より上の存  
在…だぜ？」

ワタル「大丈夫です、キバット。ここは人外の宝庫のようなもので  
すから」

ユウスケ「…ワタル！それは無いぜ！！」 超適合者

ショウイチ「それって俺の事か！？」 AGIT と言う名の人類  
の進化系

タクミ「いや…僕でしょう…orz」 オルフェノクと言う名の人  
類の進化系

カズマ「うえい!？」 将来性アンデット化危つい&“カズマ”の系譜

アスム「僕は違いますよね」 鬼

ソウジ「ん？」 タキオン粒子浴び過ぎ「ネイティブ？」

映司「俺？違う違う」 自重しない男

大智「うんうん」 最近目立たないがド耐での防御力はチート

ツバサ「俺、人間じゃないからいいもん」 歩く人知を越えた核爆弾

ダイエリ「ロボットだから」 ロボット

士「…リイマジでマトモなのってシンジとリョウタロウだけ？」

リョウタロウ「うわあ…」

シンジ「待って士！カズマは!？」

カズマ「うえい!!」

ソウジ「『チーズ！俺はまだ人間!!』」

海東「でもそのうちオリジナルの二の舞じゃない？」

カズマ「…orz」

シンジ「ヨシヨシ…おい、馬海東カズマ泣かすな」

弦太郎「…こんなにキャラ濃い人(?)たちと友達になれるのか…？」

ユウキ「弦ちゃん、ファイト!」

賢吾「あんまりファイトして欲しくないがな」

「…デイクイドになろう!」

フィリップ「…デイクイドとディエンドの制限はライダーの資格者

…ただし、激情態は士と海東のみ…だって」

タクミ「あれ？海斗…」

大智「ま、こんなもんか…」

映司「うん、残りは次にまわそう」

弦太郎「お、おい！フォーゼは？」

全「「体が丈夫かどうか」」

弦太郎「orz」

タクミ「言うか海t…」

大智「今度は電王、W、オーズ、G5の適合事情をしらべるぞ」  
士「ユウスケの能力は何処まで万能なのか！？」

タクミ「あー…」

シンジ「俺とカズマの出番はあるのか！？」

カズマ「そういえば後藤さんと伊達さんがいない…」

翔太郎「確か多過ぎてもシンドイからその二人と女性陣で水族館に  
…」

麻依「私と美羽さん、ユウキさん以外は水族館つてわけです」

タクミ「海斗つてー…」

映アス海海「「では、また後編をお楽しみに！」」

十八枚目 オーズとダブルと電王と“系譜” 13ライダーになろう！・後編

まず前編をご覧いただいてからこちらをご覧頂ければ幸いです

海斗「予告通り電王からいくよ！」

「電王になろう！」

士「プラットフォームは制限なし…だな」

リョウタロウ「あとはどのイマジンが憑依可能か…」

・Case of モモタロス

モモタロス「カズマとアスムとショウイチとソウジとワタルと士と翔太郎とフィリップ…」

士「関連性が見えないんだが…」

シンジ「…最終形態剣使い…」

カズマ「あ、なるほど！シンジ賢い！」

士「いや、その場合俺は？」

ワタル「…あれ？超適合者のユウスケは？」

ユウスケ「…電王だけは絶対イヤ」

タカアス（…どれだけひっぱるんだ…このネタ…）

・Case of ウラタロス

ウラタロス「…士、翔太郎、海東、大智、アंक…」

全「…アंक！？」

アंक「ふん！知るか！」

タクミ「繋がりにはキザ野郎…」

大智「俺…キザか？」

・Case of キンタロス

キンタロス「ショウイチにアスムにカズマ、ワタルにソウジに弦太郎…そして映司と士」

士「…アスムとカズマはまだ分かるんだが…」

アスム「なんでですか!？」

シンジ「基本スペックが95kg以上のライダー縛りだと思うんだが、たぶん映司は紫コアの反応だ」

映司「俺ギルじゃないよ!？」

・Case of リュウタロス

リュウタロス「シンジにー、タクミにー、士にー、海東!！」

カズマ「最終形態銃使い…ってことか」

アスム（というか士さん皆勤賞…）

士「あれ？ジークは？」

リュウタロス「何者？それ」

「Wになろう!」

フィリップ「時短のためそれぞれの適合を纏めたよ」

全適合…ユウスケ

・ジョーカー、メタル、トリガー…カズマ、ショウイチ、リュウタロウ、ワタル、タクミ、士、大智、ジョーカーのみ…アスム弦太郎

・サイクロン、ヒート、ルナ…シンジ、ソウジ、アスム、イマジン

ズ、海東、海斗、賢吾

・フアング…映司

・エクストリーム…カズマ&シンジ、シヨウイチ&ソウジ、シヨウイチ&アスム、アスム&ソウジ、タクミ&アスム、ワタル&アスム、リヨウタロウ&イマジンス、アスム&海東、大智&海斗、弦太郎&賢吾（ユウスケ&ライダーズ）

ちなみに適合しないメモリを使ってもドライバーが動きません

士「…エクストリームはやはり心が通い合った者同士ってわけか…ユウスケは微妙だが」

シヨウイチ「ちょっと待て！なんで俺とソウジが通い合ってることになるんだ！？」

ソウジ「受け入れる、シヨウイチ」

タクミ「というかアスム君の適応力の高さが…」

「オーズになろう！」

フィリップ「…これはしらみつぶしにやっていくしか方法が無い…みたいだね…」

アंक「俺のメダルは渡さ無いぞ！？」

映司「と言うかアंक居たんだ！？」

アंक「居たわー！」

ちなみにアंकは今までちゃんと居たんですがその発言がことごとく作者に無視されたため目立ちませんでした。アंक好きな人、すみません

もっとちなみにメダルは赤、青、黄、緑、無彩色、紫、橙の各三種ずつを海東のコレクションより抜き取りました。

海東「通りで1/5無いなと思ったら！？」

士「…いや、どんだけ持ってたんだよ…」





映司「俺も蛇ダメですがやっただんです!!」

シヨウイチ「キコエナイキコエナイ……!!」

カズマ「腹くくってください、シヨウイチさん!!」

シヨウイチ「俺を呼ぶなあああああああ!!」

シヨウイチ、ブラカワニ適合

シンジの場合

シンジ「あ、赤だけ適合した」

士「意外だな。龍繋がりで紫もイケると思ったんだが……」

海東「……プテラ、龍？」

士「いや、恐『竜』」

明日無「……もしかして……シンジ！変身してくれ！」

シンジ「え！？……まあとりあえず……変身！」

タカ！クジャク！コンドル！タージャードール！！

士「何をする気だ……？」

明日無「クジャク光弾を……そうだな……大智に」

大智「俺に!？」

TSタジャドル「ハッ！」

士「いや、ホントにするのかよ!？」

大智「ぐはっ!!……いつてえ!!」 2メートル吹っ飛ぶ

麻依「大智、それで済むの!？」

明日無「やっぱり……」

全「……?」

明日無「師匠（ハルルさん）のここであきらかになったんだけど……単色適合は能力がアップするらしいんだ!!」

ツバサ「つまり普通のクジャク光弾だったら大智は吹っ飛ばないのに二メートルも吹っ飛んだってことはウチでもそのルールが適合されるってこと!」

大智「俺は実験台やないぞ!?」マジギレ二分前

麻依「大智、ストップ!ストップ!」

シンジタジャドルの場合:クジャク光弾及びギガスキャンが通常の3.5倍の威力

単色適合について詳しくはハルルさんのスピノフを見て下さい

タクミの場合

タクミ「これ:絶対乾さんはラトラーター単色ですよ:猫舌だし」

ソウジ「猫舌は関係無いと思うぞ」

士「とりあえずタクミはどうだった?」

タクミ「えっと:これだけでした」

シャチ!ウナギ!タコ!シャツシャツシャウタ!シャツシャツシヤウタ!!

OTシャウタ「シャウタのコンボボイスイですよね」

海斗「うんうん!シャツシャツシャウタ シャツシャツシャウタ」

タクミシャウタの場合:水中移動の速さが2倍速くなる+シャチ

放水の威力、飛距離2倍

カズマの場合

カズマ「チーズー!手伝ってー!」

士「そのくらい一人でしろ!」

カズマ「うえ:うえええええ!!」泣

士「あー、もー分かったから泣くなみつともない!」

明日無(カズマが着々と系譜を踏んでいつてやがるよ...)

カズマ「結局、ガタキリバだけだったー」

明日無「:いや、ちよつと待て。それだと俺の立つ瀬が無くなるん



アスム「あ！これはいけました！」

ライオン！トラ！チーター！ラトラターラトラター！！

Aラトラーター「にゃん」両手を曲げて片足上げて猫のポーズ  
士「…いや、何を狙ってるんだ！？アスム！？」ウツカリときめ  
いた

全「「「……」」」むしろみんなときめいた

海東「…少年くん…君、伊吹鬼流にはいるべきだったんじゃないかな？」鼻血の川源流

Aラトラーター「あそこ男子禁制です」

美羽「イブキさんは男だけど…」

アスムラトラーターの場合…速さは100mを0・105秒+ラ  
イオディアスの攻撃時間最大3分

ソウジの場合

ソウジ「あー、カズマとかぶった」

大智「つまりガタキリバ単色適合…」

クワガタ！カマキリ！バッタ！ガータガタガタキリバガタキリバ  
！！

TSガタキリバ×50「五十体以上増えないな…」

シヨウイチ「ソウジが百人とか地獄だぞ…（…主に俺に）…」

明日無「ふふふふ…俺たちはもう…地獄に居るじゃ無いですが、シ  
ヨウイチアニキ？」

TSガタキリバズ「「オイ、こらそこ…やさぐれるな…あと、み  
んなに言っておく…」」

全「「「？」」」

TSガタキリバズ「「クロックアップ可能だ」」

全「「「もはやはるかにチート超えてる！！？」」」

ソウジガタキリバの場合…クロックアップ（に限りなく近い速度

が出る) 追加

リヨウタロウの場合:

リヨウタロウ「... 橙できた!」

全「... 七転び八起きブラカワニですかそうですね?」

リヨウタロウ「結果的にタトバと橙と... イマジンだね」

士「ここまでくるとシヨッカーもいけるんじゃないか?」

リヨウタロウ「... 入らない!」

タクミ「シヨッカーメダルがツンデレな件について」

アスム「それよりもサゴーズがツンデレな件について」

単色適合で無いですがリヨウタロウブラカワニは通常より少し早く回復出来ます、七転び八起きなんです

ワタルの場合

ワタル「ふふふ... ふふふふふふふふふふ...」

リヨウタロウ「ねえ、あの子って何歳?」

(ワタルは十三歳設定です。アスムも十三歳設定)

ワタル「ふふふのふー」

士「ワタル、お前年齢サギか?」

海斗「というか早く発表したらどうだ?」

ワタル「いいんですか? いいんですね?」

シャチ! ウナギ! タコ! シャシャシャウタ! シャシャシャウタ!

!

W シャウタ「ふふふのふー」

全( (ドS王子に電気ムチ... だと!?) )

W シャウタ「ふふふのふー?」 海東をみる

海東「う!?! につにげ」 ウナギムチ束縛

W シャウタ「ふふふのふー？」

ワタル シャウタの場合：ウナギムチの長さ×3 + 電流の強さ×3  
5

海東はワタルによってクソまずく頂かれました

士の場合

士「まずこれ」

タカ！トラ！バッタ！タトバ！タトバタツツバ！！

K T タトバ「んでこれ」

タカ！クジャク！コンドル！タージャードル！

K T タジャードル「あとこれ」

シャチ！ウナギ！タコ！シャツシャツシャウタ！シャツシャツシ  
ヤウタ！！

プテラ！トリケラ！ティラノ！プットツティラーノザウルス！  
！

K T プトティラ「あとはカマキリとライオン……」

映司「うん、とっても微妙」

海東の場合

海東「……………」 全身がもはやおかしい方向に曲がっている  
ソウジ「『僕は何故か白以外は全適合だよ』…と言っている」  
アスム「なら師匠ブラカワニになってくださいよ！！？？」

海東回復中

翔太郎の場合

翔太郎「…何故かコレだ……」

サイ！ゴリラ！ゾウ！サゴーズ…サゴーズ！！

全「「ツンデレサゴーズ！！？」「」」

明日無「押すーゾ？」

映司「作者、それサゴーズ違い」

HSサゴーズ「ホントなんでこれ？」

士「ダブル軽いのに……」

タクミ「というかどうして翔太郎さんなんだ、サゴーズ！」

翔太郎サゴーズの場合…重力操作範囲×2＋全体的パワーアップ

フィリップの場合

フィリップ「やれやれ…コレだけか…」

プテラ！トリケラ！ティラノ！プットツティラーノザウルス！

！

ワタル「フアング関係？」

SRプトティラ「恐らくね？だけど…コレはとても興味深いね！」

大智「検索は変身を解いてからお願いします」

フィリッププトティラの場合…動きが身軽になりクロックアップ

並みのスピード

大智の場合

大智「…へえー青と白と橙は反応してくれ無いんだー」

タクミ「橙も相当なツンデレですよ」

カズマ「というか大智の防御力からいくと白も橙もなんで適合し無

いんだろう……」

シンジ「…カズマ、俺はカズマにそっくりそのままそれを聞きたい

よ……」

明日無「というかそもそも俺は“カズマ”の系譜について知りたいよ」





サイ！ゴリラ！ゾウ！サゴーズ！サゴーズ！！

K Gサゴーズ「サゴーズ…キターー！！」

全「…白いおにぎりライダーはやはり白かった！！」

賢吾「いや、エレキとかファイアーとかで色変わるが！？あとおにぎりじゃない！！」

弦太郎サゴーズの場合…重力操作によって自分が飛べる+重力操作の性能UP

大智「こんくらいか…」

海斗「いや、BESTやG5は？」

フィリップ「BESTは高家の本家筋末裔で陰陽の血が強い者、G5は…ほぼ不可…つまり、G5はおいといてBESTは大智のみだろっ」

全「…めんどくせえ！！」

大智「当たり前だ！」

フィリップ「これにて一応終わり…だね」

明日無「ああ…いやぁオーズ面倒くさい…」

士「しかしショウイチがまさかカメニガテとは…」

カズマ「可愛いのに…」

ショウイチ「…殴りたいのか？」

映アス海海「…ではまたお会いしましょう！さよーなら！！」

ソウジ+思いつき〓要注意!??学力テストで逝こう!〓

ソウジ「時にショウイチ…仮面ライダーを見ている世代とは?」

ショウイチ「きゅっ急になんだ…?恐らく…幼稚園児から小学校…」

ソウジ「甘い!今や小さなお子様からおじいさんおばあさんまで幅広く愛されているんだ!」

ショウイチ「そっそうなのか…?」

ソウジ「しかしっ!依然としてティーンズの特撮離れは顕著だ!」

ショウイチ「まあ、特撮〓お子様イメージが根強くあるからな…」

ソウジ「というわけで…」

・・・

ソウジ「仮面ライダーも学習せよ!抜き打ちテスト!」

全「「ええええええええええ!」」

ショウイチ「なんでそうなるんだアーーーー!」

ソウジ「ティーンズ〓勉強系なら見る!」

ショウイチ「どちらかというとお笑い系を見るぞ!」

シンジ「いえ、ドラマですよ!」

カズマ「仮面ライダー ドラマ?」

フィリップ「特撮“ドラマ”じゃない?」

翔太郎「あー、それ以上は難しいから置いておくぞ」

士「だから呼び出される前になんかテスト的なものやらされたのか!」

ユウスケ「あー!分かってたらもつとマジメにやってたのにいいいい!」



ソウジ「正解はこちら」

（大智の答案）ウランやプルトニウムなど

大智「専門的に言つと…」

シヨウイチ「ヤメろ、誰もついていけなくなる」一応公務員

ソウジ「…実際大智の答案大抵、模範解答レベルだった…とりあえずどれか一つでも書いていれば丸…不正解者は…ユウスケ、ワタルくん、弦太郎」

不正解者「…ダツテワカラナインダモン…!」

ソウジ「そんな彼らの解答を見てみよう」

（ユウスケの答案） 石油

（ワタルの答案） コカ

（弦太郎の答案） 水

シヨウイチ「ワタルの答案が危な過ぎる!？」

ワタル「パツと浮かんだ単語がそれだったんです」

シヨウイチ「いや、それ余計危ないぞ!？」

翔太郎「と言うかユウスケ…それじゃあ火力発電だ…」

ユウスケ「あ、そっか」

ソウジ「あと…正確に言えば水は使った…使ったが…エネルギー源では無いから…パツ」

弦太郎「もしかしておしい!？」

大智「…不正解には変わらないが」

・第二問、無人島に漂流してしまった。飲み水を確保するには下記の物のどれかを組み合わせ使つてどうしたら一番良いか？

持ち物：黒いゴミ袋、石、コップ（一つ）、スコップ、海水、木の枝

タクアスワタ（（いきなり難易度急激に上がってますよね！？））

ソウジ「尚、これは一番効率のいいやり方が正解だ」

士「…まず、火を起こして海水を使って蒸留させるのが普通だろ？」

ソウジ「…だけどコップ一つで蒸留はムリだろ？」

翔太郎「そうなんだよ…何か…何か方法が…」

ソウジ「じゃ、答えはこちら」

（映司の答案）まずスコップである程度大きな穴を掘ってその中心にコップを置く。つぎにその上に黒いゴミ袋を穴に被せて周りを石で重しにし真ん中に石を置いて待つ。

全「…「…なんでそれが正解？」」

映司「ほら、地面の下って湿ってるだろ？地面の中にも水分があるんだ。だから掘ったところから出てきた水分を黒いゴミ袋で受け止めて更に真ん中の石で高低差をつけてるから集まった水滴が上手くコップに入るってわけ」

ソウジ「映司は流石放浪人としか言いようが無いな…大智と映司のみ正解だ」

不正解者「…「こんなもんわかる訳無い！！」」

ソウジ「にしても不正解は大抵蒸留を何とかしようとしてた者ばかりだ（ワタルは川を探す、アスムは井戸を掘るだったか）…しかし

弦太郎：「コレはヒドイぞ」

（弦太郎の答案）海水を飲む

全「……その発想マジ危ねえ！？」「……」

弦太郎「飲まないよりマシだろ！？」

ソウジ「万が一海水を飲んでしまったらその塩分のため死ぬまで飲み続けなくてはならなくなってしまっ（らしい）ので大変危険です、絶対にやめましょう」

・第三問、日本最古の物語は？

ソウジ「……みんなも昔読んだよな？」

大智「日本国民なら概要は知ってるはず……」

ソウジ「答えはコレだ」

（アスムの答案）竹取物語

（注：かぐや姫でも勿論可）

ソウジ「不正解者は……ワタルくんとリョウタロウ……」  
リョウタロウ「あ、竹取の方か……うっかり源氏に……」  
ソウジ「ま、許容範囲内だな問題は……」

（ワタルの答案）ブレーメンの音楽隊







（2）病、食べる

ソウジ「流石は様々な世界を旅する破壊者だな！」

士「ふん！当たり前だ！…（1）がアポロガイストで苛ついたが…」

ソウジ「不正解者は…（1）がワタルとアスムとタクミとリョウタロウと映司と翔太郎と大智…」

全「「大智！？」「」」

大智「ライ、俺は仮面ライダーアギトとクウガくらいしか見てないぞ…（しかも記憶飛んでるし）」

（大智の答案）戦争

全「「マジメだなあ！？オイ！」「」」

大智「だってこれしか…！！」 or z

ソウジ「そして（2）が大智のみ」

大智「俺だけかよ…orz」

カズマ（仮面ライダーの知識少な過ぎじゃない？）

シンジ（…典型的な特撮離れティーンズだな）

（大智の答案）

全「「白紙かよ！」「」」

大智「…なにが当てはまんだよ…！！」 悶絶

ソウジ「あと…ティーンズ代表弦太郎が第五問正解なのが意外」

弦太郎「当たり前！仮面ライダー部のメンバーが仮面ライダーを知

らなかったらだめだろ！！」

全（（マスクドライバーサークルの  
部員が知らなかったけどね！！））

ソウジ「さてと…正解率TOPは…」

タクミ「火野さんじゃないですか？」

カズマ「えーじじゃ無いですか？」

シンジ「火野映司くんじゃ無いですか？」

リョウタロウ「僕を呼んだ人じゃ無いですか？」

ワタル「自重しない火野さんじゃないですか？」

アスム「自重しない男の方じゃ無いですか？」

シヨウイチ「自重を知らない男だろ？」

映司「うん、ワタルくん以降後で裏こい」　ウヴァ完全体オーラ

士「…と言う訳で…TOPは政治家ボンボンだったぜ」

海東「エンディングはオーズくんの怒りを見ながらお別れだ！」

ユウスケ「いくら自重しない男だとしても映ってるから抑えなよ？

…さよーなら！！」

その後上三人も自重しない男にヤラレマシタ

## レッツ・コタツDE・パーティー

カズマ「そろそろ年末だねえ」

シンジ「その前にXmasもあるな」

タクミ「Xmasかあ……」 リア充

ショウイチ「Xmasだなあ……」 リア充

士「そう言えばそうだな……」 リア充

シンジ「……なんだろう、この言わなきゃ良かった感……」

カズマ「でもここリア充率低いよね……」

ソウジ「仮面ライダー初の本格恋愛モノのキバが少年ライダーだからじゃないか？」

ユウスケ「そう言えば、ワタル、去年どうだった？」

ワタル「僕のところには去年一サンタ（お父）さんから一スパイダーファンガイア（おもちゃ）が届きました」

ショウイチ「そこは素直にサンタさんと言えええ……！」

士「あとついでになんてモノ送ってんだあの父……！」

ユウスケ「みんな、なんかサンタさんエピソードある？」

カズマ「……6歳の時あったよ……」

士「何があった？」

カズマ「朝起きたら……コンクリート片があって……」

全「……ええええええ……！」

カズマ「ちょ、最後まで聞いて……！」

ショウイチ「……正直これ以上ショッキングな爆弾は無いと思う」

士「ああ……」

翔太郎「お前の親なんだよ……」

カズマ「……ちゃんと聞いて……orz」 涙ぐむ

士「あー、すまんすまん、泣く泣くなカズマ、よしよし」 あやす

二分後…

カズマ「…まあ、コンクリート片があつて、なんだろうと思って持ち上げて…」

翔太郎「色々見てみた？」

カズマ「うー、それもやったけど…」

映司「投げてみた？」

全「「何に!?!」」

映司「サンタに」

カズマ「…いや、投げてないよ？」

シンジ「食べてみたんだろ、なんか分からないからとりあえず」

カズマ「うん」

士「まあ、小さな子つてなんでもかんでも食べようとするからな」

海東「うん、普通だね…」

全「「食べてみたあああ!?!」」

カズマ「うん」

シンジ「味は？」

カズマ「んー、マズかった」

シンジ「まあ、消化出来たんだから大丈夫じゃない？」

カズマ「うん」

シヨウイチ「いや、大丈夫じゃない…色々大丈夫じゃねええええ  
!?!」

アスム「これ以上の思い出あります？」

全「「ない」」

翔太郎「と言うかそれだけだったのか!? プレゼント!?!」

カズマ「いや、実はコンクリート片はプレゼントじゃなくてホンモノはなんか電車のオモチャだった」

士「何がしたかったんだ…コンクリート片で…」

ソウジ「よし、コタツ出来たぞ」

全「「「おー！！」」」

大智「おー…って！研究所を好き勝手にするな！？ってかいつの間に！？」

シヨウイチ「テレビでも見るか…」 インコタツ

大智「和むな！！」

結局みんなコタツに入りました

カズマから時計回りに会話（ただし、翔太郎とフィリップの前後は賢吾 フィリップ 翔太郎 海斗の順）

カズマ「…律儀にミカンがあるね…」

タクミ「まあ…欠かせない…かな？」

リョウタロウ「いっただつきまーす」 ミカン取る

シンジ「…あー今から鍋が出て来てそれが混沌を呼ぶんだと思うとミカン食べるしかねえ…」 ミカン取る

士「シンジ、それどこ情報だ！？あとお前夏海を食べる気か！？」

夏海「なんでそこは名前で呼ぶんですか！？」

海東「そうだ、士！ナツメロンに謝れ！」

アスム「 師匠も間違えてます！！」

ユウスケ「いや、だからさ…」

ワタル「できるはずですよ！！皿回し！！」

シヨウイチ「あれ？ソウジは？」 ミカン食べてる

隼「…始めての出番がここか…」

野沢間「…」

JK「いやー、寒い日はコタツに限りますねー！！」

美羽「チアの格好、当たり前だけど寒いしね…」

ユウキ「なら宇宙服貸しましょうか？」 制服のポケットから宇宙服out

弦太郎「賢吾！ラビットハッチにもコタツ作ろうぜ！！」

賢吾「あー、確かに月面寒いからな…ってバカか！！置く場所がねえだろうが、場所が！！」

フィリップ「翔太郎！！興味深よ！！」

翔太郎「あー、コタツがか？」

フィリップ「いや、月面！！」

翔太郎「何故そっちにいった！？」

海斗「言うかもはや“地球”<sup>ほし</sup>じゃない！！」

大智「けっこうな人数だな…」

麻依「へえ、比奈さんも大変ですね…」

比奈「まあ、お兄ちゃん帰って来たから…うん」

泉「アंक、落ち着け」

アंक「落ち着いて居られるか！なんかかなり俺が浮いてるじゃねえか！！」

映司「まあまあ、座って座って、ミカン食べる？」　ミカン差し出す

小夜「お兄ちゃん落ち着いて？」

マユ「お兄ちゃんどこ？」

ソウジ「みんなー、鍋出来たぞ」　厨房から鍋持ちながらout

マユ「お兄ーちゃん」

全「…ってか鍋！？いつの間に！？」

ダイキ「もともと今夜はそうするつもりだったんだ」　厨房から鍋持ちながらout

ツバサ「手伝いでーす」　厨房から鍋持ちながらout

エリカ「いや、ツバサ何もしてなかったよね！？」　厨房から鍋持ちながらout

モヤモヤ…　鍋の匂い

士「ところで何鍋だ？さっきから物凄くえげつない匂いが…」

モワーン… 鍋の匂い

ソウジ「んー、何か色々いれたから…分かん」

モヤワーン… 鍋の匂い

シヨウイチ「大丈夫なのか！？コレ！？」

モファーン… 鍋の匂い

ソウジ「大丈夫。…カメラが撮影出来なくなるの覚悟なら…！！」

全「…大丈夫じゃねえ！！」

…あれ？

翔太郎「どうした？」

いや、カメラの調子が…

ブチッ！！

…あ、完全に壊れた。

全「…早速かよ！？」

これ以降音声で頑張りますので、誰がどれか推理してみてください。  
鍋は四つあるので四組に別れました。ただし、ロボット達は食べません。なお、一つのグループ内の同じ番号の人は同一人物ですが鍋その1の1番と鍋その2の1番は違う人物…という様なルールです。

鍋その1…この中に士と海東とユウスケとカズマとシンジとシヨウイチとソウジがいます

1「ホントに壊れるなんて…」

2「ああ…」

3「お前…あんまりやらかすなよ…突っ込むの体力いるんだぞ…」

4「さ、誰から取るうか？」

5「じゃ、俺から…ヨツと…」

1「何が取れた？」

5「………なんでレンさんの写真なの！？食べないじゃん！！」

6「…何故だろう、お前がそれを言つと二つの意味で捉えてしまう



…」  
5「なんで!？」  
6「いや…すまん。他の世界のお前がそうだからだ…」  
7「次俺!…ウエイ!!」  
5「ちよっ!俺まだ食べ物取ってない!!」  
7「………チーズ!？」  
3「…っておい、ソウジ!!チーズが全く溶けてない状態ででて来たぞ!？」  
4「この鍋の中はどうなっているんだい!?カブト!」  
1「これが天堂ミラクルですか、そうですか!？」  
6「お前は常識の破壊者か!？」  
2「…と言われてもな」

鍋その2…この中に仮面ライダー部のメンバーがいます  
1「かつカメラが壊れるなんて…有り得ねえ…」  
2「コズミックエナジーが働いたのか…!？」  
3「絶対違うでしょ!!」  
4「…」  
1「とにかく俺からとらせてもらっぜ!!…おりゃ!」  
5「なんだそれは…!？」  
6「あ、おでんの宇宙食だ!!」  
7「そんな宇宙食あるんすか!？」  
3「と言っかせめてパックから出しなさいよ!!」  
4「…」  
1「おい、賢吾、次とれよ」  
2「…お、おう…よっ」  
6「え…!？」  
5「何!？」  
2「バガミール!!??」  
3「ちよっ!?!何てものいれてるのあのマイペース!!」

予想外に分かりにくくなってしまったのでヒント：5はキングで7は神敬介エエエエ！！です。

鍋その3この中にフィリップ、翔太郎、映司、アंक、泉、大智、海斗、麻依がいます

1「なつ鳥、だと!？」 タンドリーチキンGET

2「え?なんでアイスがとけて無いんだ!？」 アイスGET

3「アंक、俺もアイス取れたから交換しよう!」 アイスGET

1「当たり前だ!」

2「あ!ずるい映司くん!!」

4「何このオースチームのアイス率!!一人(?)共食いだが」

5「あ、おっきなしゅうくりいむだあ!」 おっきなしゅうくりいむGET

6「ウソだろ!?!あ、良かった、俺は豆腐だ」 豆腐GET

4「...何で大智よりしょぼいの、俺!」 菊菜GET

7「...検索を」

8「始めなくていい!!」

鍋その4この中に比奈、小夜、マユ、夏海、リョウタロウ、アスム、ワタル、タクミがいます

1「...」 何かをGET

2「どうしたの?」

1「...!」 何かを戻す

3「わ、ワタル!キバットをお湯に戻さないで下さい!!」

1「取らなかつた事にするだけです」

23「「やめて上げて下さい!?!」」

4「ミツミカンって何これイジメですか...orz」 ミカンGET

5「...あ、桃が取れた」 桃GET

6「このおでん(卵)はお兄ちゃんが作ったモノかな?」 おでん

(卵)GET



新春あけおめSP！（だけど中身はそうでもない？）

映司「あけまして…」

全「「おめでとございまーす！」「」「」

弦太郎「って、なんで俺じゃ無く火野さんなんだ！？」

映司「あは」

賢吾「いや、それを言つと本来主役であるはず高見が何故それをしなかったのかが問題だと思う…」

大智「なんか…何時の間にか年あけたな…」 問題の高見

海斗「ほんとだよ…色々あったな」

麻依「まあ、主にあの人たちが原因なんだけどね…」

ワタル「ユウスケ！」 原因

ユウスケ「だからダメだって！」 原因

アスム「コーヒーいれました」 原因

タクミ「あ、ありがとう」 原因

海東「少年くんナイス！」 原因

士「あれ…俺の分は？」 元凶

カズマ「うえ？」 問題児

映司「うえーい」 問題児

翔太郎「何語！？オンドウル！？」 不憫

フィリップ「ヤレヤレ…」 問題児

ショウイチ「正月と言えば…おせちだろ！？なぜおでん！？」 不憫

ソウジ「ん？いや、おでんだろ」 超元凶

伊達「だよなあ」 超元凶

後藤「石頭石頭石頭石頭石頭石（ry」 石頭

シンジ「終焉終末終焉終末終焉終末終焉終（ry」 異世界病重症患者

辰巳シンジが異世界病なのはハルルさんのDCDRW及びスピノフをみれば分かります。辰巳シンジに癒しを！

ダイキ「…一人ドンマイな奴がいるぞ」

エリカ「せめて2人にしましょうよ」

ツバサ「ふふふのふー」 元凶

弦太郎「…いやー…本当にこんなメンバーと友達になれるのか…！？」

ユウキ「だいじょーぶ！弦ちゃんもキャラ強いから！」

弦太郎「それ褒めてるのか！？」

賢吾「そういえば…仮面ライダーフォーゼ見てて、俺の体弱い描写が全然無い気がするんだが？」

ソウジ「確か体が弱いから変身出来ないんだよね？」

賢吾「そうなんだが…なっ！」

弦太郎「どうした賢吾！？」

賢吾「……ガンバライドカード一枚なくなってる…！」

全「…オイコラ」

タクミ「と言うかガンバライドしてたんですか！？」

弦太郎「誰が盗った！？」

海東「フォーゼくん熱いね」

ワタル「そうですね、後でオホーツク海に突き落とします」

アスム「下手したらオホーツク海蒸発ですね！」

ユウスケ「いやいやそれ人間業じゃないから！マグマドーパントだ

から!!」

大文字「普通に考えて一番怪しいのは海東とか言っちゃつじゃないか？」

海東「今回は僕じゃない」

美羽「じゃあ…ワタルくん？」

ワタル「オホーツク海行きですね」

弦太郎「じゃ、誰だよ!？」

???「おはよー」

海バサ「おっはー」

全「誰かキターーーー!!」

大智「なあ、海斗とツバサに突っ込んでいいか？」

麻依「聞いた瞬間もうアウト!!」

明日無「ん？お前は…」

映司「もしかして…この前の？」

高野エイジ「おひさしぶりです!先輩!皆さん!!」

映司「あー!やっぱりー!…って俺先輩!？」

エイジ「ハイ!!」

日置ジン「お、おい、エイジ!お前盛大にネタバレ…!!」

エイジ「お正月だし、無礼講で行こうぜ、ジン!!」

ジン「…あー、もー!!」

弦太郎「もしかして…」

弦太郎「お前らが賢吾のガンバライドカードを!？」

エイジ「え?ガンバライドカードならさっき拾ったけど…コレ?」

賢吾「それだ!!そのフォーゼ!!」

美羽「ほんとフォーゼ好きね！」

野沢間「…この前…フォーゼ以外のカード全部捨ててた…」

JK「食わず嫌い！？ってか捨てるくらいなら売りましようよ！！」

弦太郎「早く返せ！！」

エイジ「はい、どーぞ」

弦太郎「サンキュ おう！賢吾！はい、カード！」

賢吾「傷ないな…怪我ないな…」

仮面ライダー部「」「過保護か！！」「」

明日無「困ったな…」

士「どうした？」

明日無「いや…」

ユウスケ「一月一日からしようとしてたけどミスって去年の大晦日から新連載の仮面ライダー×仮面ライダーのキャラクターでしょ？  
2人」

海斗「あれミスだったんだ！？」

明日無「うん…まあネタバレはいいんだが…ジンはともかくエイジはまだまだでないんだが…？」

エイジ「うん、だから今日は早く出してって頼みにきた」

明日無「無理」

エイジ「…ええ…」

明日無「無理だもん」

エイジ「まあ、いいや…とりあえず今日はそれともう一つ去年大晦日から始まる仮面ライダー×仮面ライダーの作成スタッフ一同の皆様一言頂こうと思ってきたんだ」

ジン「まあ俺たちも出るんだけどな」

エイジ「では、仮面ライダーディケイドメンバーから一言ずつ！」

## インタビューアー担当

ジン「主役2人は最後な。どうぞ!!」 マイク、カメラ担当

夏海「はい、夏海こと光夏海です。えーっとみなさん一話と二話まで公開されてるんですよ…ね?ご覧になっていただけたでしょうか?…私たちが最初に訪れた世界は?私たちはこれからどうなっていくのか?そしてですね、えー、スーパーネオショッカーの陰謀とは?と言うのがコレからどんどん明かされていくので楽しみにして下さい!」

ユウスケ「えー、みなさんこんにちは、小野寺ユウスケです。元気ですかー!!…ハイ、元気ですと言う声も聞こえてきました!えーっと…何言えばいいんだこれ…(笑)」

士「頑張ります!…って事くらい言ったらどうなんだ?(笑)」

ユウスケ「あ、そうか…うん、俺、頑張りますんで皆さん応援して下さい!!お願いします!!」

海東「次は僕、海東大樹だね!えーっとこれから僕がいたりたり戦ったりいただいたりしたり戦ったりするシーンが沢山あるからみんな、そして士、僕の活躍、見てくれたまえ!!」

エイジ「はい、ディケイドメンバーの皆さん、ありがとうございます!しました」

アスム「ギャグ要素が無いですね」

エイジ「そうだね、と言うわけで次はきつと面白くしてくれるよ!」

麻斗「ちよつとまってよ!」

エイジ「では麻依さんと海斗くんからどうぞ!」

ジン「なんか初回プレミア試写会みたいだなあ…ズーム」 カメラ弄る

麻依「え?私から?えっと…私の名前…知ってますよね…?佐原麻依です。こんにちわ!えっと、私はあんまり活躍出来ないと思うけ



ど大智達の活躍、しっかりとご覧下さい！」

海斗「みんなー！一之瀬海斗だよー！この仮面ライダー×仮面ライダーは皆さんに愛される様にスタッフ一同頑張っていきたいと思ってるんでハラハラドキドキして待っててね！あ、あと、俺の活躍、見逃さないでね！！」

エイジ「面白くなかったね…まあいつか」

ジン「ではこの作品の作者にもインタビューしてみよう…」

明日無「俺も！？え、えっと、作者の時流です。相変わらずの下手な文章ですし更新頻度も遅いですが読んで頂ければ幸いです。どうぞ暖かい目で読んで頂ければと思います。お願いいたします」

エイジ「そう言えば今回は新キャラが沢山でるらしいですよね」

明日無「そうですね。さて、皆さん、“エイジ”がいると言う事はデイクイド達は…？って事です」

ジン「あと他の作者さんからもキャラをお借りして書くそうだな」

明日無「朽麻呂さんと剣崎シンジさんからキャラをお借りして戦います！ですからかなり多くのライダーによる戦いが行われますよ！！」

エイジ「はい、そんなハラハラドキドキするかもしれない仮面ライダー×仮面ライダーの主人公、高見大智と門矢士に最後一言ずつ言ってもらいましょう！」

大智「えーっと、ご紹介に預かりました、高見大智です。この作品では俺もかなり活躍しますんで是非期待してて下さい…ってあんまり期待しすぎないで下さいね？」

士「主人公が弱気でどうする！次俺だな。俺は通りすがりの仮面ライダー、門矢士だ！今回でh」

エイジ「はいそれではインタビューは終了！お疲れ様で…」

士「いやいや俺！俺何も言っていない！！」

ジン「気にすんなもやし、お前の発言なんて誰も聞いてない」

士「ウソだ！」

全「「「え？」「」」

海東「僕は…フグツ！？」 ユウスケに口を押さえられた

ユウスケ「え？」 押さええつつ首を締めている

数分後

士「…orz」

海東「」 屍

エイジ「じゃ、俺達は今回からちよくちよくくる事にするよ」

ジン「本格的に来るのは仮面ライダー×仮面ライダーがある程度進んでからな」

エイジ「ではみんなまたねー！！」

士斗東「「仮面ライダー適性診断753号室！」「」

映リヨウ弦カズ「「いえーい！」「」

ユウシヨウ翔ジン「「ちよい待てええええい！？」」「」

大智「おお、やってるやってる」

麻依「酒盛りでもするのかな？」

エイジ「そうなの？先輩！」

映司「違うみたいだよ？」

後藤「……と言つか少しはネタバレを考えた方がいいんじゃないか

！？火野、高野！」

Wエイジ「「オーズ……」

ユウスケ「そもそも仮面ライダー適性診断753室ってなんなんだ  
！？」

翔太郎「この前の違うライダーになった企画とどう違うんだ！？」

士「まあ、怒るな怒るな。とりあえず、これが何なのか簡単に纏め  
たDVDがあるから……」

ユウ翔「「DVDかよ！？」」

海東「士！スクリーン準備出来たよ！！」

海斗「DVD、セタッブ！！」

士「じゃ、いくぞ……弦太郎！」

弦太郎「任せろ！ダチの願いは俺の願い！DVD……キター……  
！！」 スイッチオン！

シヨウイチ「その下り無駄だろお！？」

~~~~~以下DVD（語り手・門矢士）  
~~~~~

あれは…そう…正月の事だった…

士「正月って案外暇だよなーカズマ」

カズマ「うえーいチーズ（訳・だねー士）」

海斗「あ、士！DVD見ない？」

士「何のドラマだ？」

カズマ「うえい？（訳・ほえ？）」

海斗「花より 子」

士「そうか…なら翔太郎を…」

海斗「あー！ゴメンウソウソ！ホントはガチで探せ！君だけの仮面ライダーって奴。借りてきたんだ」

カズマ「うえーい（訳・いいねえ）」

士「そうか…じゃあ、見てみるか…」

〈視聴中〉

カズマ「うえうえーい！！（訳・シンジすげえ！）」

海斗「G3おかしいよ！？」

士「ってか先輩の 見ようとするなよ！？」

〈視聴後〉

海斗「中々面白かった」

士「意外とな…は！？」

カズマ「うえーズ？（訳・え？どうしたの？士）」

士「…心理テストでどの仮面ライダータイプか診断するって企画はどうだ？」

海斗「心理テストで仮面ライダー診断か…いいね！！」

カズマ「うえい！」

海東「その話、僕も乗ったよ!!」  
士「よし、じゃあやるぞー!」  
全「「「おー!!」」」

そう言うわけで今から心理テストで仮面ライダー適性診断をするぞ!

~~~~~終了~~~~~

士「さ、始めるか」

ユウ翔シヨウ「「「まてまてまてまてーい!!」」」

ジン「何をどう思っでそこにいたるんだ!？」

海東「分かったよ士!じゃあ、皆この心理テストを受けてね!」

ユウ翔シヨウジン「「「聞け!!」」」

1、ある日あなたは寝坊してしまっただ!!早くいかなくては大事な会議に間に合わない!朝食はどうする?

1・パン一枚啜えてダッシュ

2・冷静にしっかりとってから行く

3・仕方ないから抜き!

4・いつも食べてませんが何か?

5・ちよつとだけ食べて行く

映司「俺は皆意外に思うかもしれないけど毎朝食ってるよ」

翔太郎「旅先でも?」

映司「もちろん」

大智「…案外金持ってるんですか…」

2、あなたは今日好きな人とデートの約束をしました。その相手の最大の特徴は?

1・クール

2・気遣いが出来る

3・多才

4・賢いけどちょっと怖い

5・力持ち

アスム「僕は…2ですかね？」

ワタル「僕は4ですね」

アスム「え！？怖いらしいですよ！？」

ワタル「…僕が本当の怖さを教えてあげますよ…」

シンジ「アスムくんの為にもワタルくと近づかないほうがいいと思うんだ」

タクミ「まあ、大丈夫でしょう」

3、仮面ライダーと言えば？

1・戦わなくちゃ生きれない

2・人を守る

3・お仕事

4・偶然や奇跡が起こる

5・助け合い

翔太郎「6！街を泣かす奴を懲らしめる！！」

士「まんまお前じゃないか！！」

4、唯一無二の親友から相談を受けた、どんな内容？

1・彼女／彼氏と上手くいかない

2・そもそも親友は人に相談しない。

3・昇級出来ない／成績が上がらない

4・実は気になってる人がいるんだが…

5・楽しいことないかな？

5、あなたは誰かに褒められとても嬉しく思いました。さて、褒めてくれたのは誰？

1・親友、または同年代の友達

2・家族

3・上司、上級生

4・恋人

5・近所の人

士「ま、少ないがコレだけだ」

海東「さて、それでは1から4まででもっとも多い数字を挙げたまえ」

カズマ「うーん…3？」

アスム「2ですね」

ワタル「えーっと…4？」

翔太郎「6！」

大智「6！？…んー、俺は2かなあ？」

士「じゃ、診断するぞ！1が多いお前は辰巳シンジタイプ、仮面ライダー龍騎だ！」

シンジ「俺か…って俺の好きな人…クールってどう言うことだ！？」

海東「勿論、羽黒レンの事だよ！」

シンジ「レンさんはバディ！恋愛感情はない！」

リイマジ全（（嘘だ…））

シンジ「ワイリイマジ共、ちょっとこつち来い」

リイマジ全「「お前はエスパーか!?」」」

士「ま、完全に心理テスト省かれてるが詳しい説明を言つと龍騎タイプは熱い心を持っていて仕事熱心、一度動いたらそれが終わるまで行動するような人間と言えよう。また、恋愛事にも一途だ。一途故に浮気とかはしないだろえが疑心の気がありヤンデレタイプに陥りやすい。注意しとけよ！ちなみにラッキーカーは赤、身につけてたらしい事起こるかもな」

海東「さて、2が多かった君は天堂ソウジタイプ、仮面ライダーカブトだ」

ソウジ「ん？俺？」

海東「2の君はオールマイティに物事こなそうと思えば出来る力を持っているね。さらに頼りがいもある。いい奥さん、旦那さんになるだろう。また情け深く友情や恋愛には熱いね。だけど恋愛事などは鈍感になつてるかもしれない。もうちょっと周囲に目を向けてあげて？ラッキーカーは銀だよ、がんばりたまえ！」

海斗「3が多かった貴方は剣立カズマタイプ、仮面ライダーブレイドです！」

カズマ「うえーい」

海斗「プライド高く、完璧主義傾向があります。ですから一度プライドがズタズタになるとショックも大きいでしょう。そんな時は士達の言葉「ゼロからのスタート」を思い出して下さいね。恋愛も真面目に取り組める傾向があります！ラッキーカーは青！」



士「4を選んだお前は芦川シヨウイチタイプ、仮面ライダーアギトだ」

シヨウイチ「俺かい！？俺の番号の答えかなりヤバかったぞ！？」

士「（ぶっちゃけコレが1番少ないと思うんだが）シヨウイチタイプは真面目だけどヘタレの可能性があるぞ、特に恋愛面だな。奥手に回らずたまには自分からいって見たらどうだ？ラッキーカラーは黄色だ」

シヨウイチ「おいこらもやし、ヘタレってなんだ」

海東「5が多かった君は火野映司タイプ、仮面ライダーオーズだね」  
映司「俺かあ……」

海東「オーズの君は欲が少なく謙虚で親切な性格だ。人に頼まれると断れなくてついつい流されてしまうかもしれないね。断る時はしつかり断ることをオススメしよう。恋愛面は……頑張りたまえ！」  
シヨウイチ「ちょおい！適当だな！？」

海東「ラッキーカラーは虹色！！」  
シヨウイチ「いや、終わりかよ！！」

士「意外と大変だったな」

海東「まあ、楽しかったじゃないか」

海斗「あ、そうだ、『皆様にお願いがございます。現在ドタバタ耐戦ではご当地のお国自慢を募集しております。皆様が住んでいる県あるいわ隣県、あるいわ自分とは関係ないけど、この県のは良かった！などの情報を出来るだけ詳細に作者の方までお寄せ下さい』はい、大智」

大智「えーっと、『お寄せ頂いた意見を参考にしましてドタバタ耐戦のお国自慢スペシャル（仮）に使わせていただきます。応募方法は活動報告、感想、メッセージのどれでも構いません。特に住んで

る県をあまり公開したくない方はメッセージからご応募頂ければありがたいです。期間は未定ですができる限りお早い内にお願ひします」

海斗「皆様のご応募、お待ちしております！」

今回行った心理テストは心理テストと言いつつも心理学的根拠はありませんのでご注意下さい。

翔太郎「ってか6を選んだ人への配慮は!？」

全「「「お前だけだろ!」「」「」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1945w/>

---

仮面ライダーBEST×平成ライダー ～ギャグとリイマジとドタバタ耐戦！？～

2012年1月14日16時55分発行